

ふじみ野市埋蔵文化財調査報告 第19集

埼玉県ふじみ野市

市内遺跡群 18

2016年11月

ふじみ野市教育委員会

はじめに

ふじみ野市は平成 17 年 10 月に旧上福岡市と旧大井町が合併し、平成 27 年に 10 周年を迎え、今また新しい時代を歩みはじめています。

ふじみ野市は、都心から 30km 圏内という立地条件にあるため、昭和 30 年代ごろから激な開発の波が押し寄せ、企業の工場や研究所の進出、住宅の建設ラッシュ、大規模都市基盤整備事業が計画・実施されました。さらに、ふじみ野市となってからは、人口の増加も伴って周辺の自然・社会の環境は大きく変化しています。

新たな歴史を歩みはじめたふじみ野市内には、権現山古墳群や福岡河岸記念館、復元大井戸跡や旧大井村役場庁舎など、多くの文化財が存在し、2 万数千年前の旧石器時代から現代までの永い歴史をみることができます。

本報告書は、国・県からの補助金と民間開発に伴い各事業者の皆様からの費用負担を受けて実施した、「市内遺跡発掘調査」の成果を記録した報告書です。

今回、市内で発掘調査された成果を一冊の冊子にまとめることが出来ました。その成果は、店舗や住宅建設など、近年の開発ラッシュに伴い発掘されたものです。永い歴史の中で繰り返し住まいの地として利用されるということは、いつの時代でも、ふじみ野の地が住み良い土地であることの証明ともいえます。

こうして発見された新たな歴史の一部を、「夢のある心豊かな学びのまちづくり」のため、貴重な文化財を将来にわたって保存・継承し、地域の皆様や子供たちが、生涯にわたって地域の歴史や文化を学び続けられるよう目指してまいります。貴重な文化財と共に、本書が将来にわたって活用されれば幸いです。

おわりに、土地所有者、開発関係者の皆様には多大なご負担とご協力を賜りました。地域の文化財保護・保存についてのご理解をいただいたことに対し、深甚なる敬意と感謝を申し上げます。また、調査から本書刊行に至るまで、文化庁、埼玉県教育委員会生涯学習文化財保護課、市関係各課、調査関係者、そして各事業者の多くの皆様から、ご指導やご協力をいただきました。誌上をもって厚くお礼を申し上げます。

ふじみ野市教育委員会
教育長 朝倉 孝

例 言

1. 本書は、埼玉県ふじみ野市内に所在する遺跡群の2013（平成25）年度の試掘調査と発掘調査の報告書である。2013（平成25）年度に行った試掘調査、発掘調査および整理作業は総経費12,045,366円に対し国庫補助金（6,000,000円）、県費（2,000,000円）の補助金の交付を受け、2013（平成25）年4月4日から2014（平成26）年3月31日まで実施したものである。

2. 調査組織

調査主体者	ふじみ野市教育委員会	生涯学習課主幹兼上福岡歴史民俗資料館長
担当課	社会教育課文化財保護係 （平成25・26年度は上福岡歴史民俗資料館文化財保護係）	坪田幹男（2013.4.1～2015.3.31） 社会教育課副課長兼文化財保護係長 高崎直成（2013.4.1～）2016.4.1から兼務
教育長	矢島秀一（2010.3.19～2014.3.18） 朝倉孝（2014.4.1～）	文化財保護係調査担当者 高崎直成（2005.4.1～）
教育長職務代理	高山稔（2014.3.19～3.31）	鍋島直久（2005.4.1～）
部長	高山稔（2013.4.1～2014.3.31） 西郷雅美（2014.4.1～2015.3.31） 中野則之（2015.4.1～）	岡崎裕子（2015.4.1～） 庶務担当 岡健二（2015.4.1～2015.3.31） 柳澤健司（2014.4.1～2015.3.31）
課長	小林清（2015.4.1～2016.3.31） 佐藤龍司（2016.4.1～）	橋本祐可子（2015.4.1～） 発掘調査員補 越村篤（2014.4.1～2015.9.30） 鎌田翔（2015.11.2～） 臨時任命職員 高橋京子（2005.4.1～）

3. 本書作成にあたっての作業分担は事実報告及び遺構、遺物の執筆を鍋島、遺物の観察表作成を鎌田翔が担当し、報告書作成全般にわたり高崎、岡崎、越村、笹森健一（ふじみ野市文化財保護審議会委員）の協力を得た。整理作業の分担は次のとおりである。遺物接合・復元：中田藤子、川中ひろみ。石器実測：岩城英子、大久保明子、鎌田翔。土器実測・拓本：明石千とせ、佐竹里佳、鈴木千恵子、深谷美奈子、松平静、山内康代。遺構・遺物図トレース：小林登喜江。図版作成：青山奈保美、須藤さち子、高橋けい子、丹治つや子。遺構写真：鍋島直久、越村篤。遺物写真：大久保明子。遺構図版作成の一部を株式会社中野技術に、石器実測の一部を株式会社東京航業に委託した。松山遺跡、駒林遺跡の遺物について、青山学院大学手塚直樹先生、岩井浩人先生にご教示を賜りました。記してお礼申し上げます。

4. 各遺跡の調査から報告書刊行にいたるまで下記の諸氏・機関より御指導・ご協力を賜った。（敬称略）

天ヶ嶋岳、上田寛、越前谷理、大久保淳、大屋道則、岡田賢治、加藤秀之、神木繁嘉、久津間文隆、國見徹、隈本健介、酒井智晴、笹森健一、佐藤一也、佐藤啓子、塩野敏和、鈴木清、高木文雄、田中信、中村愛、原口雅樹、早坂廣人、比嘉洋子、平野寛之、藤波啓啓、堀善之、松尾鉄城、水村孝行、柳井章宏、和田晋治、埼玉県教育委員会市町村支援部生涯学習文化財課、上福岡歴史民俗資料館、大井郷土資料館




5. 発掘調査ならびに整理作業参加者は下記の皆様である。記して厚く感謝の意を表したい。（敬称略）

青山奈保美、明石千とせ、新井和枝、飯塚忠津子、飯塚泰子、壺岐久子、石垣ゆき子、井上晴江、井上麻美子、岩城英子、白井孝、大久保明子、岡良子、鎌田翔、川中ひろみ、小池恵美子、小林登喜江、坂本民子、佐竹里佳、重田恵子、鈴木勝弘、鈴木千恵子、須藤さち子、関田成美、高橋けい子、高貝しづ子、丹治つや子、當山りえ、中川圭子、中田藤子、野岡由紀子、橋本明美、比嘉洋子、深谷美奈子、福田美枝子、松平静、山内康代、矢作梓、米田昇三、若林紀美代

凡 例

1. 本書の遺構・遺物挿図の指示は以下のとおりである。

- (1) 縮尺は原則として、遺構配置図 1:300、遺構平面図・遺物出土状況図 1:60、1:30、炉などの詳細図 1:30、土器実測図 1:4、土器拓影図 1:4、石器実測図 1:4、2.3、銭 1:1 である。
- (2) 遺構断面図の水糸高は海拔高を示す。明記していないのは同図版中の前遺構の海拔高に同じ。
- (3) 遺構図における screen-tone の指示、遺物出土状況のドットの指示は、

擾乱		地山 (ローム)		焼土	
土器	●	石器	★	黒曜石・チャート	▲
				礫	○
				炭	■
- (4) 土器断面図は、■が繊維含有、●が雲母粒を含有する縄文土器を表わしている。
- (5) 遺構・遺物実測図中の▲マークは、図の接続、結合を示す。

2. 住居跡名は、遺跡内の通し番号である。

3. 本報告にかかる出土品及び記録図面・写真等は一括してふじみ野市教育委員会に保管してある。

埼玉県ふじみ野市
市内遺跡群 18 目次

はじめに	i		
例 言	ii		
凡 例	iii		
目 次	iv		
特別目次	v		
表 目 次	vi		
写真図版目次	vii		
第 1 章 遺跡と調査の概要	1	第 13 章 江川東遺跡の調査	58
Ⅰ 調査に至る経緯	1	Ⅰ 遺跡の立地と環境	58
Ⅱ 立地と環境	3	Ⅱ 江川東遺跡第 20 地点	58
Ⅲ 市内の遺跡	4	Ⅲ 江川東遺跡第 21 地点	59
第 2 章 鶴ヶ河遺跡の調査	8	第 14 章 東久保遺跡の調査	60
Ⅰ 遺跡の立地と環境	8	Ⅰ 遺跡の立地と環境	60
Ⅱ 鶴ヶ河遺跡第 5 地点	8	Ⅱ 東久保遺跡第 71 地点	60
第 3 章 川崎遺跡の調査	10	第 15 章 駒林遺跡の調査	63
Ⅰ 遺跡の立地と環境	10	Ⅰ 遺跡の立地と環境	63
Ⅱ 川崎遺跡第 40 地点	12	Ⅱ 駒林遺跡第 29 地点	63
第 4 章 ハケ遺跡の調査	13	Ⅲ 駒林遺跡第 30 地点	69
Ⅰ 遺跡の立地と環境	13	Ⅳ 駒林遺跡第 31 地点	70
Ⅱ ハケ遺跡第 13 地点	13	Ⅴ 駒林遺跡第 32 地点	70
Ⅲ ハケ遺跡第 14 地点	14	第 16 章 福岡新田遺跡の調査	72
第 5 章 上福岡貝塚の調査	15	Ⅰ 遺跡の立地と環境	72
Ⅰ 遺跡の立地と環境	15	Ⅱ 福岡新田遺跡第 5 地点	72
Ⅱ 上福岡貝塚第 2 地点	17	第 17 章 鷺森遺跡の調査	74
第 6 章 稚地山遺跡の調査	18	Ⅰ 遺跡の立地と環境	74
Ⅰ 遺跡の立地と環境	18	Ⅱ 鷺森遺跡第 5 地点	75
Ⅱ 稚地山遺跡第 24 地点	18	第 18 章 西ノ原遺跡の調査	76
第 7 章 滝遺跡の調査	20	Ⅰ 遺跡の立地と環境	76
Ⅰ 遺跡の立地と環境	20	Ⅱ 西ノ原遺跡第 150 地点 (組 1-14-17)	76
Ⅱ 滝遺跡第 22 地点	20	Ⅲ 西ノ原遺跡第 155 地点	91
Ⅲ 滝遺跡第 23 地点	21	Ⅳ 西ノ原遺跡第 156 地点	92
第 8 章 西原遺跡の調査	23	Ⅴ 西ノ原遺跡第 157 地点	95
Ⅰ 遺跡の立地と環境	23	Ⅵ 西ノ原遺跡第 158 地点	95
Ⅱ 西原遺跡第 3 地点	23	Ⅶ 西ノ原遺跡第 159 地点	96
第 9 章 長谷遺跡の調査	25	Ⅷ 西ノ原遺跡第 168 地点	96
Ⅰ 遺跡の立地と環境	25	第 19 章 中沢前遺跡の調査	99
Ⅱ 長谷遺跡第 45 地点	25	Ⅰ 遺跡の立地と環境	99
Ⅲ 長谷遺跡第 46 地点	26	Ⅱ 中沢前遺跡第 31 地点	99
Ⅳ 長谷遺跡第 47 地点	29	第 20 章 神明後遺跡の調査	101
第 10 章 鶴ヶ舞遺跡の調査	30	Ⅰ 遺跡の立地と環境	101
Ⅰ 遺跡の立地と環境	30	Ⅱ 神明後遺跡第 50 地点	101
Ⅱ 鶴ヶ舞遺跡第 25 地点 (計 18 地点)	30	第 21 章 苗間東久保遺跡の調査	104
Ⅲ 鶴ヶ舞遺跡第 19 地点	30	Ⅰ 遺跡の立地と環境	104
Ⅳ 鶴ヶ舞遺跡第 20 地点	31	Ⅱ 苗間東久保遺跡第 31 地点	104
Ⅴ 鶴ヶ舞遺跡第 21 地点	31	第 22 章 浄禪寺跡遺跡の調査	106
第 11 章 松山遺跡の調査	33	Ⅰ 遺跡の立地と環境	106
Ⅰ 遺跡の立地と環境	33	Ⅱ 浄禪寺跡遺跡第 38 地点	106
Ⅱ 松山遺跡第 69 地点	33	Ⅲ 浄禪寺跡遺跡第 39 地点	107
Ⅲ 松山遺跡第 70 地点	38	第 23 章 大井宿遺跡の調査	109
Ⅳ 松山遺跡第 75 地点 (試掘調査・本調査)	39	Ⅰ 遺跡の立地と環境	109
Ⅴ 松山遺跡第 76 地点 (試掘調査・本調査)	40	Ⅱ 大井宿遺跡第 17 地点	109
Ⅵ 松山遺跡第 71 地点	45	第 24 章 東台遺跡の調査	111
Ⅶ 松山遺跡第 72 地点	48	Ⅰ 遺跡の立地と環境	111
Ⅷ 松山遺跡第 73 地点 (試掘調査・本調査)	49	Ⅱ 東台遺跡第 57 地点	112
Ⅷ 松山遺跡第 74 地点	50	第 25 章 2013 年度の調査について	113
Ⅸ 松山遺跡第 77 地点	52	写真図版	115
第 12 章 江川南遺跡の調査	56	報告書目録	157
Ⅰ 遺跡の立地と環境	56		
Ⅱ 江川南遺跡第 26 地点	56		

挿目 目次

第1図	ふじみ野市の位置と周辺の地形	4	第46図	東久保遺跡の地形と調査区(1/4,000)	60
第2図	ふじみ野市遺跡分布図(1/30,000)	6	第47図	東久保遺跡第71地点遺構配置図(1/300)、土層(1/150)	62
第3図	鶴ヶ岡遺跡の地形と調査区(1/4,000)	8	第48図	駒林遺跡の地形と調査区(1/5,000)	63
第4図	鶴ヶ岡遺跡第5地点調査区域図(1/300)、土層(1/60)	9	第49図	駒林遺跡遺構分布図(1/2,000)	65
第5図	川崎遺跡の地形と調査区(1/4,000)	10	第50図	駒林遺跡第29地点遺構配置図(1/500)、土坑(1/60)	66
第6図	川崎遺跡第40地点調査区域図(1/300)、土層(1/150)、出土遺物(1/4)	12	第51図	駒林遺跡第29地点土溝(1/80)	67
第7図	ハケ遺跡の地形と調査区(1/4,000)	13	第52図	駒林遺跡第29地点出土遺物(1/4)	68
第8図	ハケ遺跡第13・14地点調査区域図(1/300)、土層(1/150)	14	第53図	駒林遺跡第30地点遺構配置図(1/300)、土層(1/150)、ピット(1/60)・69	
第9図	遺構配置図(1/2,500)	16	第54図	駒林遺跡第32地点調査区域図(1/300)、土層(1/150)	70
第10図	上福岡貝塚第2地点遺構配置図(1/3,000)	17	第55図	駒林遺跡第31地点遺構配置図(1/300)、溝(1/80)	71
第11図	磯山山道跡の地形と調査区(1/4,000)	18	第56図	福岡新田遺跡の地形と調査区(1/4,000)	72
第12図	磯山山道跡第24地点調査区域図(1/300)、土層(1/150)、出土遺物(1/4)	19	第57図	福岡新田遺跡第5地点調査区域図(1/300)、土層(1/150)、出土遺物(1/4)	73
第13図	滝遺跡の地形と調査区(1/4,000)	20	第58図	鷺森遺跡の地形と調査区(1/4,000)	74
第14図	滝遺跡第22・23地点調査区域図(1/300)、土層(1/150)	22	第59図	鷺森遺跡第5地点調査区域図(1/800)、土層(1/60)	75
第15図	西原遺跡の地形と調査区(1/4,000)	23	第60図	西ノ原遺跡の地形と調査区(1/4,000)	76
第16図	西原遺跡第3地点遺構配置図(1/300)、土層(1/150)、落とし穴(1/60)、 出土遺物(1/4)	24	第61図	西ノ原遺跡遺構分布図(1/2,000)	80
第17図	長宮遺跡の地形と調査区(1/4,000)	25	第62図	西ノ原遺跡第150地点遺構配置図(1/300)	81
第18図	長宮遺跡遺構分布図(1/2,500)	27	第63図	西ノ原遺跡第150地点4・139・213号住居跡・遺物出土状況(1/60)	83
第19図	長宮遺跡第45地点遺構配置図(1/300)、溝(1/80)、出土遺物(1/4・1/6)・ 28				
第20図	長宮遺跡第46・47地点調査区域図(1/300)、土層(1/150)、第46地点 出土遺物(1/4)	29	第64図	西ノ原遺跡第150地点4号住居跡(1/60)	84
第21図	鶴ヶ岡遺跡の地形と調査区(1/4,000)	30	第65図	西ノ原遺跡第75地点139号住居跡・遺物出土状況(1/60)	85
第22図	鶴ヶ岡遺跡第19～21・25地点調査区域図(1/300)、土層(1/150)	32	第66図	西ノ原遺跡第75・150地点139号住居跡跡(1/30)	86
第23図	松山道跡の地形と調査区(1/4,000)	33	第67図	西ノ原遺跡第150地点213号住居跡跡・埋裏(1/30)、土坑・ピット(1/60)	87
第24図	松山道跡遺構分布図(1/3,000)	35	第68図	西ノ原遺跡第75地点139号住居跡出土遺物(1/4)	88
第25図	松山道跡第69地点遺構配置図(1/500)、集石土坑(1/30)、溝(1/80)、 出土遺物(1/4)	37	第69図	西ノ原遺跡第150地点213号住居跡出土遺物(1/4)	89
第26図	松山道跡第70・75・76地点遺構配置図(1/300)、溝(1/60)	39	第70図	西ノ原遺跡第150地点出土遺物(1/4・2/3)	90
第27図	松山道跡第70・76地点H44号住居跡・掘方(1/60)	41	第71図	西ノ原遺跡第155地点調査区域図(1/300)、土層(1/150)、第156地点 遺構配置図(1/500)	91
第28図	松山道跡第76地点H44号住居跡(1/30)、第75地点H46号住居跡・ 掘方(1/60)	42	第72図	西ノ原遺跡第156地点193号住居跡(1/60)、埋裏(1/30)、出土遺物(1/4・ 2/3)	92
第29図	松山道跡第70地点集石土坑・遺物出土状況(1/30)、井戸(1/60)	43	第73図	西ノ原遺跡第156地点ピット・溝(1/120)、土層(1/80)	93
第30図	松山道跡第70地点溝・第76地点土坑・井戸・溝(1/60)	44	第74図	西ノ原遺跡第157地点遺構配置図(1/300)、溝(1/80)、出土遺物(1/4)	94
第31図	松山道跡第76地点土坑・井戸・溝(1/60)	45	第75図	西ノ原遺跡第158・159地点遺構配置図(1/300)、土層(1/150)	97
第32図	松山道跡第70・75・76地点出土遺物(1/4)	46	第76図	西ノ原遺跡第158地点出土遺物(1/4)	98
第33図	松山道跡第76地点出土遺物(1/4)	47	第77図	西ノ原遺跡第168地点調査区域図(1/300)、土層(1/150)、出土遺物(1/4・ 2/3)	98
第34図	松山道跡第71地点遺構配置図(1/300)、土層(1/150)、ピット(1/60)、 出土遺物(1/4・1/1)	48	第78図	中沢前遺跡の地形と調査区(1/4,000)、第31地点調査区域図(1/300)、土層 (1/150)	99
第35図	松山道跡第72地点調査区域図(1/300)	48	第79図	神明後遺跡の地形と調査区(1/4,000)	101
第36図	松山道跡第73地点遺構配置図(1/300)、土層(1/150)、H45号住居跡遺物 出土状況(1/60)、出土遺物(1/4)	49	第80図	神明後遺跡第50地点遺構配置図(1/300)、土層(1/150)、土坑(1/60)、 出土遺物(1/4)	103
第37図	松山道跡第74地点遺構配置図(1/300)、集石土坑・土坑・井戸・ピット・ 溝(1/60)、出土遺物(1/4)	51	第81図	高岡東久保遺跡の地形と調査区(1/4,000)	104
第38図	松山道跡第77地点遺構配置図(1/300)、H47号住居跡・遺物出土状況・ 掘方(1/60)	52	第82図	高岡東久保遺跡第31地点遺構配置図(1/300)、土層(1/150)、土坑(1/60)	105
第39図	松山道跡第77地点H47号住居跡跡・遺物出土状況・掘方(1/30)	53	第83図	浄神寺遺跡の地形と調査区(1/4,000)	106
第40図	松山道跡第77地点土坑(1/60)	54	第84図	浄神寺遺跡第38地点遺構配置図(1/300)、土層(1/150)	108
第41図	松山道跡第77地点出土遺物(1/4)	55	第85図	浄神寺遺跡第39地点遺構配置図(1/500)、溝(1/80)	108
第42図	江川南遺跡の地形と調査区(1/4,000)	56	第86図	大井宿遺跡の地形と調査区(1/4,000)	109
第43図	江川南遺跡第26地点調査区域図(1/300)、土層(1/150)	57	第87図	大井宿遺跡第17地点遺構配置図(1/300)、土坑(1/60)、出土遺物(1/4)	110
第44図	江川東遺跡の地形と調査区(1/4,000)	58	第88図	東台遺跡の地形と調査区(1/5,000)	111
第45図	江川東遺跡第20・21地点調査区域図(1/300)、第21地点土層(1/150)	59	第89図	東台遺跡第57地点調査区域図(1/300)、土層(1/150)	112

表 目 次

第1表	過去3年間の調査件数と面積一覧表	1
第2表	2013(平成25)年度埋蔵文化財調査一覧表	2
第3表	2013(平成25)年度立会い調査一覧表1(埋蔵文化財包蔵地内)	3
第4表	2013(平成25)年度立会い調査一覧表2(埋蔵文化財包蔵地外)	3
第5表	ふじみ野市道跡一覧表	7
第6表	縄文時代中前期層別対比表	7
第7表	鶴ヶ河遺跡調査一覧表	9
第8表	川崎遺跡調査一覧表	11
第9表	ハケ遺跡調査一覧表	14
第10表	上福岡貝塚調査一覧表	15
第11表	権地山遺跡調査一覧表	19
第12表	滝遺跡調査一覧表	21
第13表	西原遺跡調査一覧表	24
第14表	長宮遺跡調査一覧表	26
第15表	鶴ヶ舞遺跡調査一覧表	31
第16表	松山遺跡調査一覧表	34
第17表	松山遺跡古代住居跡一覧表	36
第18表	松山遺跡第69地点集石土坑・出土遺物観察表	37
第19表	松山遺跡第70地点集石土坑・出土遺物観察表	43
第20表	松山遺跡第70・75・76地点出土遺物観察表	47
第21表	松山遺跡第73地点出土遺物観察表	50
第22表	松山遺跡第74地点集石土坑・出土遺物観察表	50
第23表	松山遺跡第77地点出土遺物観察表	55
第24表	江川南遺跡調査一覧表	57
第25表	江川東遺跡調査一覧表	58
第26表	東久保遺跡調査一覧表	61
第27表	駒林遺跡調査一覧表	64
第28表	駒林遺跡第29地点出土遺物観察表	69
第29表	福岡新田遺跡調査一覧表	73
第30表	鷺森遺跡調査一覧表	74
第31表	西ノ原遺跡調査一覧表	77
第32表	西ノ原遺跡住居跡一覧表	78
第33表	西ノ原遺跡第150地点4・139・213号住居跡ビット一覧表	86
第34表	西ノ原遺跡第150地点出土石器観察表	90
第35表	西ノ原遺跡第156・157地点溝一覧表	95
第36表	西ノ原遺跡第158地点出土石器観察表	96
第37表	中沢原遺跡調査一覧表	100
第38表	神明後遺跡調査一覧表	102
第39表	神明後遺跡第50地点出土遺物観察表	103
第40表	苗圃東久保遺跡調査一覧表	105
第41表	浄禪寺跡遺跡調査一覧表	107
第42表	大井宿遺跡調査一覧表	110
第43表	東台遺跡調査一覧表	112

写真図版目次

写真図版1	鶴ヶ河遺跡第5地点、川崎遺跡第40地点	115
写真図版2	ハケ遺跡第13・14地点、上福岡貝塚第2地点(1)	116
写真図版3	上福岡貝塚第2地点(2)	117
写真図版4	上福岡貝塚第2地点(3)	118
写真図版5	上福岡貝塚第2地点(4)	119
写真図版6	上福岡貝塚第2地点(5)、権地山遺跡第24地点	120
写真図版7	滝遺跡第22・23地点、西原遺跡第3地点(1)	121
写真図版8	西原遺跡第3地点(2)、長宮遺跡第45地点(1)	122
写真図版9	長宮遺跡第45地点(2)・46・47地点、鶴ヶ舞遺跡第19地点	123
写真図版10	鶴ヶ舞遺跡第20・21・25地点、松山遺跡第69地点(1)	124
写真図版11	松山遺跡第69地点(2)	125
写真図版12	松山遺跡第70地点(1)	126
写真図版13	松山遺跡第70地点(2)・75地点(1)	127
写真図版14	松山遺跡第76地点(1)	128
写真図版15	松山遺跡第76地点(2)	129
写真図版16	松山遺跡第76地点(3)	130
写真図版17	松山遺跡第70地点(3)・75地点(2)・76地点(4)	131
写真図版18	松山遺跡第71地点・73地点(1)	132
写真図版19	松山遺跡第73地点(2)・74地点(1)	133
写真図版20	松山遺跡第74地点(2)・77地点(1)	134
写真図版21	松山遺跡第77地点(2)	135
写真図版22	松山遺跡第77地点(3)、江川南遺跡第26地点(1)	136
写真図版23	江川南遺跡第26地点(2)、江川東遺跡第20・21地点	137
写真図版24	東久保遺跡第71地点、駒林遺跡第29地点(1)	138
写真図版25	駒林遺跡第29地点(2)	139
写真図版26	駒林遺跡第29地点(3)	140
写真図版27	駒林遺跡第29地点(4)・30地点	141
写真図版28	駒林遺跡第31地点(1)	142
写真図版29	駒林遺跡第31地点(2)・32地点	143
写真図版30	福岡新田遺跡第5地点、鷺森遺跡第5地点	144
写真図版31	西ノ原遺跡第150地点(1)	145
写真図版32	西ノ原遺跡第150地点(2)	146
写真図版33	西ノ原遺跡第150地点(3)	147
写真図版34	西ノ原遺跡第150地点(4)・155地点	148
写真図版35	西ノ原遺跡第156地点(1)	149
写真図版36	西ノ原遺跡第156地点(2)・157地点(1)	150
写真図版37	西ノ原遺跡第157地点(2)・158地点(1)	151
写真図版38	西ノ原遺跡第158地点(2)	152
写真図版39	西ノ原遺跡第158地点(3)・168地点	153
写真図版40	中沢原遺跡第31地点、神明後遺跡第50地点、苗圃東久保遺跡第31地点	154
写真図版41	浄禪寺跡遺跡第38・39地点、大井宿遺跡第17地点(1)	155
写真図版42	大井宿遺跡第17地点(2)、東台遺跡第53地点、整理作業	156

第1章 遺跡と調査の概要

I 調査に至る経過

埼玉県ふじみ野市は、首都圏 30 km 圏内の県南西部に位置する。2005（平成 17）年 10 月 1 日に、上福岡市と大井町が合併して誕生した。面積 14.64 ㎢、人口は 2016（平成 28）年 7 月現在 113,297 人である。

旧上福岡市地域では明治・大正時代頃までは畑作と稲作、旧大井町地域では畑作を中心とする農村地帯であった。また、近世以降は川越街道（大井宿）や新河岸川（福岡河岸）、東武東上線（上福岡駅）などの交通網が発達した交通の要所でもあった。

昭和初期の太平洋戦争時には、旧福岡村に通信施設や旧日本陸軍造兵廠東京工廠福岡工場（火工廠）が建設され、戦後の昭和 30 年代以降には各市町で中・小の宅地開発や大規模な団地が誕生し人口が急増した。また企業の工場や研究所も多数進出してきた。昭和 60 年代以降、旧大井町地域では大規模な土地区画整理事業が進み、埋蔵文化財の発掘調査も行われた。現在は上福岡駅周辺の再開発と、ふじみ野駅周辺の民間開発が活発に行われている。

ふじみ野市では平成 17 年から国庫・県費の補助を受けて、「市内遺跡群発掘調査事業」（旧上福岡市、旧大井町では昭和 53 年度から合併まで）として試掘・確認調査及び個人住宅建設に伴う発掘調査を実施してきた。また民間の開発に伴う本調査も原因者と協議の上、協定書並びに契約書を締結し原因者負担のもと、市教育委員会が主体となって本調査を実施している。

埋蔵文化財の調査は、庁内関係各課と連絡調整を行い、農業委員会事務局からの農地転用許可申請段階、

建設課（民間の指定確認検査機関含む）への建築確認申請段階、都市整備課からの開発行為の事前申請段階等でそれぞれチェックされる。その後、教育委員会では開発主体者または土地所有者から「埋蔵文化財包蔵地の開発事前協議書」（以下「埋蔵文化財事前協議書」）の提出を受けて事前協議を行った。埋蔵文化財包蔵地内及びその縁辺部の申請に対して遺跡地図と照合のうえ、現地踏査を実施し現地の状況を確認の上、遺跡に影響を及ぼすと思われる開発行為に対して申請者に連絡をして協議を行った。

協議後、文化財保護法第 99 条第 5 項にもとづき、民間・公共事業を問わず確認調査については全て公費で対応し、埋蔵文化財包蔵地の詳細な範囲の把握を積極的に実施している。また専その個人の用に供する住宅（個人住宅）の建設に伴う発掘調査についても、教育委員会が発掘調査主体者となって調査を実施した。

2013 年度の試掘及び発掘調査は第 2 表のとおりで、国庫・県費補助事業対象の調査 13 件である。また、試掘調査の結果、個人住宅建設に伴う本調査 3 件、公共事業に伴う本調査 2 件、民間開発に伴う本調査 6 件を行った。開発面積は 86,664 ㎡で、そのうち実質調査面積は試掘 12,572（本調査面積 3,331）㎡である。過去 3 年間の調査件数と調査面積を第 1 表にあげてみる。

今後、中小規模の再開発を含む民間開発の増加が見込まれる中で、埋蔵文化財の保存及び活用と、調査体制の強化が求められるところである。

第 1 表 過去 3 年間の調査件数と面積一覧表

年度	件数・内訳	試掘件数	個人住宅 本調査件数	原因者負担 本調査件数	調査原因の内訳
		開発面積㎡	開発面積㎡	開発面積㎡	
2011（平成 23）年度		63 件	7 件	6 件	個人住宅 33、共同住宅 6、分譲住宅 16、宅地造成 1、公園整備 1、公民館 1、神社事務所 1、事務所 1、工場 1、店舗 2
		30,645	1,780	6,952	
2012（平成 24）年度		58 件	11 件	7 件	個人住宅 37、共同住宅 4、分譲住宅 8、宅地造成 1、道路 2、店舗 1、清掃センター 1、自治会館 1、駐車場 1、コンテナ設置 1、物置 1
		58,375	3,222	5,471	
2013（平成 25）年度		54 件	3 件	6 件	個人住宅 20、共同住宅 5、分譲住宅 13、宅地造成等 4、道路 4、店舗 4、高齢者デイサービスセンター等 2、神社事務所 1、苗圃築造 1
		86,664	769	63,501	

第2表 2013(平成25)年度埋蔵文化財調査一覧表

NO	遺跡・地点名	申請地住所	開発面積 (㎡)	試験面積	個人住宅 本調査面積 民間開発 本調査面積	原因	試験期間		調査内容
							本調査期間	調査内容	
1	鶴ヶ岡外遺跡第6地点	鶴ヶ岡5-195-1	4099.0	1795.4	165.5	高齢者介護 福祉施設	4/23~5/31 11/1~11/22	試験調査・本調査	
2	鶴ヶ岡遺跡第5地点	鶴ヶ岡3-1-1	235.5	1.0		神社事務所	6/25	試験調査	
3	川崎遺跡第40地点	川崎1-1-7	447.0	172.5		分譲住宅	10/11~17	試験調査	
4	八ヶ遺跡第7地点	福岡3-1479-1	712.4	34.7	520.0	分譲住宅	8/10~20 8/21~11/11	試験調査・本調査	
5	八ヶ遺跡第13地点	福岡3-1484-1	183.0	2.5		個人住宅	10/3	試験調査	
6	八ヶ遺跡第14地点	福岡3-1363-15	144.0	15.5		個人住宅	11/22	試験調査	
7	上福岡貝塚第2地点	福岡2-1500-74・73・8の一部	5448.8	3485.7	1830.0	建物解体・ 取壊・造成	6/20~10/8 11/5~3/11	試験調査・本調査	
8	権殿山遺跡第24地点	滝1-3-25	90.0	5.7		個人住宅	5/17	試験調査	
9	滝遺跡第22地点	滝1-1-40	114.0	19.0		個人住宅	7/30	試験調査	
10	滝遺跡第23地点	滝1-3-5の一部	37.0	38.0		個人住宅	2/12	試験調査	
11	西原遺跡第3地点	上ノ原1-2-25・57	578.0	209.5		個人住宅	4/4~11	試験調査	
12	長宮遺跡第44地点	中丸1-3-3, 1-4-5	2,128.0	513.0	165.0	分譲住宅	5/14~6/24 6/25~7/30	試験調査・本調査	
13	長宮遺跡第45地点	中丸1-3-17・18, 3-5の一部	223.0	70.0		道路	8/7~10	試験調査	
14	長宮遺跡第46地点(隣長地)	中丸2-22・13	488.0	155.0		高齢者デイ サービスセンター	9/6~10	試験調査	
15	長宮遺跡第47地点	上ノ原3-1-5	330.0	74.0		個人住宅	10/10	試験調査	
16	鶴ヶ岡遺跡第19地点	鶴ヶ岡1-79-25	94.6	31.3		分譲住宅	4/10	試験調査	
17	鶴ヶ岡遺跡第20地点	鶴ヶ岡1-69-70	68.6	18.0		個人住宅	5/13	試験調査	
18	鶴ヶ岡遺跡第21地点	鶴ヶ岡1-73-27・51・52・54	135.6	29.5		分譲住宅	10/23	試験調査	
19	鶴ヶ岡遺跡第25地点	福岡武蔵野1406-7・8・10・11	1,125.0	35.6		分譲住宅	5/2	試験調査	
20	松山遺跡第69地点	仲2-2-51・53・55	298.0	126.0		道路	9/10~11 9/12~17	試験調査・本調査	
21	松山遺跡第70地点	仲2-2-30・41	220.4	162.0		道路	4/11~16 4/17~23	試験調査・本調査	
22	松山遺跡第71地点	築地3-1-16・32・34	240.0	87.7		分譲住宅	4/30~5/1	試験調査	
23	松山遺跡第72地点	松山1-4-1	198.9	1.0		個人住宅	5/24	試験調査	
24	松山遺跡第73地点	築地3-1-56	165.0	45.0	5.0	個人住宅	8/19 8/20	試験調査・本調査	
25	松山遺跡第74地点	仲2-1-37	280.2	65.3		分譲住宅	12/24~26	試験調査	
26	松山遺跡第75地点	仲2-2-2・40	606.0	214.0		分譲住宅	1/14~20	試験調査	
27	松山遺跡第76地点	仲2-2-37	362.0	131.0		宅地造成	1/22~28	試験調査	
28	松山遺跡第77地点	松山2-6-2・3・12の各一部	493.0	95.0	22.8	個人住宅	3/3~11 3/13~26	試験調査・本調査	
29	江川南遺跡第26地点	東久保1-183-14	99.2	22.5		個人住宅	9/24~9/26	試験調査	
30	江川東遺跡第20地点	東久保1-160-29	71.9	11.0		分譲住宅	7/30	試験調査	
31	江川東遺跡第21地点	東久保1-180-1	57.0	30.5		分譲住宅	11/21~22	試験調査	
32	東久保遺跡第71地点	ふじみ野2-27-1・9	998.0	222.0		店舗	6/17~19	試験調査	
33	新林遺跡第28地点	新林元町1-3-8・14~16	1,208.1	61.6	99.0	分譲住宅	2013/2/21~25 5/21~27	試験調査・本調査	
34	新林遺跡第29地点	新林元町2-231-1	2,200.0	592.2		店舗	6/3~17	試験調査	
35	新林遺跡第30地点	新林元町1-3-7	68.2	28.0		個人住宅	6/19~20	試験調査	
36	新林遺跡第31地点	新林元町1-5-5・6	925.0	298.0		宅地造成	9/17~27	試験調査	
37	新林遺跡第32地点	新林元町2-1-16	132.0	21.0		個人住宅	2/10	試験調査	
38	福岡新田遺跡第5地点	新林寺寺脇852-2・7	153.0	37.2		個人住宅	12/18~19	試験調査	
39	福森遺跡第5地点	大字新林寺高平1271-3他	322.0	60.0		道路	10/3~8	試験調査	
40	西ノ原遺跡第150地点	旭1-14-17	111.0	—	69.0	個人住宅	2012/1/23~2/16 7/1~26	試験調査・本調査	
41	西ノ原遺跡第155地点	旭1-13-3・25	234.0	60.1		分譲住宅	10/21~22	試験調査	
42	西ノ原遺跡第156地点	旭1-17-1・2	2,345.1	867.9		店舗(工場併設)	11/26~12/9	試験調査	
43	西ノ原遺跡第157地点	旭1-6-3	602.0	220.5		分譲住宅	12/9~17	試験調査	
44	西ノ原遺跡第158地点	旭1-15-6の一部	739.0	249.0		共同住宅	1/7~14	試験調査	
45	西ノ原遺跡第159地点	旭1-15-8	869.0	335.0	455.0	共同住宅	1/30~2/10 3/4~5/2	試験調査・本調査	
46	西ノ原遺跡第168地点	旭1-13-20・23	76.8	21.0		店舗	10/21	試験調査	
47	中沢前遺跡第31地点	苗間1-10-5	381.0	147.0		共同住宅	5/8~10	試験調査	
48	神明後遺跡第50地点	苗間375	531.8	31.7		苗間稲荷堂	12/11	試験調査	
49	苗間東久保遺跡第31地点	苗間東久保644-6・7	220.0	14.0		個人住宅	1/20~28	試験調査	
50	苗間東久保遺跡第32地点	苗間寺神明屋334-1, 335-1他	2,989.0	1,010.5		共同住宅	3/6~3/27	試験調査	
51	浄輝寺跡遺跡第38地点	苗間寺東久保578-11	53.4	15.9		個人住宅	5/13~14	試験調査	
52	浄輝寺跡遺跡第39地点	苗間寺神明屋565-1	1,709.0	564.0		分譲住宅	6/25~7/3	試験調査	
53	大井宮遺跡第17地点	大井1-5-16	110.0	15.9		個人住宅	5/14	試験調査	
54	東台遺跡第57地点	大井宇東台644-9の一部	31.4	4.0		個人住宅	4/5~11	試験調査	
合計			86,664.8	12,572.4	3,331.3				

第3表 2013(平成25)年度立会い調査一覧表1(埋蔵文化財包蔵地内)

No.	遺跡・地点	申請種別	埋蔵面積㎡	時期	3区目	備考
1	餅屋跡	縄文・古墳	2,000	縄文・古墳	8区	埋蔵物解明して調査不可
2	古墳群	古墳	713.31	古墳	8区	1区・2区・3区・4区・5区
3	古墳群	古墳	300.00	古墳	7区	1区・2区・3区・4区・5区
4	古墳群	古墳	1,250.27	古墳	4区	1区・2区・3区・4区・5区
5	古墳群	古墳	374.04	古墳	8区	1区・2区・3区・4区・5区
6	古墳群	古墳	75.38	古墳	10区	1区・2区・3区・4区・5区
7	古墳群	古墳	1,936.52	古墳	7区	埋蔵物解明して調査不可
8	古墳群	古墳	58.45	古墳	13区	1区・2区・3区・4区・5区
9	古墳群	古墳	2,000	古墳	6区	埋蔵物解明して調査不可
10	古墳群	古墳	2,000	古墳	9区	埋蔵物解明して調査不可
11	古墳群	古墳	11,745.95	古墳	2区	1区・2区・3区・4区・5区
12	古墳群	古墳	2,000	古墳	10区	1区・2区・3区・4区・5区
13	古墳群	古墳	85.36	古墳	6区	1区・2区・3区・4区・5区
14	古墳群	古墳	202.89	古墳	8区	1区・2区・3区・4区・5区
15	古墳群	古墳	114.34	古墳	10区	埋蔵物解明して調査不可
16	古墳群	古墳	455.83	古墳	6区	1区・2区・3区・4区・5区
17	古墳群	古墳	40.00	古墳	6区	1区・2区・3区・4区・5区
18	古墳群	古墳	149.01	古墳	10区	1区・2区・3区・4区・5区
19	古墳群	古墳	149.85	古墳	7区	1区・2区・3区・4区・5区
20	古墳群	古墳	223.76	古墳	10区	埋蔵物解明して調査不可
21	古墳群	古墳	104.05	古墳	7区	1区・2区・3区・4区・5区
22	古墳群	古墳	1,900.01	古墳	10区	1区・2区・3区・4区・5区
23	古墳群	古墳	1,314.40	古墳	7区	1区・2区・3区・4区・5区
24	古墳群	古墳	1,500.00	古墳	13区	埋蔵物解明して調査不可
25	古墳群	古墳	1,316.00	古墳	13区	埋蔵物解明して調査不可
26	古墳群	古墳	7,500.00	古墳	10区	1区・2区・3区・4区・5区
27	古墳群	古墳	1.00	古墳	6区	埋蔵物解明して調査不可
28	古墳群	古墳	540.00	古墳	13区	埋蔵物解明して調査不可
29	古墳群	古墳	101.92	古墳	3区	1区・2区・3区・4区・5区
30	古墳群	古墳	103.00	古墳	10区	埋蔵物解明して調査不可
31	古墳群	古墳	75.00	古墳	10区	埋蔵物解明して調査不可
32	古墳群	古墳	370.99	古墳	2区	1区・2区・3区・4区・5区
33	古墳群	古墳	296.00	古墳	10区	埋蔵物解明して調査不可
34	古墳群	古墳	40.63	古墳	14区	1区・2区・3区・4区・5区
35	古墳群	古墳	141.40	古墳	12区	1区・2区・3区・4区・5区
36	古墳群	古墳	300.00	古墳	4区	埋蔵物解明して調査不可
37	古墳群	古墳	182.00	古墳	8区	1区・2区・3区・4区・5区

第4表 2013(平成25)年度立会い調査一覧表2(埋蔵文化財包蔵地外)

No.	遺跡・地点	申請種別	埋蔵面積㎡	時期	3区目	備考
1	古墳群	古墳	800.00	古墳	8区	1区・2区・3区・4区・5区
2	古墳群	古墳	11.00	古墳	13区	1区・2区・3区・4区・5区
3	古墳群	古墳	104.29	古墳	5区	1区・2区・3区・4区・5区
4	古墳群	古墳	1,000.00	古墳	10区	1区・2区・3区・4区・5区
5	古墳群	古墳	1,198.79	古墳	5区	1区・2区・3区・4区・5区
6	古墳群	古墳	184.40	古墳	10区	1区・2区・3区・4区・5区
7	古墳群	古墳	2,000.00	古墳	10区	1区・2区・3区・4区・5区
8	古墳群	古墳	124.00	古墳	7区	1区・2区・3区・4区・5区
9	古墳群	古墳	1,740.00	古墳	7区	1区・2区・3区・4区・5区
10	古墳群	古墳	390.00	古墳	4区	1区・2区・3区・4区・5区
11	古墳群	古墳	102.17	古墳	10区	1区・2区・3区・4区・5区
12	古墳群	古墳	1,046.00	古墳	10区	1区・2区・3区・4区・5区
13	古墳群	古墳	163.17	古墳	2区	1区・2区・3区・4区・5区
14	古墳群	古墳	1,637.10	古墳	2区	1区・2区・3区・4区・5区
15	古墳群	古墳	17,882.00	古墳	4区	1区・2区・3区・4区・5区
16	古墳群	古墳	2775.00	古墳	10区	1区・2区・3区・4区・5区

※埋蔵面積は1㎡未満のものは0.01として記載している。

II 立地と環境

ふじみ野市は埼玉県の南西部に位置し、市内には国道254号バイパス、東武東上線、川越街道(国道254号線)、関越自動車道といった、交通の幹線が北西から南東方向に平行して存在する。市内の開発はこうした幹線沿いや、東武東上線上福岡駅周辺、ふじみ野駅周辺を中心に進んでいるが、郊外には畑地や田園風景も多くみられる。

ふじみ野市を地形的にみると、武蔵野台地と荒川低地に大きく分かれ、旧大井町域は武蔵野台地縁部に位置し、旧上福岡市域は台地縁部から荒川低地の沖積地に広がる。

武蔵野台地は古多摩川が形成した扇状地で、扇頂部で標高180m、扇端部は標高15～20mで比高差10m前後の急斜面となって荒川低地に接している。台地には柳瀬川、黒目川、石神井川等の中河川が荒川低地へ向かって流れ、深い谷と沖積地を形成し、河川に沿って多くの遺跡が分布している。他にも多数の小河川が流れ、台地縁部を鋸歯状に開析することが多いが、中には急崖もなく、緩斜面のまま低地に接していくことがある。この緩斜面をもっとも低位の段丘面で、低位台地と呼ばれる。旧大井町地域を南北方向の断面図で

見ると、北と南に高台が続き、その中間に低位台地(大井台)がある。この大井台の中を3本の河川が東流し、河川の流域に遺跡が集中している。中でも砂川堀は狭山丘陵に流れを発する中河川で、本来大井台はこの砂川の段丘面と捉えることができる。また、福岡江川や富士見市との境を流れるさかい川、浄淨寺川などの小河川は市内に湧水をもつ。湧水は浅い窪地から発しており、こうした窪地の形成は従来から伏流水が再湧出したことによるものと、雨水からの流出によるものとの二通りが考えられている。

荒川低地は、荒川により形成された沖積地で、ふじみ野市の北東部から東部にかけて広がる。荒川の支流であった新河岸川は川越市周辺に水源を発しその流れはふじみ野市、富士見市、志木市、朝霞市を経て東京都にまたがる。武蔵野台地縁部を縫うように流れ、不老川、九十川、福岡江川、砂川堀、柳瀬川、黒目川、越戸川、白子川などの支川と合流し、現在は東京都北区で隅田川に合流する。低地部は平坦に見えるが、荒川や新河岸川の河川改修等で取り残された沼や、氾濫でできた旧河川(埋没河川)、自然堤防、後背湿地などの地形が存在する。

Ⅲ 市内の遺跡

ふじみ野市の遺跡分布をみると、台地上の中小河川沿いと荒川低地部を望む縁辺部、低地部分に分かれる。

市内の主な遺跡を時代順に河川ごとに概観する。

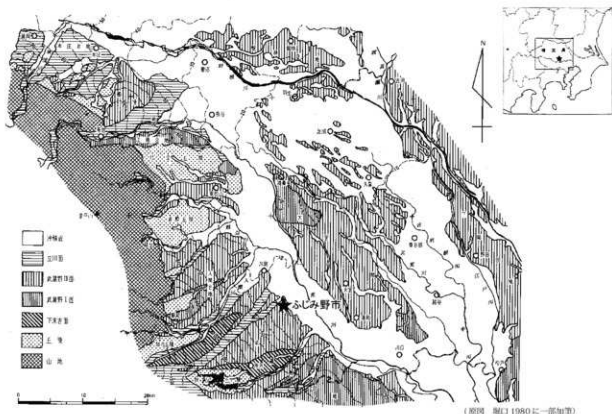
【旧石器時代・縄文時代】市の北側を流れる川越江川では、右岸高台に鶴ヶ岡外遺跡、鶴ヶ岡遺跡、八幡神社遺跡（川越市）が位置し、縄文時代中期の集落である西遺跡へ続く。鶴ヶ岡外遺跡では旧石器時代の石器群と礫群が出土し、八幡神社遺跡では縄文時代中期の住居跡などが検出されている。

藤岡江川・川越江川が新河岸川に合流する部分、荒川低地に張り出した舌状台地上に、川崎貝塚として著名な川崎遺跡が立地する。本遺跡ではローム層中からではないが旧石器時代の石器が出土し、縄文時代早期から後期の住居跡などを検出する。新河岸川は川崎遺跡を回り込み、低地部で台地東縁を沿うように流れる。台地東端は急峻を成し、崖線には縄文時代中期のハケ遺跡、学史上著名な前期集落の上福岡貝塚が形成され権現山遺跡へと続く。台地の南端、市立福岡中学校周辺はかつて「熊野山」と呼ばれ、湧出した水が丘上から流れ落ち溜になっていたため「滝地区」の名称が付いたとされる。清水は長宮水川神社の裏手（北側）を北に流れていたが現在は道路となっており、新

河岸川との合流部でその面影を残すのみである。滝遺跡、長宮遺跡はこの小河川に對峙して立地し、滝遺跡では前期の遺構と遺物を、長宮遺跡では前期関山期の集落跡が確認されている。

川越江川の1km南には福岡江川が流れ、新河岸川へ注ぐ。福岡江川の湧水地周辺域に縄文時代中期前半の集落である亀居遺跡が存在し、対岸にも中期前半の江川南遺跡がある。この2遺跡と鶴ヶ岡遺跡では、旧石器時代立川ローム第IV層の礫群と石器群を検出している。さらに市立亀久保小学校周辺では福岡江川に注ぐ埋没谷がみられ、東久保遺跡、亀久保跡遺跡、東久保西遺跡、東中学校西遺跡で旧石器時代から縄文時代中期の遺構と遺物が確認されている。川越江川最下流の新河岸川との合流部域には、前期集落の鷺森遺跡が存在する。

福岡江川の900m南には、富士見市との境にさかい川が流れ、3km下流で砂川堀と合流する。流域には縄文時代中期の拠点集落である西ノ原遺跡の他、10遺跡が存在する。旧石器時代の遺跡は西ノ原遺跡、中沢前遺跡、中沢遺跡・外記塚遺跡（富士見市）で立川ロームⅢ層～Ⅹ層の遺物が確認されている。縄文時代中期～後期の集落は時代を追うごとに、上流から下流域へ集落の拠点を移していく傾向がみられる。



第1図 ふじみ野市の位置と周辺の地形

さかい川の800m南に、都市下水道と化した砂川堀が流れる。砂川流域は大きく3ヶ所の地域で遺跡分布がみられる。砂川最上流域の狭山丘陵裾部、伏流水となりはじめる中流域、一旦地中に姿を消したあと再び湧水してくる下流域である。下流域のふじみ野市地域では、砂川右岸が段丘となり5～6mの急崖を形成する。この高台上には縄文時代中期の拠点集落である東台遺跡があり、旧石器時代の遺跡も西台遺跡から東台遺跡まで連続と続く。一方砂川左岸の低位台地では、市内で最古の時期であるA T降灰前(立川ローム第Ⅶ層)の石器を本村遺跡の微高地上から検出する。縄文時代中期には上流の小田久保遺跡で小規模な集落がみられ、本村遺跡では竈穴、落とし穴が散在する。

【弥生・古墳時代】 荒川低地を流れる新河岸川の自然堤防上に、弥生時代後期の環壕集落である伊佐島遺跡が立地する。新河岸川右岸、舌状台地崖線上の東端に立地する権現山遺跡は、縄文時代から中世までの複合遺跡で、縄文時代の住居跡も存在するが、主体は遺跡北東部と北西端に築造された古墳群と、古墳時代前期から奈良・平安時代にかけての集落跡である。北東部に築造された古墳時代前期の古墳群(埼玉県指定史跡権現山古墳群)は、方墳11基の他に古墳時代初期の前方後方墳(2号墳)1基である。また権現山古墳群北西端の台地縁辺部には、古墳時代中期の古墳群(通称権現山北古墳群)3基がある。ハケ遺跡第16地点の調査(2014)で、古墳の周溝から、6世紀後半頃とみられる複数の人物埴輪と、円筒埴輪が新たに発見されたが、古墳の形態や主体部については不明である。また第19地点の調査(2015)では6世紀代の円埴3基が新たに発見され、群集墳であることが判明した。

他に古墳時代の集落は川崎遺跡と上福岡貝塚、滝遺跡で確認されている。

【飛鳥・奈良・平安時代】 7世紀には、前述の舌状台地の西側、川崎遺跡の南西隣に川崎横穴墓群、さらに南約1.5kmの台地南側の崖線に、富士見台横穴墓群が存在する。集落は川崎遺跡、滝遺跡、松山遺跡、長宮遺跡など一段低い段丘面に展開し、川崎遺跡は10世紀前半まで、滝遺跡、松山遺跡は9世紀後半ごろまで続く。

8世紀代には前述の他、ハケ遺跡、上福岡貝塚、権現山遺跡、神明後遺跡、東久保南遺跡などで住居跡を検出する。8世紀中葉から9世紀前半まで、砂川堀右岸の台地縁辺部に東台遺跡の大規模な製鉄遺跡が現われ、周辺の遺跡でも木炭窯などが確認されている。さらに9世紀以降10世紀までは伊佐島遺跡、東台遺跡、西ノ原遺跡などで住居跡を検出している。またハケ遺跡からは鈔帯金具が、川崎遺跡からは瓦塔片と布目瓦などが出土しており注目される。

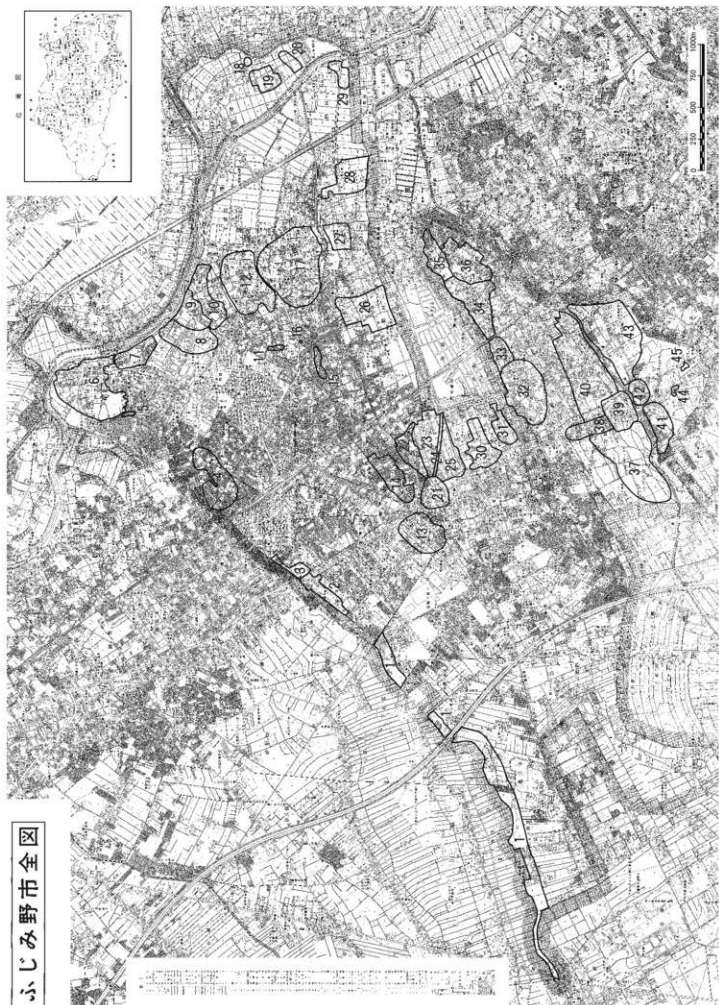
【中世】 駒林遺跡では14世紀代に造立された板碑の下に、蔵骨器が埋納された葺石墳墓を検出した。また本遺跡を囲む堀跡状の溝覆土層中から、茶毘跡などが確認されている。長宮遺跡、松山遺跡、本村遺跡などでは13～16世紀代の遺物を伴う遺構を検出する。特に本村遺跡では遺構を多数検出し、15世紀以降中世集落が発展したと思われる。

16世紀後半から17世紀前半では川崎遺跡、長宮遺跡、松山遺跡、神明後遺跡、浄禪寺跡遺跡などで屋敷地とみられる遺構を検出し、「新田」といった地名と共に開発の歴史を偲ばせる。特に城山遺跡は荒川低地の自然堤防上に立地し、周囲を方形に堀跡で囲む中世から近世の居館跡と思われる。

また、松山遺跡、駒林遺跡、亀久保堀跡遺跡、神明後遺跡では時期不詳の長大な堀跡が検出されている。

【近世】 近世以降の遺跡は、多数の遺跡で遺物などが確認されている。主な近世遺跡の分布は中世村落から続く集落跡や、街道沿いの宿場や新河岸川の河岸跡、寺院跡などにみられる。中でも、川越街道沿い大井宿の範囲にある大井氏館跡遺跡、大井戸上遺跡や大井宿遺跡、亀久保村地蔵院の江川南遺跡、旧苗間村の寺院跡である浄禪寺跡遺跡、長宮水川神社周辺の長宮遺跡、新河岸舟運で栄えた福岡河岸の福田屋などでまとまった遺構と遺物が確認されている。また鷺森遺跡で、近・現代の盛り土の中から陶磁器が多数出土しているが、埋め立ての為に他から持ち込まれた可能性がある。

近世以降では、昭和初期の旧日本陸軍の軍需工場である東京第一陸軍造兵廠川越製作所(通称造兵廠「火工廠」)の跡地で、防弾土塁・防空壕・水溜・消火栓・排水枘などの遺構や遺物が、近年の調査で確認されている。



第5表 ふじみ野市遺跡一覧表

No	遺跡名	主な時代	遺跡番号
1	鶴ヶ岡外遺跡	旧石器、縄文早期の集落跡	30-036
2	鶴ヶ岡遺跡	旧石器、縄文早期・中期の集落跡	30-047
3	西遺跡	縄文中期の集落跡	25-001
4	北野遺跡	縄文中期、奈良・平安の集落	25-002
5	川崎横穴墓群	古墳後期の横穴墓	25-004
6	川崎遺跡	旧石器、縄文前期・中期、古墳前期・中期、奈良・平安の集落跡	25-003
7	ハケ遺跡	縄文中期の集落跡、奈良・平安の集落跡、6世紀代の古墳群	25-005
8	上福岡貝塚	縄文前期、古墳前期、奈良・平安の集落跡	25-006
9	権見山遺跡群(古墳群)	古墳前期の集落跡・古墳群、縄文中期、奈良・平安の集落跡	25-007
10	滝遺跡	縄文時代、古墳前期・中期、奈良・平安の集落跡	25-008
11	西原遺跡	縄文の散布地	25-025
12	長宮遺跡	縄文前期、中・近世の集落跡	25-009
13	亀居遺跡	旧石器、縄文前期・中期の集落跡	30-030
14	鶴ヶ舞遺跡	旧石器、縄文中期、奈良・平安の集落跡	30-046
15	富士見台横穴墓	古墳後期の横穴墓	25-011
16	福道遺跡	古墳後期の横穴墓	25-023
17	松山遺跡	奈良・平安、中・近世の集落跡	25-010
18	天神廻遺跡	古墳中期の散布地	25-018
19	城山遺跡	中・近世の館跡	25-019
20	川袋遺跡	奈良・平安の散布地	25-020
21	江川南遺跡	旧石器、縄文中期、中・近世の集落跡	30-007
22	江川東遺跡	奈良・平安、近世の集落跡	30-045
23	東久保遺跡	旧石器、縄文中期、近世の集落跡	30-009
24	亀久保館跡遺跡	中世の館跡	30-006

No	遺跡名	主な時代	遺跡番号
25	東久保西遺跡	旧石器、縄文早期・中期、近世の集落跡	30-042
26	駒林遺跡	近世の館跡・中世の墳墓	25-013
27	福岡新田遺跡	縄文時代の散布地、中・近世寺院	25-015
28	響森遺跡	縄文前期の集落跡	25-017
29	伊佐島遺跡	古墳前期、平安の集落跡	25-021
30	東中学校西遺跡	縄文早期・中期、近世の集落跡	30-008
31	東久保南遺跡	旧石器、縄文早期・中期、近世の集落跡	30-032
32	西ノ原遺跡	旧石器、縄文早期・中期・後期、奈良・平安～近世の集落跡	30-001
33	中沢前遺跡	旧石器、縄文早期・中期、近世の集落跡	30-044
34	神明後遺跡	旧石器、縄文早期～後期、奈良・平安～近世の集落跡	30-041
35	苗間東久保遺跡	旧石器、縄文早期～後期	30-020
36	淨禅寺跡遺跡	旧石器、縄文早期・中期、中・近世の集落跡、近世寺院跡	30-022
37	小田久保遺跡	旧石器、縄文早期～中期、中・近世の集落跡	30-040
38	大井宿遺跡	近世～近代の宿場跡	30-010
39	大井氏館跡・大井戸遺跡	旧石器、縄文前期・中期、中・近世の集落跡	30-037
40	本村遺跡	旧石器、縄文早期～後期、中・近世の集落跡	30-034
41	西台遺跡	旧石器、縄文中期、奈良・平安、近世の集落跡	30-039
42	大井戸上遺跡	旧石器、縄文前期・中期、近世の集落跡	30-014
43	東台遺跡	旧石器、縄文早期～後期、奈良・平安～近世の集落跡、製鉄遺跡	30-024
44	大井宿木戸跡	近世～近代の宿場跡	30-048
45	石塔畑	中世の散布地	30-027

第6表 縄文時代中期時期細対比表

本書 2016 ①	安孫子昭二 1988 鈴木・山本 1988 ②	植木 弘 1994 ③	黒尾和久 1995 ④	谷井 他 1982 ⑤	考古学協会 1981 ⑥			
鴉沢・阿玉台1b古	鴉沢・阿玉台1b古	鴉沢・阿玉台1b	前 中 期 半 集 勝 坂 半 a b c 1 2 3 4 E 1 期 E 2 期 E 3 期 E 4	1a中	阿玉台1b前IVb	II期 阿玉台出現期		
勝坂I古・新道古・阿玉台1b新	勝坂第I様式	勝坂I様式		1a新	阿玉台1b前Va	III期 (勝坂最古段階)		
勝坂I新・新道新・阿玉台1古	II様式	II様式		1b	Vb	IV期 (勝坂盛時段階)		
勝坂II古・藤内古・阿玉台II新	III様式	III様式		2a古	VI			
勝坂II新・藤内新	IV様式	IV様式		2a新	VI	V期 (勝坂終末)		
勝坂III古・井戸尻・阿玉台III古	V様式	V様式		2b	VI			
勝坂III新・阿玉台III新	VI様式	VI様式		3a	VI	加曾利E I古		
加曾利E I古	加曾利E I様式	加曾利E I直前		3b古	勝 坂 式			
加曾利E I新	古相 中相 新相	加曾利E I式		3b新			加 曾 利 E 式	加曾利E I新
				E1期				
			IXb					
			X					
加曾利E II	古相 中相 新相	加曾利E3様式	1	加 曾 利 E 式	加曾利E II			
			2			XI		
			2c古			XIIa		
加曾利E III	古相 中相 新相	加曾利E II式	2c新	加 曾 利 E 式	加曾利E III			
			3a			XIIb		
加曾利E III	古相 中相 新相	加曾利E III式	3b	加 曾 利 E 式	加曾利E III			
			3c			XIII		
加曾利E IV	加曾利E4様式	加曾利E III式	4	加 曾 利 E 式	加曾利E IV			

第2章 鶴ヶ岡遺跡の調査

I 遺跡の立地と環境

鶴ヶ岡遺跡は、人間川の支流新河岸川に注ぐ藤間江川に面した標高22mの台地北縁に立地する東西200m以上の広い遺跡であり、その範囲は、川越市とふじみ野市にまたがっている。表面採集の遺物として、縄文早期のほか中期の各時期、平安時代の土器が知られており、複合遺跡である事を示している。表面採集の遺物は北の崖面寄りが密であり、住居などの集中部分と思われる。この部分のうち、ふじみ野市鶴ヶ岡八幡神社に接する川越市域部分で、1988年に調査が行われたが、その際に勝坂期末の住居1軒・加曾利E I新期の住居1軒・加曾利E IV期の土坑などが検出され、ほぼ完形の有孔罅付土器を含む大量の土器と石器若干が出土している。また、本遺跡の下流にある西遺跡の一部が1992年以降の試掘・発掘調査で、阿玉台I b期、勝坂期II～III期、加曾利E III期の住居など24軒が、確認または検出されている。

ふじみ野市、川越市にまたがる本遺跡のうち、ふじ

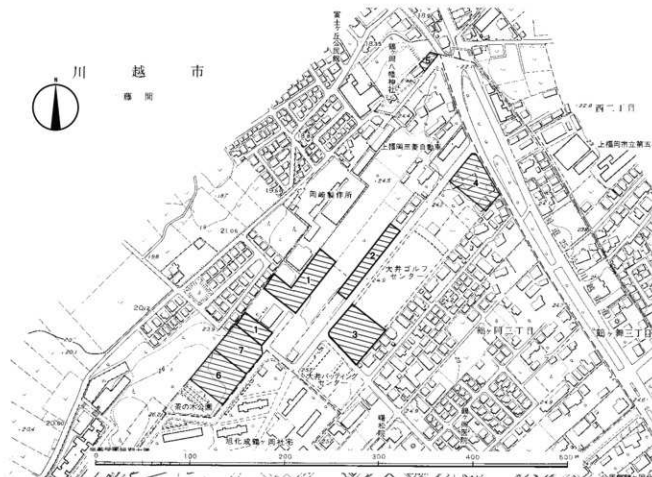
み野市分は1991年に旧大井町の体験学習園開設のため初めて試掘調査を実施し、2016年7月現在、7地点で試掘調査、本調査を行っている。2015年7月の第6地点の調査で、本遺跡で初めて旧石器時代と縄文時代早期の炉穴群が検出された。2001年7月に埼玉県教育委員会が本遺跡の南西側を試掘調査しているが、遺構・遺物は確認されていない。

II 鶴ヶ岡遺跡第5地点

(1) 調査の概要

調査は鶴ヶ岡八幡神社の社務所建設に伴うもので、原因者より2013年6月24日付けで、「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は崖面上で、遺跡範囲の東端に位置するため、申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため、2013年6月25日に試掘調査を実施した。

調査区の地形は西から東に傾斜し盛土されているため、建設予定地の西側に1×1mのトレンチを1ヶ所



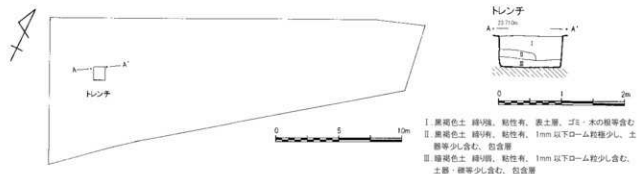
第3図 鶴ヶ岡遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

設定した。人力で表土を除去したところ、現地表面下約50cmで地山ロームを確認した。遺構、遺物は確認されなかったため、写真撮影・全測図作成等記録保存

を行った。東側は盛土が厚く、遺跡への影響がないため、試掘調査は行わなかった。

第7表 鶴ヶ岡遺跡調査一覧表

地点	所在地	調査期間 ()は試掘調査	面積 (㎡)	調査原因	確認された遺構と遺物	所収報告書
1	鶴ヶ岡3-3-1・21	(1991.6.26～7.17)	5,710	体験学習関係整備	遺構なし。縄文土器片、瓦	町内遺跡群 I
2	鶴ヶ岡3-16-1・14	(2000.4.6～2000.5.16)	1,327	共同住宅	遺構なし。旧石器、縄文土器片	町内遺跡群 X
3	鶴ヶ岡3	(2005.1.7)	2,059	個人住宅	遺構・遺物なし	町内遺跡群 X II
4	鶴ヶ岡3-18-1・12, 23-3, 26-6	(2005.5.12)	1,742	店舗	土坑、縄文土器片	市内遺跡群 2
5	鶴ヶ岡3-1-1	(2013.6.25)	235.5	神社社務所	遺構なし。縄文土器片	市内遺跡群 18
6	鶴ヶ岡3-18-23	(2015.5.15～27)(2015.7.10～8.19)	1,983.34	保育園	旧石器群 1, 旧石器、縄文時代B2群 2	未報告
7	鶴ヶ岡3-3-20・21	(2015.12.22～2016.1.29)	1,731.79	高齢者介護施設	土坑 1, 根切り溝他 2, 旗倒木 1	未報告



第4図 鶴ヶ岡遺跡第5地点調査区域図 (1/300)、土層 (1/60)

第3章 川崎遺跡の調査

I 遺跡の立地と環境

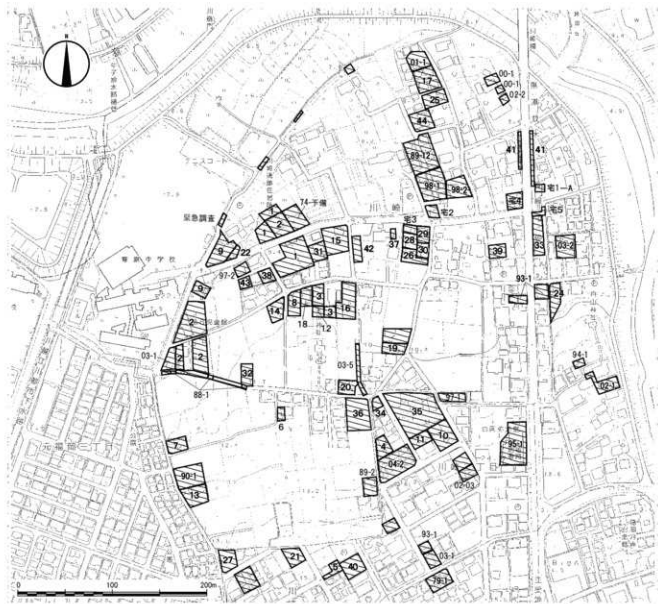
川崎遺跡は、武蔵野台地の北東端、荒川低地に舌状に突き出た武蔵野段丘面の、いわゆる川崎台に立地している。台地の北側を東流してきた藤間江川は舌状台地の西側で新河岸川に合流し、かつては台地の先端より北東方向へ大きく蛇行していた新河岸川は、現在は台地東縁をなめるように流れる。

台地の幅は400～500m、台地の基部から先端へ1kmにわたり緩やかに傾斜しており、標高は最南部で18m、最北部では8mを測る。遺跡の範囲は南北600m、東西500m以上ある。虫食い状に宅地開発されるが、畑も良く残っている。

周辺の遺跡は、舌状台地の西側基部の急斜面上部に

川崎横穴墓群が隣接し、東側に縄文時代、古墳、奈良・平安時代のハケ遺跡がある。

1917(大正6)年頃、台地の先端部で貝層が確認され1928(昭和3)年の調査では川崎貝塚として報告された。1967年以降宅地開発等に伴う緊急調査が増加し、1980年以来2016年7月現在44ヶ所で調査を行っている。主たる時代と遺構は、縄文時代早期の竪穴、早期から前期及び後期の住居跡、古墳時代住居跡、飛鳥時代住居跡、奈良時代住居跡、平安時代住居跡・掘立柱建物跡、中世以降の溝跡、地下式坑、縄文時代と中世以降の貝塚等である。またローム層中からではないが、旧石器時代の遺物も出土している。



第5図 川崎遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

第8表 川崎遺跡調査一覧表

地点	所在地	調査期間()は試掘調査	面積 (㎡)	調査原因	確認された遺構と遺物	所収報告書
予備発掘調査	川崎 160	(1974.3.25~4.4)	84	事前調査	伊7-3, 土坑 2, ビット部, 縄文土器, 石器	上遺掘
1次	川崎 162~176	1974.7.20~9.19	1,800	事前調査	住居跡 11(縄文前期3, 古墳前期1, 国分7), 溝 3, 堀 2, 土坑 5, 地下式坑 6, 集石 1	川崎遺跡第1次調査概報
鼠島発掘調査	大子川崎字宮前 168-3	1975.3.30~5.10	198	個人住宅	溝 3, 縄文土器, 石器, 平安土器類・東夷系・灰陶類・布瓦・瓦葺	上遺掘
宅地跡 1次(A地区)	大子川崎字宅地跡 122	1975.6.8~29	50	個人住宅	縄文早期住居跡 1, 縄文土器, 石器, 漆	上遺掘
2次	川崎 137~174	1975.9.4~12.5	3,055	事前調査	縄文住居跡 9, 古墳住居跡 6, 奈良平安住居跡 10, 中世遺構他	川崎遺跡第2次調査概報
3次	川崎 149-6	1977.11.1~12.3	300	住宅建設	縄文住居跡 2(7・8), 奈良平安住居跡 6(1・2・4・6・9), 炭土散布, 柱穴, 溝	川崎遺跡(第3次)・長吉遺跡
宅地跡 2次(B地区)	川崎 198	1978.5.15~25	170	宅地造成	土坑 3, ビット	埋(1)
宅地跡 3次(C地区)	川崎 230	1978.5.23~31	130	宅地造成	井戸 2, 地下坑 1, 溝 1	埋(1)
4次	川崎 2-5-2	1979.4.19~5.11	300	宅地造成	縄文前期住居跡 1, 溝 1, 黒土式土器, 貝類	埋(II)(IV)
5次	川崎 1-1-4	1979.9.26~10.10	152	宅地造成	溝状遺構	埋(II)
79年地区(清見)	清見 4-3-11	(1979.11.12~19)	260	宅地造成	溝 1	埋(II)
6次	川崎 102-5	1979.12.3~8	30	プレハブ家屋	縄文前期住居跡 2, 平安住居跡 2, 縄文土器片	埋(II)
7次	川崎 124-3	1981.11.27~30	316	個人住宅	遺構なし, 平安土器片	埋(IV)
8次	大子川崎字宮前 148-1	1984.4.17~26	400	住宅建設	溝 1	埋(IV)
宅地跡 4次	川崎宅地跡 219	1984.9.25~10.9	301	住宅建設	縄文住居跡 1, 平安住居跡 1	埋(IV)
9次	川崎字宮後口 172-1・2	1986.9.11~20	405	個人住宅	溝 2, 縄文後・晩期, 平安土器散布	埋(II)
10次	川崎 224-1	1987.11.24~30	603	個人住宅	溝 1	埋(IV)
11次	川崎 2-6-2	1988.5.10~17	289	住宅建設	遺構遺物なし	埋(II)
88試	市道 402号線	(1988.9.19~21)	60	下水道設置	住居跡 1	埋(II)
89試(1)	川崎字宅地跡 196-1	(1989.4.10~18)	1,045	住宅建設	遺構遺物なし	埋(II)
89試(2)	川崎字宮前 98-2	(1989.10.3~6)	264	住宅建設	遺構遺物なし	埋(II)
12次	川崎字宮前 149-4・5	1990.4.20~27	311	住宅建設	溝 2	埋(II)
13次	大子川崎字宮前 122	1990.5.1~17	480	住宅建設	奈良住居跡 1	埋(II)
90試(1)	大子川崎字宮前 122	(1990.5.18~23)	530	発掘確認	遺構遺物なし	埋(II)
14次	大子川崎字宮前 145	1990.10.1~31	459	住宅建設	縄文前期住居跡 1, 貝類, 平安住居跡 1	埋(II)
15次	川崎字宮後口 160-1	1991.10.23~11.20	499	個人住宅	平安住居跡 7, 土坑 1	埋(II)
92試(1)	大子川崎字山向 9-5	(1993.2.18~19)	168	店舗併用住宅	遺構遺物なし	埋(II)
93試(1)	川崎 2-2-10・11	(1993.8.24)	131	個人住宅	遺構遺物なし	埋(II)
93試(2)	川崎 1-1-1の一部	(1993.9.10~13)	422	個人住宅	遺構遺物なし	埋(II)
94試(1)	川崎字宅地跡 258 他 1 筆	(1994.11.17~24)	230	積材場取壊	遺構遺物なし	埋(II)
95試(1)	川崎 2-7-2・3	(1995.10.13~16)	1,126	消防署	遺構遺物なし	埋(II)
16次	川崎字宮前 150-2・3	1995.12.11~1996.3.8	828	駐車場及び駐車場取壊	縄文前期(黒土期)大形住居跡 1, 同期住居跡 2・土坑 5, 平安住居跡 4・黒土柱建物跡 6, 中世伊7状遺構 2	14年教委
17次	川崎字宅地跡 204 の一部	1996.7.15~23	779	個人住宅	平安住居跡 1	埋(II)
18次	川崎字宮前 148-3	1996.11.18~25	198	個人住宅	平安住居跡 1	埋(II)
97試(1)	川崎字山向 21	(1997.4.14)	367	宅地造成	溝 1(時期不明)	埋(II)
97試(2)	川崎字宮後口 165-6	(1997.10.20)	204	個人住宅	遺構遺物なし	埋(II)
97試(3)	川崎字宅地跡 199-1・2・5	(1998.2.12~16)	780	個人住宅	遺構遺物なし	埋(II)
98試(1)	川崎字宅地跡 197-1	(1998.10.27~11.6)	996	宅地造成	縄文前期土坑 1 他	埋(II)
市道 402号線 2次	川崎字宮前, 宮前地内	2000.2.21~25	496	道路築造	縄文前期住居跡 1	11年教委
00試(1)	川崎字宅地跡 209 の一部	(2000.6.19~22)	123	個人住宅	貝類の一部	埋(II)
鹿洲発掘調査	川崎字宅地跡 209	(2001.6.12~25)	100	倉庫	溝 1	埋(II)
19次	川崎字宮前 157 の一部	2001.9.18~10.4	289	個人住宅	平安初期住居跡 1	埋(II)
01試(1)	川崎字宅地跡 204-1	(2001.10.29~30)	825	宅地造成	遺構遺物なし	埋(II)
02試(1)	川崎 249-1 の一部	(2002.5.13)	341	倉庫	遺構遺物なし	埋(II)
02試(2)	川崎 210-1, 2 の一部	(2002.10.28~29)	551	共同住宅	溝 1【土器保存】	埋(II)
02試(3)	川崎 2-4-16	(2002.12.24)	228	個人住宅	遺構遺物なし	14年教委
02試(4)	川崎 2-2-12	(2003.3.13)	165	個人住宅	遺構遺物なし	14年教委
02試(5)	川崎字宮前 155 先	(2003.3.26)	164	市道 401号線 舗装工事	遺構遺物なし	14年教委
03試(1)	川崎 137-1 の一部	(2003.8.6~7)	257	個人住宅	遺構遺物なし	埋(II)
03試(2)	川崎字宅地跡 228-14	(2003.12.8~19)	381	個人住宅	遺構遺物なし	埋(II)
宅地跡地区 5次	川崎字宅地跡 222-3 先	2004.2.16~18	88	個人住宅	古墳初期6住居跡 1【調査実施】	15年教委
04試(1)	川崎字宮前 157-1 の一部	(2004.6.14~15)	421	個人住宅	平安時代伊7住居跡のカタマドの一部	埋(II)
04試(2)	川崎 2-5-1	(2004.11.1~4)	881	宅地造成	遺構遺物なし	埋(II)
20次	川崎字宮前 153-5	(2005.11.22~27)(2005.11.28~12.2)	257	個人住宅	古墳住居跡 1	市内 1
21	川崎 1-6-10	(2006.4.11)(2006.4.14~20)	298	個人住宅	奈良住居跡 1, 溝	市内 3
22	川崎 171-1, 174-10	(2007.4.16~23)	106	消防分署倉庫	伊7-4, 地下式坑 2, 穴蔵 1, 土坑 2	市内 4
24	川崎字宅地跡 225-3	(2007.10.4)	319	共同住宅	遺構遺物なし	市内 4
25	川崎字宅地跡 203-1 の一部, 203-3 の一部	(2008.4.14)(2008.4.15~17)	1,033	個人住宅	奈良時代奈良柱建物跡 1, 溝, 近代以降の地下室	市内 6
26	川崎字宅地跡 230-5	(2008.4.21)(2008.4.22~5.17)	228	個人住宅	奈良・平安時代伊7住居跡 4, 土坑, ビット, 近代以降の井戸	市内 6
27	川崎 1-7-1	(2008.5.15~21)	350	分譲住宅	時期不明の溝 1, 土坑 1	市内 6
28	川崎字宅地跡 230-7	(2008.7.4~9)(2008.7.10~8.8)	434	個人住宅	奈良・平安時代伊7住居跡 2, 土坑, ビット	市内 6
29	川崎字宅地跡 230-1	(2008.7.9~11)(2008.7.14~8.22)	203	個人住宅	奈良・平安時代伊7住居跡 2, 溝 3	市内 6

地点	所在地	調査期間()は試掘調査	面積 (㎡)	調査原因	確認された遺構と遺物	所収報告書
30	川崎字七地部 230-6	(2008.7.17)2008.7.18～9.5	200	個人住宅	奈良・平安時代期穴住居跡 4, 井戸 3, 土坑, 溝 5	市内 6
31	川崎字宮後 161-5 の一部, 161-6	(2009.10.28)2009.10.28～11.27	304	個人住宅	縄文時代中期～後期住居跡 2, 奈良・平安時代期穴住居跡 2, ビット 12	市内 8
32	川崎字宮前 140 の一部	(2011.2.24・25)2011.3.2～25	396	個人住宅	奈良・平安時代期穴住居跡 3, 土坑 2, 建物部分調査	市内 10
34	川崎 2-5-4	(2011.7.25・26)	118	分譲住宅	遺構遺物なし	市内 14
35	川崎 2-6-4～7-9	(2011.9.27～11.24)	1,924	分譲住宅	縄文時代前期(黒沢町)住居跡 1, 奈良平安時代住居跡 1 他	市内 14
36	川崎字宮前 100-1	(2011.12.15～26) 2012.1.10～2012.1.17	1,096	公園整備	奈良平安時代住居跡 6 他	市内 14
37	川崎字七地部 232-1	(2012.9.3)	1,298	個人住宅	築造跡片, 遺構なし	市内 15
38	川崎字宮後 165-3	(2013.2.25)2013.2.26・27	176	個人住宅	縄文後土器 2・中世以降ビット 5	市内 15
39	川崎字七地部 227-1	2013.3.4・5	1,121	個人住宅	遺構なし, 縄文土器, 土師器, 須恵器, 磁器	市内 15
40	川崎 1-1-7	(2013.10.11～17)	447	共同住宅	遺構なし, 陶器	市内 18
41	川崎字山向 10-4 の一部	(2014.9.8)	120	個人住宅	遺構遺物なし	未報告
42	川崎七地部 233-3	(2015.6.26～7.2)	200	川崎集会所	平安時代住居跡 1, 須恵器, 土師器	未報告
43	川崎字宮後 165-5・8・9	(2015.6.26)	175	個人住宅	遺構遺物なし	未報告
44	川崎字七地部 202-1・8	(2015.11.24～12.10) 2016.1.5～20	274	分譲住宅	縄文時代住居跡 2, 貝塚 1, 奈良平安時代住居跡 1, 地下式坑 1, 縄文土器, 土師器	未報告

※ 整理：上福岡市教育委員会埋蔵文化財の調査報告書、上遺：上福岡市遺跡調査報告書、教委：上福岡市教育委員会、市内：ふじみ野市内遺跡報告書

II 川崎遺跡第 40 地点

(1) 調査の概要

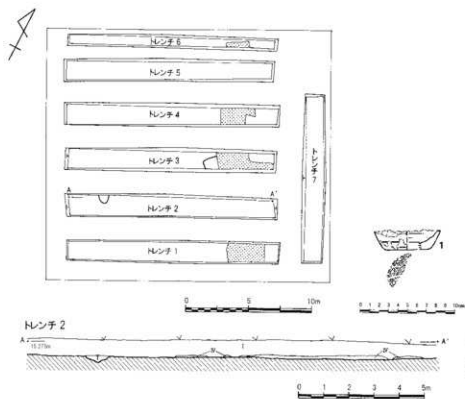
調査は共同住宅建設に伴うもので、原因者より 2013 年 9 月 26 日付けで、「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の南端に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため、2013 年 10 月 11 日～17 日に試掘調査を実施した。

試掘調査は、幅約 1.5m のトレンチ 7 本を設定し、重機で表土除去後、人力による表面精査を行った。

現地表面から地山ローム層までの深さは 50～60 cm である。遺構なし、遺物は表土層から 1 点が出た。旧石器時代の確認調査は行っていない。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえ埋戻し、調査を終了した。

(2) 遺構と遺物

遺構は確認されなかった。第 6 図 1 の遺物は陶器の茶入で胴部下半から底部を残存する。ロクロ成形、底部糸切痕、内外面に鉄釉を施す。胎土は白色で緻密である。瀬戸・美濃。17 世紀以降。



第 6 図 川崎遺跡第 40 地点調査区域図 (1/300)、土層 (1/150)、出土遺物 (1/4)

第4章 ハケ遺跡の調査

I 遺跡の立地と環境

ハケ遺跡は、武蔵野台地の北東端、荒川低地に舌状に突き出た武蔵野段丘面のいわゆる川崎市の東側付け根に立地している。遺跡の東側を新河岸川が台地東縁をなめるように流れ、東方は新河岸川に臨む急峻な崖が形成されている。遺跡の北側は落差2m程度のゆるい斜面を形成し、小支谷が入る。標高は14～16mで、遺跡の範囲は南北360m、東西160m以上ある。宅地開発される遺跡中央に畑が残る。

周辺の遺跡は、舌状台地の北側に旧石器、縄文、古墳～奈良・平安時代、中近世の川崎遺跡が隣接し、台地続きの南東側に縄文時代前期、中期、晩期、古墳時代の著名な上福岡貝塚、権現山遺跡がある。

1976年以降、宅地開発等に伴う緊急調査が増加し、2016年7月現在21ヶ所で調査が行われている。主たる時代と遺構は縄文時代前期から後期の住居跡、古墳時代から奈良・平安時代の住居跡・掘立柱建物跡、近世鍛冶遺構（旧福田屋跡）と、2014年に第16地点の発掘調査で、古墳の周溝から6世紀の人物埴輪と円筒埴輪多数が出土し、2015年の第19地点でも

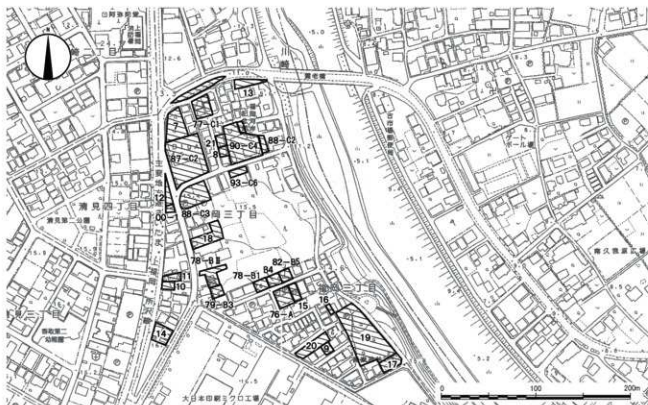
新たに3基の円墳を検出した。本遺跡は便宜上東西に走る道路によって南側からハケ遺跡A、ハケ遺跡B、ハケ遺跡Cと呼称していたが、現在はハケ遺跡に統一している。

II ハケ遺跡第13地点

(1) 調査の概要

調査は建売住宅建設に伴うもので、原因者より2013年8月27日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡北端に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため、2013年10月3日に試掘調査を実施した。

試掘調査は、幅約1mのトレンチ2ヶ所を設定し、重機で表土除去後、人力による表面精査を行った。地表面から1.5m以上の盛土（コンクリートガラを含む）で、地山ロームは確認されなかった。また遺構、遺物も確認されなかったため、写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえ埋め戻し、調査を終了した。旧石器時代の確認調査は行っていない。



第7図 ハケ遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

Ⅲ ハケ遺跡第14地点

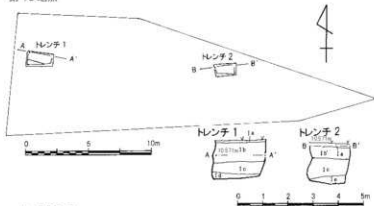
(1) 調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より2013年11月14日付で「埋蔵文化財事前協議書」がらじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡南西端に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため、2013年11月22日に試掘調査を実施した。

試掘調査は、幅約1mのトレンチ2本を設定し、重機で表土除去後、人力による表面精査を行った。地

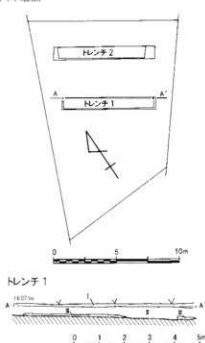
表面から地山ローム層までの深さは50～60cmである。遺構、遺物も確認されなかったため、写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえ埋戻し、調査を終了した。旧石器時代の確認調査は行っていない。

第13地点



- 1 a 灰色砂石層
 1 b 黄褐色土 砂り強、粘性有、ローム土主体の5cm以下コンクリート片・礫等少し含む
 1 c 暗褐色土 砂り強、粘性有、ロームブロック・3cm以下礫多量含む
 1 d 暗褐色土 砂り強、粘性有、5cm以下灰色粘土ブロック・3cm以下角礫多量含む、最上層に6cm厚白灰色砂礫層
 1 e 暗褐色土 砂り強、粘性有、ローム土多量含む、ビニール・コンクリート片・礫少し含む
 2 a 黄褐色土 砂り強、粘性有、ローム土主体、遺物量は少ない、20cm以下層灰厚片・3cm以下灰土・10～15cm大型の内礫少し含む

第14地点



- 1 白灰色土 砂り強、粘性無、砂利粒数多量
 2 黄褐色土 砂り強、粘性有、20cm以下礫少し、20cm以下ロームブロック・シロ状暗褐色土少し含む
 3 暗褐色土 砂り強、粘性有、3cm以下シロ状黄褐色土少し含む、ソフトローム地山

第8図 ハケ遺跡第13・14地点調査区域図 (1/300)、土層 (1/150)

第9表 ハケ遺跡調査一覧表

地区地点	所在地	調査期間 ()は試掘調査	面積 (㎡)	調査原因	確認された遺構と遺物	所収報告書
A-1次	大字中福字字通 1228～2021	1976.9.11～16	306	個人住宅	古墳住居跡 1, 窠穴状遺構 3, 縄文土器	土福町遺跡調査報告書
C-1次	大字中福字字通 1480	1977.8.2～27	1794	宅地造成	縄文住居跡 5, 奈良平安住居跡 2, 窠穴状遺構, 土坑, 砂礫	ハケ遺跡調査会「ハケ遺跡C地区」
B-1次	中福町 1228-40	1978.8.28～9.10	165	個人住宅	遺構なし、縄文中期土器片	埋蔵文化財の調査(1)
B-2次	中福町 1181-2	1978.9.11～25	360	貸家建設	土坑 4, 砂礫 1, 土器	埋蔵文化財の調査(2)
B-3次	中福町 1228-37	1979.7.20～31	166		土坑 3, 縄文土器	埋蔵文化財の調査(3)
B-5次	大字中福字字通 1228-46	1982.5.10～17	165		溝 1, 縄文中期土器	埋蔵文化財の調査(4)
C-2次	福岡 3-2068-1+2	1987.4.16～5.29	1900	倉庫付住宅改築	縄文中期住居跡 11, 奈良平安住居 4, 竪穴 1	埋蔵文化財の調査(5)
C-3次	福岡 2-2-1	1988.8.15～20	627	駐車場	縄文中期住居跡 4, 平安住居跡 2	埋蔵文化財の調査(11)
C-3次	福岡 3-4-2	1988.10.24～28	60	駐留改修工事	旧福岡住居跡 1, 窠穴状遺構, 礎石・火石 3・物置跡・粘土取りつけ(円形小窠穴)・江戸前期～中期北方系土坑 12・縄文・平安住居跡 3・縄文中期住居跡 2, 縄文後・豊前住居跡 3	埋蔵文化財の調査(11)
C-4次	旧福岡屋敷地内	1990.6.20～9.6 H31月末～継続調査予定	500			2年度教育委員会史資料編
C-6次	福岡 3-1180, 2065-2	1993.5.6～18	142	個人住宅	縄文中期土坑 6	埋蔵文化財の調査(16)
C-4次	福岡 3-2069-1の一部	1994.6.10～1.31	54	河川記念館管理棟・駐留改修工事	縄文中期住居跡 5, 土坑 30	埋蔵文化財の調査(17)
C-3次	福岡 3-1884-8	2000.1.26	100	個人住宅	遺構遺物なし	埋蔵文化財の調査(22)
C-7次	福岡 3-2	(2006.7.10～22)	666	宅地造成	縄文・奈良平安遺構検出	市内遺跡 3
C-8次	福岡 3-2069-9	(2009.3.17)	99	個人住宅	住居跡確認	市内遺跡 6
C-9次	福岡 3-1257-7, 1259-1	(2010.2.2～4)	120	個人住宅	土坑 1, 堀割木 1	市内遺跡 8
10	福岡 3-1363-14	(2011.4.22)	122	個人住宅	時期不明溝 1	市内遺跡 14
11	福岡 3-1363-11	(2011.4.21～22)	158	分譲住宅	縄文時代(外)埋蔵 1, 土器	市内遺跡 14
12	福岡 3-1472-1	(2012.9.24)	122	個人住宅	ビッド 1, 土器	市内遺跡 15
13	福岡 3-1484-1	(2013.10.2～3)	183	個人住宅	遺構遺物なし	市内遺跡 18
14	福岡 3-1363-15	(2013.11.22)	144	個人住宅	遺構遺物なし	市内遺跡 18
15	福岡 3-1228-19	(2014.4.8～9)	184	共同住宅	遺構遺物なし	未報告
16	福岡 3-1254-7-14+17	(2014.8.11～9.29.3～9)	68	建売住宅	古墳 1	未報告
17	福岡 3-1219-1+2	(2014.9.29～30)	99	個人住宅	古墳 1 基、人物・円筒形竪穴、縄文土器	未報告
18	福岡 3-1182, 2066-5	(2014.12.4～10) 2015.1.6～16	511	個人住宅	縄文時代(中期)住居跡 1, 砂 4, 土坑 2, 溝 2, 縄文土器	市内遺跡 6
19	福岡 3-1222-1, 1223～1225, 1255	(2015.3.17)	2,297	宅地造成	古墳 2, 溝 2, 縄文土器, 土師器, 埴輪	市内遺跡 17
20	福岡 3-1252-1	(2015.10.14～16) 2015.10.29～30	375	分譲住宅	古代以降の竪穴 1, 土坑 1, 土師器, 火土器陶片	未報告
21	福岡 3-1193-4+15, 2069-10	(2016.1.5)	101	個人住宅	遺構遺物なし	未報告

第5章 上福岡貝塚の調査

I 遺跡の立地と環境

上福岡貝塚は、ふじみ野市域（旧上福岡市）の北部、武蔵野台地北東部端の標高16.0～18.0mに位置する。

遺跡眼下の武蔵野台地裾部の荒川低地には、北から東に新河岸川が流れる。現在、上福岡貝塚をのせる武蔵野段丘面と荒川低地の現比高差は約9～10m、新河岸川の水面からでは約12mの急崖を成す。

本遺跡を地形の区分でみると武蔵野2面に相当する。隣接する権現山古墳群において、新河岸川に面した崖の地質観察では、約50cmの表土層下に385cmの関東ローム層が認められ、ローム層中には厚さ約45cmの黒色帯や、ローム下層でオレンジ色の軽石粒（TPに対比と考えられる）が確認され、市内の武蔵野2面の層序とほぼ同様の様相を呈することから、上福岡貝塚でも相位ないものとみられる。台地南側の滝遺跡や長宮遺跡の位置する一段低い段丘面では、武蔵野3面から立立面が広がる。

かつて、上福岡貝塚や権現山遺跡群の南側には新河岸川に流れ込む小河川（清水）が東流していた。現在でも地区の地名に残る「滝」は、この小河川が台地上から流れ落ちていたためとされる。縄文時代の上福岡貝塚周辺には、この滝地区を流れていた清水と新河岸川の流れがあったものと考えられる。これまでの調査ではローム層中から旧石器時代の遺構や遺物は見つ

っていないが、近隣市町などでは湧水や埋没谷周辺部から同時期の遺跡が相次いで発見されており、本遺跡でも今後発見される可能性がある。

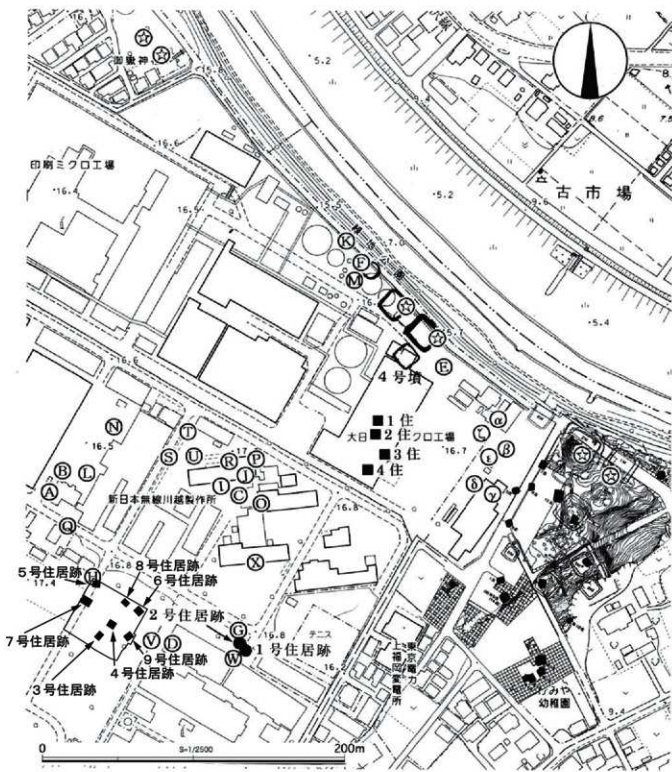
また、遺跡の北側には南北約220m、東西約150m、深さ約1mの楕円形の巨大な窪地が昭和12年の調査時から確認されているが、自然地形なのか人為的なものか不明である。現在は造成され工場等が建ち古い地形をみることは出来ない。

周辺の遺跡は、北側約400mに縄文時代前期集落の川崎遺跡と同50mに中期から後期集落のハケ遺跡、東側には前期古墳の権現山古墳を含む権現山遺跡（古墳群）が隣接する。ハケ遺跡では前期諸磯C期の住居跡1軒が確認されるが、権現山遺跡からは前期の住居跡は確認されていない。なお、ハケ遺跡では、2014年と2015年の調査で、6世紀代の古墳4基が新たに発見され、円筒埴輪や人物埴輪、土師器等が多数出土した。

川崎遺跡では縄文時代前期の住居跡が21軒（2001年現在）確認され、関山期から黒浜期の住居跡は11～12軒を数え、内3軒の住居跡（1975、1979、1990年調査）では貝層を伴っている。同時期の遺跡として、土器や動物遺体を含めた出土遺物の比較と、時期ごとに集落の立地と配置が異なる上福岡貝塚との集落構造や変遷等の関連が注目される。

第10表 上福岡貝塚調査一覧表

地点	所在地	調査期間 ()は試掘調査	面積 (㎡)	調査原因	確認された遺構と遺物	所収報告書
A～X、a～e	福岡3-1187、1500、他	1937.5.23～7.19	—	火工窯建設	間山式住居3、黒式住居5	福岡橋内石器時代遺跡発掘調査報告*
① 1983-6 試掘	福岡3	(1983.6)	—	工場増築	なし	なし
② 1983-12 立会	福岡2	(1983.12)	—	工場建設	なし	なし
③ 1985-試掘	福岡2	(1985.2)	426	市道築造	5c古墳3基、遺物なし。調査区は一部権現山遺跡群を含む	埋蔵文化財の調査(Ⅷ)
④ 88-試掘	福岡3-1187-4	(1988.6.7～14)	3,200	工場増築	古墳跡1、奈良平安住居4	埋蔵文化財の調査(11)
⑤ 91-試掘	福岡2-1-4	(1991.5.7～8)	568	事務所建設	なし	埋蔵文化財の調査(14)
⑥ 92-試掘	福岡2-1500-8	(1992.5.2)	737	工場増設	なし	埋蔵文化財の調査(15)
⑦ 93-試掘	福岡2-1500-8の一部	(1993.7.20～27)	799.3	事務所建設	なし	埋蔵文化財の調査(16)
第1地点	福岡2-1500-23*63	(2007.4.26～5.17) 2007.5.21～6.12	124	実業所増築	縄文住居2、集石土器1、埴輪1、水器、消火栓	市内遺跡群4
第2地点	福岡2-1500-73*74・8の一部	(2013.6.20～9.30) 2013.11.5～2014.3.10	1,830 (3,485)	建物解体・ 造成・復旧	縄文前期黒式住居10、土坑3、溝跡1、火工窯跡	市内遺跡群17・18



第9図 遺構配置図 (1/2,500)

*所収報告書等

- ・山内清男 1937 「福岡県内石器時代遺跡発掘調査報告」、関野克「住居地略報告」ガリ版刷り (昭和40年埼玉県福岡町郷土史料に収録)
1967 『山内清男・先史考古学論文集』第2冊 先史考古学会 (但し、関野克「住居地略報告」の分は除く)
- ・山内清男 1942 「竹ノ村縄紋土器に就て」『古美術』第12巻第6号 (137号)
1967 『山内清男・先史考古学論文集』第2冊 先史考古学会
- ・関野 克 1938 「埼玉県福岡村縄紋前期住居地と竪穴住居の系統に就いて」『人類学雑誌』第53巻第8号
- ・黒坂敏二、堀田勝、土肥孝、宮崎朝雄 他 1992 「上福岡貝塚資料—山内清男考古資料3—」奈良国立文化財研究所史料第33冊 奈良国立文化財研究所 (註1)
- ・川名広文・世森健一 他 1995 「考古文献資料(1) 上福岡貝塚」市史調査報告書第5集 上福岡市教育委員会
- ・眞島直久、世森健一、阿部常樹、一本聡理他 2009 「市内遺跡群4」ふじみ野市埋蔵文化財調査報告書第5集 ふじみ野市教育委員会

II 上福岡貝塚第2地点

(1) 調査の概要

上福岡貝塚第2地点の試掘調査及び本調査は、日本無線株式会社埼玉工場の建物解体及び樹木等の抜根に伴うもので、工場の一角が上福岡貝塚に含まれる事から、日本無線株式会社より事前の問い合わせがあり、平成24(2012)年12月7日、ふじみ野市教育委員会と緊急の打ち合わせが行われた。敷地の一部は前述のとおり埋蔵文化財包蔵地(上福岡貝塚)であり、また敷地内各所に旧日本陸軍造兵廠東京工廠福岡工場(以下火工廠)の建物跡や防壁などの遺構が複数存在するため、埋蔵文化財に関する試掘調査および本調査と、火工廠の建物及び遺構について協議した。

文化財保護法第93条1項「埋蔵文化財発掘の届出」と「埋蔵文化財事前協議書」は、平成24(2012)年12月26日付けで提出され、同法第99条「発掘調査の通知」は平成25(2013)年12月9日付けで埼玉県教育委員会に提出した。また、土壌汚染対策法第4条第1項「一定の規模以上の土地の形質の変更届出書」、埼玉県生活環境安全条例第80条第1項「特定有害物質取扱事業所設置状況等調査報告書」を、平成25(2013)年5月21日付けで埼玉県西部環境管理事務

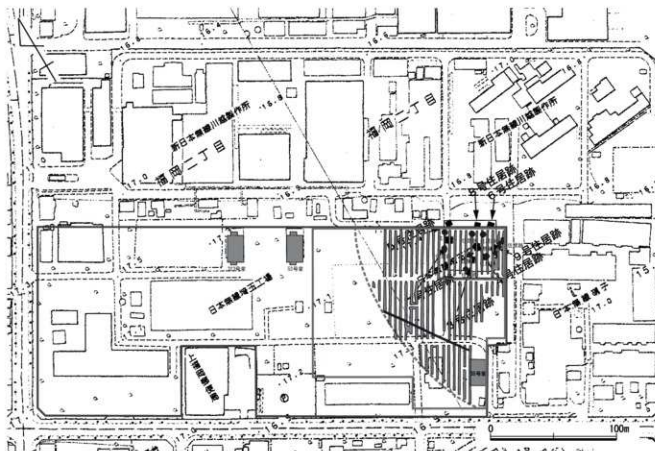
所長に提出した。

試掘調査は平成25(2013)年6月20日～10月8日まで、幅約1.5mのトレンチ61本を設定し、重機による表土除去後、人力による調査を行った。火工廠関連の調査は平成25年1月以降、工事に支障のない範囲で行った。

試掘調査の結果、縄文時代の住居跡10軒(貝層を伴うもの5軒)、古代以降とみられる溝1本、火工廠の遺構多数等を確認した。地表面から遺構確認面までの深さは約50～100cmで、火工廠の遺構や樹木の抜根により遺跡への影響が避けられない部分について発掘調査を行った。南側の道路築造部分は盛土等で遺跡への影響が及ばない事から保存措置とした。

原因者と協議を重ねた結果、平成25年11月1日、ふじみ野市教育委員会と日本無線株式会社の間で委託契約を締結した。履行期間は平成25年11月1日から平成28年3月31日、本調査に係る費用は日本無線株式会社が全額負担した。

試掘調査及び本調査の成果は、ふじみ野市埋蔵文化財調査報告第18集『市内遺跡群17』上福岡貝塚第2地点(2016.3)で報告済みであるため、試掘調査の配置図と写真を掲載する。



第10図 上福岡貝塚第2地点遺構配置図(1/3,000)

第6章 権現山遺跡の調査

I 遺跡の立地と環境

権現山遺跡は、武蔵野台地の北東端、荒川低地に舌状に突き出た武蔵野段丘面のいわゆる川崎台の南東端部に立地している。遺跡の東側を新河岸川が台地東縁をなめるように流れ、東方は新河岸川に臨む急峻な崖が形成されている。また、南側は旧清水という小川が流れる低地で、やはり急傾斜の斜面を形成する。標高は16～18mを測る。遺跡の範囲は南北300m、東西300m以上ある。

周辺の遺跡は、台地続きの北側に縄文時代前期・中期・晩期、古墳時代の集落がある著名な上福岡貝塚、台地下の低地面に縄文時代早期・前期、古墳から奈良・平安時代の集落跡である滝遺跡がある。

権現山遺跡は大正6年に安部一郎氏により「権現山といふ円形古墳」(安部1917)として紹介された。その後、1937年(昭和12年)に山内清男、関野克によって上福岡貝塚が調査された折に作成された遺構配置図には、新河岸川沿いに3群6基の古墳が記述されている。(山内1937)戦後は『埼玉縣史』(1951)、『古墳調査報告書—入間地区—』(1961)等に古墳の記載がある。しかし、1965年に行われた通称「厄病塚」(権現山北古墳群2M・3M)の調査では古墳の確証が得られず、十三塚の可能性が考察されている。

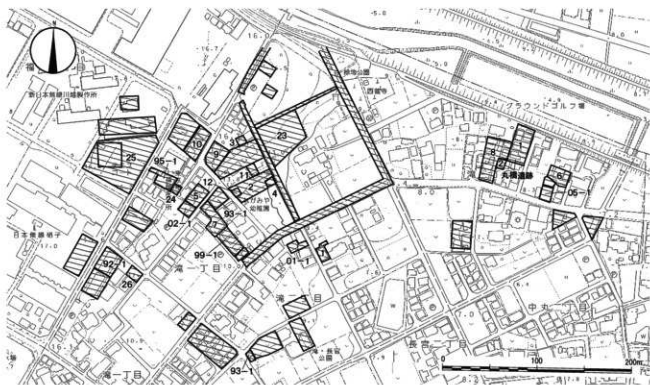
一方、通称「権現山」(権現山古墳群2M)は徳川家康が鷹狩りに訪れたという伝承から、1963年に市指定文化財(上福岡市)に指定された。資料上の初見は元禄12(1699)年の「武州入間郡福岡村除地水帳」に「権現 社地」の記載があり、塚の上には天保11(1840)年2月造立の「東照神祖命」の石造物が安置される。

その後1982年～1993年までの6次にわたる発掘調査により、古墳時代前期の古墳群(11基)が発見され、「権現山」はいわゆる前方後方墳であることが判明し、2002年3月22日県指定文化財に指定された。

1982年以来2016年7月現在、26ヶ所で調査が行われている。主たる時代と遺構は縄文時代中期の集落、古墳時代前期の方形周溝墓群、古墳時代の集落、奈良・平安時代の集落である。なお、滝遺跡の第3・5・9・10次調査および、1995年と2002年の試掘は権現山遺跡の範囲に入っているため、権現山遺跡1、2、5～7、14、17地点へ変更した。

II 権現山遺跡第24地点

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より2013年3月25日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡

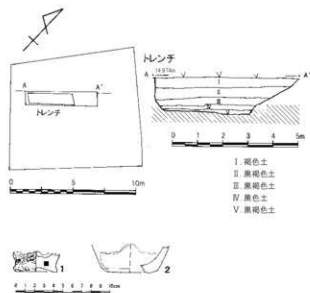


第11図 権現山遺跡の地形と調査区(1/4,000)

範囲の南西部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため、2013年5月17日に試掘調査を実施した。

試掘調査は、幅約1mのトレンチ1本を設定し、重機による表土除去後、人力による調査を行った。試掘調査に係る重機とオペレーターについては、申請者からの提供と協力を得た。現地表面から地山ローム層までの深さは1.1mである。遺構は確認されなかったが、表土層より遺物が出土した。試掘調査の面積が狭いため工事立会いの措置とした。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえ埋め戻し、調査を終了した。旧石器時代の確認調査は行っていない。

第12図の出土遺物は、表採の土器である。1は縄文時代前期開山式土器の底部で胎土に織維を含み、縄文を施す。2は土師器裏の底部で、外面に削り痕を残す。



第12図 権現山遺跡第24地点調査区域図(1/300)、土層(1/150)、出土遺物(1/4)

第11表 権現山遺跡調査一覧表

地点番号	所在地	調査期間 ()は試掘調査	面積 (㎡)	調査原因	確認された遺構と遺物	記録報告書
1	滝1-4-15	1980.6.27～7.3	76	個人住宅	古墳住居跡1, 豊(旧縄3次)	埋蔵文化財の調査(Ⅱ)
2	滝1-3-21	1980.7.20～31	330		遺構なし、中世以降陶器片(旧縄5次)	埋蔵文化財の調査(Ⅱ)
3	滝3-4-7	1982.1.20～2.6	50	自転車庫増設設置 (公共事業)	古墳方形周溝墓、壘形土器、縄文中期住居跡1, 縄文土器多数	56年度教育要覧
	滝1-5-4	1982.12.8～28	200	範囲確認調査	古墳方形周溝墓6、古墳住居跡1	埋蔵文化財の調査(V)/上福岡市史資料編1
4	滝1-5-4	1983.5.18～6.28	100	範囲確認調査	古墳住居跡1, 方形周溝墓1	埋蔵文化財の調査(V)
5	滝1-4-4	1984.5.11～22	466	住宅建設	溝2(旧縄9次)	埋蔵文化財の調査(VI)/上福岡市史資料編1
6	滝1-3-17	1984.6.1～12	363	住宅建設	古墳住居跡1, 溝4, 土坑3(旧縄10次)	埋蔵文化財の調査(VI)/上福岡市史資料編1
7	滝1-4-2	1984.6.28～30	33	物置建設	集石2, 土坑2(旧縄11次)	埋蔵文化財の調査(VI)/上福岡市史資料編1
8	大字福岡1500	1985.1.20～2.25		市道舗装工事	方形周溝墓2, 古墳3, 壘形土器・壘形土器	59年度教育要覧/上福岡市史資料編1
9	滝1-4-8	1985.8.9～9.9	430	範囲確認調査	古墳住居跡2, 平安住居跡2	埋蔵文化財の調査(V)
10	滝1-5-9・10	1986.2.10～22	202	範囲確認調査	第2周溝墓の前方土器の調査	埋蔵文化財の調査(Ⅷ)
11	福岡3-1187-4	1988.6.7～14	3,200	工場増築	古墳1, 奈良・平安住居跡4	
12	滝1-6-7	1989.2.20～3.6	2,000	農地改善工事	古墳住居跡3, 方形周溝4, 古墳溝跡1, 中世大溝跡1, 時期不明溝跡1	埋蔵文化財の調査(11)/上福岡市史資料編1
13	滝1-6-1	1989.5.8～	1,724	農地改善工事	方形周溝4	51年度教育要覧
13	滝1-5-4	1993.7～8		範囲確認調査	2号墳, 11号墳のトレンチ調査	上福岡市史資料編1
14	滝1-3-13	1995.11.27～30	462	共同住宅	遺構なし(旧縄試掘)	埋蔵文化財の調査(18)
15	滝1-4-3	1996.4.15～5.7	396	個人住宅	古墳住居跡1軒, 溝1(時期不明)	埋蔵文化財の調査(19)
16	滝1-3-49	2002.5.29・30	165	個人住宅	なし(旧縄試掘)	埋蔵文化財の調査(25)
17	滝1-3-16	2004.5.17～27	856	範囲確認調査	奈良期穴住居跡2(16, 17号【調査済】)	埋蔵文化財の調査(27)
18	滝1-5-4	2006.4.25～27		古墳部保存整備工事		
19	字福岡2-1500-23(工場内)			工場増築		
20	字福岡2-1500-23(工場内)			工場増築		
21	字福岡2-1500-23(工場内)			工場増築		
22	滝1-3-58～60			住宅建設		
23	滝1-6-7	2008.10.23～29	1,576	古墳部保存整備	土坑3, 集石1, 壘形土器, 土器	市内遺跡部6
24	滝1-3-25	(2013.5.17)	90	個人住宅	遺構なし, 土師器, 土器	市内遺跡部18
25	福岡2-1-1	(2014.6.2～7.18) 2014.7.22～9.2	3,588	事務所	縄文時代の穴2・土坑1, 古代住居跡3・溝3, 壘形土器・土師器	市内遺跡部16
26	滝1-3-23	(2015.11.30)	97	個人住宅	遺構遺物なし	未報告

第7章 滝遺跡の調査

I 遺跡の立地と環境

滝遺跡は武蔵野台地の北東端、荒川低地に舌状に突き出た武蔵野段丘面の台地東側の一段低い立川段丘面の縁に立地している。

「滝」の地名は、近年までこの段丘上から滝が落ちていたことに由来する。北西側は段丘面、北東側は新河岸川を挟んで荒川低地の沖積地と接し、南側は排水溝として利用される緩やかな小支谷を流れる旧清水に挟まれ、標高9～12m前後の微高地を形成する。遺跡の範囲は南北250m、東西500m以上ある。宅地開発が進むが部分的に畑が残っている。

周辺の遺跡は、北西側の段丘上に縄文時代前期、中期、晩期、古墳時代の遺跡である著名な上福岡貝塚と権現山遺跡群が新河岸川沿いに並び、旧清水を挟んだ南側には、縄文時代、飛鳥時代、中近世の長宮遺跡が広がる。

1976年以降宅地開発等に伴う緊急調査が増加し、遺跡の谷口に当たる旧丸橋遺跡（1981年の変更増補で滝遺跡と合併）で古墳時代前期と後期の住居跡を検

出以来2016年7月現在、39ヶ所で調査を行っている。なお、本遺跡の第3・5・9～11次調査、1995年度試掘調査・2002年度試掘調査（1）は権現山遺跡の範囲に入っているため、今後は本遺跡では欠番とし、権現山遺跡1・2・5～7・14・17地点とする。

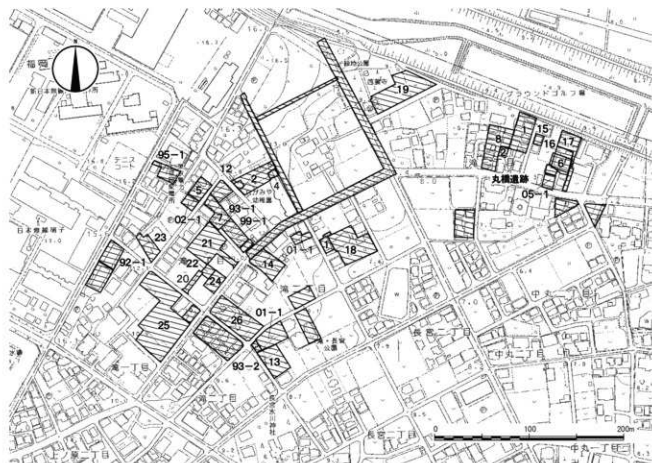
遺跡の主たる時代と遺構は、縄文時代早期・前期の土坑、古墳時代から奈良・平安時代の住居跡、近世の段切り遺構（集石を伴う）である。

II 滝遺跡第22地点

(1) 調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より2013年6月10日付けで、「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の西部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため、2013年7月30日に試掘調査を実施した。

試掘調査は、幅約1mのトレンチ3本を設定し、重機で表土除去後、人力による表面精査を行った。現



第13図 滝遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

地表面から地山ローム層までの深さは約110cmである。遺構、遺物なし。旧石器時代の確認調査は行っていない。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえ埋め戻し、調査を終了した。

III 滝道跡第23地点

(1) 調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より2013年12月27日付けで、「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の北西端に位置する。申請者と協議の結果、遺構

の存在を確認するため、2014年2月12日に試掘調査を実施した。

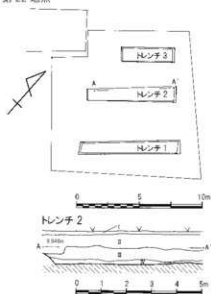
試掘調査は、幅約1.2～1.7mのトレンチ3本を設定し、重機で表土除去後、人力による表面精査を行った。現地表面から地山ローム層までの深さは約60cmである。トレンチのいたるところに、コンクリートのガラを含む擾乱がみられた。遺構、遺物なし。旧石器時代の確認調査は行っていない。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえ埋め戻し、調査を終了した。

第12表 滝道跡調査一覧表

地点	所在地	調査期間 ()は試掘調査	面積 (㎡)	調査原因	確認された遺構と遺物	所収報告書	備考
丸楯1次	滝3-3-77～81	(1976.6.26～27) 1976.7.24～8.12	543	建宅住宅	古墳前期住居跡1・後期住居跡1	上福岡市遺跡調査報告書	丸楯遺跡は滝道跡へ統合
丸楯2次	滝3-3-13	1978.7.26～8.6	210	住宅建設	古墳前期土坑1、現代溝1	埋蔵文化財の調査(I)	
1次	滝2-6-11	1978.10.2～13	129	住宅建設	住居跡1、土師器	埋蔵文化財の調査(I)	
2次	滝1-4-2	1979.4.15～5.7	278	坊間グループ	住居跡5、貫溝、土坑、長狭、土器	埋蔵文化財の調査(II)	
3次	滝1-4-15	1980.6.27～7.3	76	住宅建設	亀現山遺跡1地点に変更、欠番とする。	埋蔵文化財の調査(III)	亀現山遺跡へ変更
4次	滝1-4-15	1980.7.7～12	105	住宅建設	遺構なし、平安土師器片	埋蔵文化財の調査(III)	
5次	滝1-3-21	1980.7.20～31	330	住宅建設	亀現山遺跡2地点に変更、欠番とする。	埋蔵文化財の調査(III)	亀現山遺跡へ変更
6次	滝3-3-6	1980.11.20～12.2	166	住宅建設	縄文土坑、奈良住居跡2、縄文早期土器、石器、奈良土師器	埋蔵文化財の調査(III)	
7次	滝1-1-19	1981.7.30～31	400	個人住宅	遺構なし、縄文土器片	埋蔵文化財の調査(IV)	
8次	滝3-3-15他	1983.11.14～26	990	住宅建設	古墳住居跡2	埋蔵文化財の調査(VI)	
9次	滝1-4-4	1984.5.11～22	466	住宅建設	亀現山遺跡5地点に変更、欠番とする。	埋蔵文化財の調査(VII)	亀現山遺跡へ変更
10次	滝1-3-17	1984.6.1～12	363	住宅建設	亀現山遺跡6地点に変更、欠番とする。	埋蔵文化財の調査(VII)	亀現山遺跡へ変更
11次	滝1-4-2	1984.6.28～30	33.12	物置建設	亀現山遺跡7地点に変更、欠番とする。	埋蔵文化財の調査(VII)	亀現山遺跡へ変更
12次	滝1-4-2	1984.12.20～24	94	住宅建設	遺構遺物なし	埋蔵文化財の調査(VII)	
92試(1)	滝1-2-14の一部	(1992.7.6～8)	400	倉庫建設	遺構遺物なし	埋蔵文化財の調査(15)	
93試(1)	滝1-1-4	(1993.4.23～28)	313.08	共同住宅	遺構遺物なし	埋蔵文化財の調査(16)	
93試(2)	滝2-2-7	(1993.8.25)	99	個人住宅	遺構遺物なし	埋蔵文化財の調査(16)	
94試(1)	滝1-3-13	(1995.11.27～30)	462	共同住宅	亀現山遺跡14地点に変更、欠番とする。	埋蔵文化財の調査(18)	
99試(1)	滝1-1-6	(1999.10.21～26)	511.09	宅地造成(土地分譲)	遺構遺物なし	埋蔵文化財の調査(22)	
100試(1)	滝2-5-20	(2001.1.23～24)	154.7	個人住宅	遺構遺物なし	埋蔵文化財の調査(23)	
01試(1)	滝2-2-8	(2001.4.17～20)	519.64	共同住宅	奈良初期住居跡1	埋蔵文化財の調査(24)	
02試(1)	滝1-3-49	(2002.5.29～30)	165	個人住宅	亀現山遺跡17地点に変更、欠番とする。	埋蔵文化財の調査(25)	
05試(1)	滝3-3-5・143	(2005.6.24～27)	350	個人住宅	遺構遺物なし	市内遺跡部1	
11	滝1-4-1・26・27	(2006.4.15)	2,492	坊間	遺構遺物なし	市内遺跡部3	
12	滝2-5-3・4の一部	2007.2.6	472	個人住宅	遺構遺物なし	市内遺跡部3	
13	滝2-2-6	(2007.10.24～11.1)	737.7	共同住宅	横土範囲2箇所、ビット8	市内遺跡部4	
14	滝2-5-11・17	(2007.11.8～19) 2007.11.20～12.6	602	分譲住宅	住居跡7軒、溝3条、井戸1基、須恵器、土師器	市内遺跡部4	
15	滝3-3-84	(2009.8.2～14) 2009.10.23～11.6	100	分譲住宅	8世末住居跡1軒、井戸1、土坑8、ビット20、須恵器、土師器、銅線車	市内遺跡部7	
16	滝3-145	(2009.12.2～14)	434	宅地造成	ビット3	市内遺跡部8	
17	滝3-3-6・144	(2010.5.6～6.18)	331	分譲住宅	奈良平安時代住居跡5軒、井戸1、土坑4、溝2、塀石	市内遺跡部10	
18	滝2-6-4・6	(2011.6.6～13) 2011.6.14～7.14	1164	個人住宅	古墳時代住居跡2軒他、土師器、近世陶磁器等	市内遺跡部14	
19	滝3-4-2	(2011.10.17～24)	1,277.16	分譲住宅	溝2、須恵器	市内遺跡部14	
20	滝1-8-9	(2012.5.9～11)	1,244.5	道路築造	住居跡1軒、時期不明井戸、土坑、ビット	市内遺跡部12	
21	滝1-1-7・26・31	(2012.5.11～21) 2012.7.17～8.25	1,176.25	共同住宅	奈良平安時代遺跡中住居跡1軒(H31)・奈良平安時代住居跡2軒(H32、H33)、樹立建物跡、井戸、溝、土坑、ビット、須恵器、土師器、銅片等遺物他	市内遺跡部12	
22	滝1-1-40	(2013.7.30)	114	個人住宅	遺構遺物なし	市内遺跡部18	
23	滝1-3-5の一部	(2014.2.12)	371	個人住宅	遺構遺物なし	市内遺跡部18	
24	滝1-1-8の一部	(2014.7.16～18)	222.8	分譲住宅	奈良平安時代と見られる土2、ビット2	未報告	
25	滝1-2-4・32	(2014.7.17～8.26) 2014.9.8～10.31	2,804	宅地造成	古代住居跡住居跡4、樹立建物跡2、井戸4、土坑3、溝2、ビット23、須恵器、土師器	市内遺跡部16	
26	滝2-5-6・8他	(2015.10.19～27) 2015.8.24～9.9) 2015.11.9～10	1,231	個人住宅及び貸付住宅	縄文時代溝と穴1、古代住居跡2、時期不明井戸5、土坑7、ビット46、縄文土器、石器、土師器	未報告	H27・28年度調査

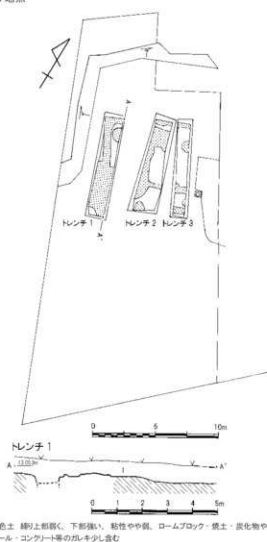
※理：上福岡市教育委員会埋蔵文化財の調査報告書、上遺跡：上福岡市遺跡調査会報告書、教育：上福岡市教育委員会、市内：ふじみ野市市内遺跡部報告書

第22地点



- I. 暗褐色土 締り強、粘性有。ローム主体の盛土
 II. 黒反褐色土 締り弱、粘性有。2mm以下ローム少し含む。新拌土
 III. 黒色土 締り弱、粘性有。I層より黒い包含有。2mm以下ローム粒少し含む
 IV. 暗褐色土 締りやや強、粘性有。地山ソフトローム、やや豆層を含み、地山ローム層の裏層

第23地点



- I. 暗褐色土 締り上部弱く、下部強い、粘性やや弱。ロームブロック・炭土・炭化物やビニール・コンクリート等のカレキ少し含む
 II. 暗褐色土 締り強、粘性有。ローム主体の盛土

第14図 滝遺跡第22・23地点調査区域図 (1/300)、土層 (1/150)

第8章 西原遺跡の調査

I 遺跡の立地と環境

西原遺跡は武蔵野台地の北東端、荒川低地に舌状に突き出た武蔵野段丘面の、標高約18mの台地上に立地する。遺跡の北側約100mには現在、市立福岡中学校のグラウンドがあるが、かつては「滝」の地名の由来となった、段丘上から滝が落ちていたと言われる付近である。

周辺の遺跡は、武蔵野段丘面から一段低い立川段丘面にかけて滝遺跡、長宮遺跡、松山遺跡が広がる。南側約100mに古墳時代後期の横穴墓の福遺跡、同約250mに富士見台横穴墓群が位置する。

本遺跡周辺は早くから宅地化が進み、また残された部分も山林等であった。昭和1965年の分布調査で「中飛西原 遺物の散布地は、西に向かってゆるやかに傾斜する台地の肩部に位置し、その範囲も極めて狭いが、縄文式土器の細片(野鳥、加曾利E期)が発見できた」。以後、1985年の試掘調査で縄文時代の集石土坑1基が検出されているが、1994年と1997年の試掘調査で遺構、遺物は確認されていない。

西原遺跡の調査は今回で4ヶ所目である。

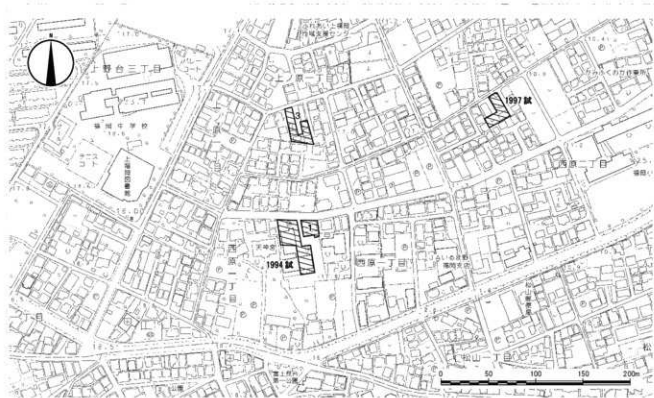
II 西原遺跡第3地点

(1) 調査の概要

調査は分譲住宅建設に伴うもので、原因者より2013年3月14日付けで、「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の北端に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため、2013年4月4日～11日に試掘調査を実施した。

試掘調査は、幅約1mと1.5mのトレンチを合わせて5本設定し、重機で表土除去後、人力による表面精査を行った。現地表面から地山ローム層までの深さは約60cmである。

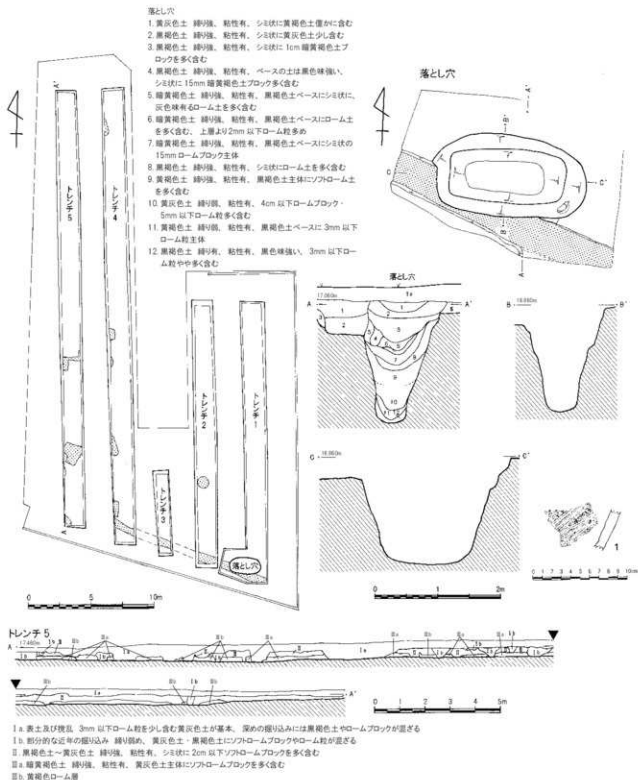
調査区の南東部で、落とし穴とみられる土坑を検出したが、時期は不明である。平面形態は隅丸長方形で、規模は確認面径245×130cm、底径125×50cm、深さ165cmである。足掛け穴とみられる小ピットが、東壁の上部にみられる。遺構外から条線文を施す縄文土器1点が出土した。旧石器時代の確認調査は行ってない。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえ埋め戻し、調査を終了した。



第15図 西原遺跡の地形と調査区(1/4,000)

第13表 西原遺跡調査一覧表

地点	所在地	調査期間 (又は試掘調査)	面積 (㎡)	調査原因	確認された遺構と遺物	所収報告書
1	西原 1-1-37	(1985.4.25~30)	360	個人住宅	集石遺構 1	埋蔵文化財の調査(Ⅷ)
試掘調査 1994 試	西原 1-33 外	(1994.6.15~24)	4,738	共同住宅	遺構・遺物なし	埋蔵文化財の調査(Ⅶ)
試掘調査 1997 試	西原 2-3-12	(1997.12.9~12)	616.34	宅地造成	遺構・遺物なし	埋蔵文化財の調査(Ⅱ)
3	上ノ原 1-2-25・57	(2013.4.4~11)	578	分譲住宅	落とし穴、土層片	市内遺跡群 Ⅷ



第16図 西原遺跡第3地点遺構配置図 (1/300)、土層 (1/150)、落とし穴 (1/60)、出土遺物 (1/4)

第9章 長宮遺跡の調査

I 遺跡の立地と環境

長宮遺跡は、武蔵野台地の北東端、荒川低地に舌状に突き出た武蔵野段丘面の台地東側をおりた一段低い立川段丘面に立地している。この低位の段丘面には「熊の山」と呼ばれた山林を湧水源とする清水が流れ（現在は排水溝として利用）、幅 100 m ほどの緩い小支谷を形成し、清水の北側左岸に滝遺跡、南側右岸に長宮遺跡が分布する。北東側は荒川低地の沖積地と接し、500 m 南側には福岡江川が流れ、標高 9 ～ 10 m 前後の微高地を形成する。遺跡の範囲は南北 300 m、東西 500 m 以上ある。宅地開発が進むが部分的に畑が残っている。

遺跡の西方には長宮氷川神社があり、この神社の縁起伝承には「長宮千軒町」として繁盛したが、戦国期に壊滅した旨が記されている。周辺の遺跡は、北側に縄文時代早・前期、古墳時代前・後期から奈良・平安時代の遺跡である滝遺跡、南側には飛鳥・奈良・平安時代、中近世の松山遺跡が隣接する。1977 年の保育園建設に伴う緊急調査で中世の屋敷地と思われる。

遺構群を検出したのをはじめ、宅地造成などにより 2016 年 7 月現在 53 ヶ所で調査を行っている。主たる時代と遺構は縄文時代早期後葉から前期・中期・後期前葉までの集落跡、南側の松山遺跡寄りに飛鳥時代の住居跡、中世末から近世初頭の屋敷跡や長宮氷川神社参道に關係のある溝跡などである。

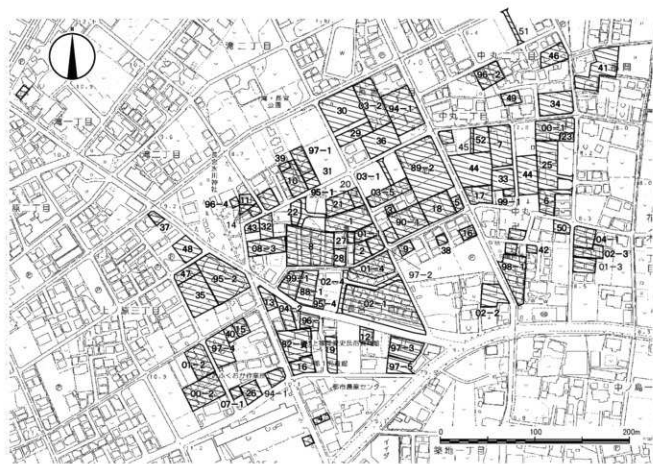
長宮遺跡第 44 地点の試掘調査および本調査については、ふじみ野市埋蔵文化財調査報告第 14 集『市内遺跡群 13』（2015.3）で報告済みのため、本書では割愛した。

II 長宮遺跡第 45 地点

(1) 調査の概要

調査は市道築造に伴うもので、ふじみ野市長より 2013 年 6 月 3 日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の中央部に位置し隣接地で遺構と遺物が確認されているため、試掘調査を実施した。

試掘調査は 2013 年 8 月 7 日～ 10 日まで行った。



第 17 図 長宮遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

幅約1mと1.5mのトレンチ合わせて3本を設定し、重機で表土除去後、人力による表面精査を行った結果、第44地点から続く溝2本を確認した。遺跡確認面までの深さは約50～60cmであり、一部を拡張して調査を行った。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえ埋め戻し、調査を終了した。旧石器時代の確認調査は行っていない。遺構と遺物は、次のとおりである。

(2) 遺構と遺物

【溝】溝4aと溝4bは調査区の北側で重なる。隣接する第45地点では1本の溝4としていたが、本地点で、2本に別れているのが再確認されたため、溝4aと溝4bとした。

溝4aはトレンチ1～3に位置する。断面は浅い「U」字形で、上幅56～110cm、下幅10～70cm、深さ29.6cmである。

溝4bはトレンチ2・3に位置する。断面は「V」字形から浅い「U」字形で、上幅41～60cm、下幅10～40cm、深さ28.9cmである。

【遺物】(第19図1～7) 1は、溝4a出土のカワラケで推定口径11cm、口縁部から口唇部の内面にかけて煤が付着する。胎土は明黄褐色で1mm以下の赤褐色スコリアを多く含む。

2～7は溝4b出土である。2、3は焙烙で、2には内耳の一部がみられる。4は渥美産の裏で叩き目痕と、割れ口の一部に擦痕がみられる。転用砥石か。5は砂岩の打製石斧で長さ9.4cm、幅4.4cm、厚さ1.3cm、重さ57.67gである。6は平瓦で重さ240.62gである。7は緑泥片岩の板碑の上端で、二条線の一部が残る。裏面にノミ痕有り、重さ417.21g。

Ⅲ 長宮遺跡第46地点

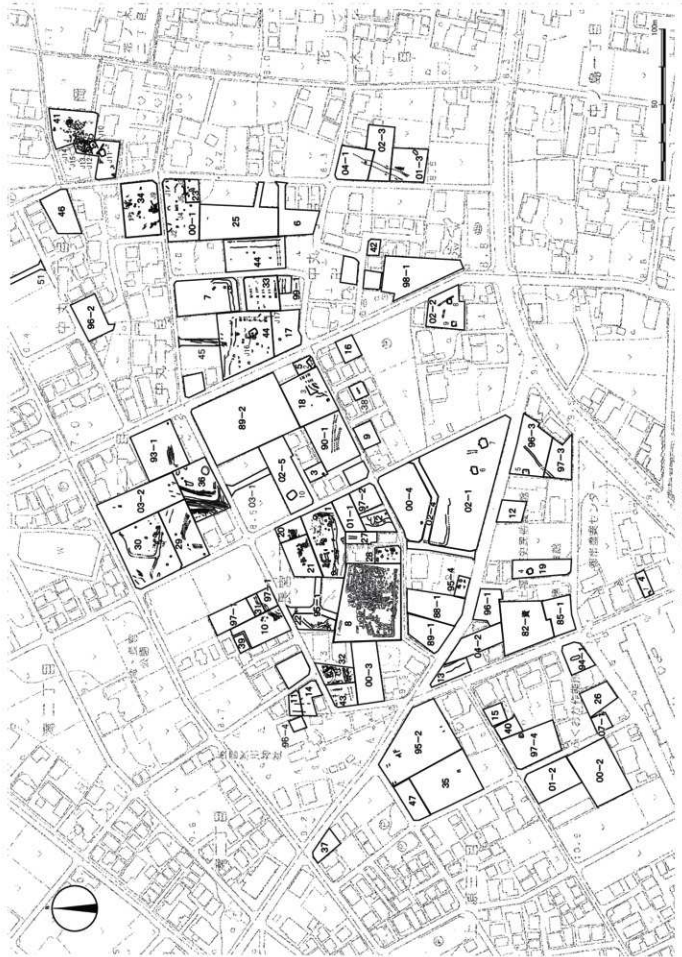
(1) 調査の概要

調査は高齢者ディサービスセンター建設に伴うもので、原因者より2013年6月6日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の北西端に位置するため、申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため、2013年9月6日～10日まで試掘調査を実施した。

試掘調査は幅約1.5mのトレンチ4本を設定し、重機で表土除去後、人力による表面精査を行った。現地表面から地山灰白色(または灰黄色)層までの深さは80～110cmである。遺構はなく、表土層より遺物1点を採取した。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえ埋め戻し、調査を終了した。旧石器時代の確認調査は行っていない。

第14表 長宮遺跡調査一覧表

地点	所在地	調査期間 ()は試掘調査	面積 (㎡)	調査原因	確認された遺構と遺物	所収報告書
25	中丸1-4-8	(2007.2.15-16)	1,161	個人住宅	ビット3、縄文土器・石器他	市内3
26	内畑2-5-2の一部	(2007.3.28)	594	個人住宅	縄文土器片	市内3
27	長宮2-1-4	(2007.5.30-31)	175	個人住宅	溝、保存措置	市内4
28	長宮2-1-8	(2007.5.31-6.5)2007.6.6-22	188	個人住宅	中近世井戸5、土坑10、ビット13他、縄文土器・石器、中近世陶磁器他	市内4
土妻立倉	内畑2-5-31	2007.10.15	120	個人住宅		市内4
29	長宮2-4-6の一部	(2007.11.20-12.3)12.4-5	618	共同住宅	土坑1、井戸2、堀跡1、溝5、ビット10、縄文土器、中近世土器他	市内4
30	長宮2-4-6	(2009.9.28-11.2)11.4-12.8	1,362.10	高齢者福祉施設	中近世土坑、井戸、ビット8、溝2、縄文土器・石器、中近世陶磁器他	市内7,8
31	欠番					
32	長宮2-1-18	(2010.1.15-25)2.4-26	271	分譲住宅	中近世土坑20、ビット142、溝3、縄文土器、中近世陶磁器他	市内7,8
33	中丸1-3-2	(2011.5.19-31)	534	分譲住宅	縄文時代集石土坑4、土坑4、ビット13、溝3、縄文土器、瓦器、陶磁器	市内14
34	中丸2-2-2、46	(2011.6.27-7.16)11.2-12.1	914	分譲住宅	縄文時代早期の穴、陶器(陶山)住居跡1、瓦器跡、縄文土器他	市内11
35	上ノ原3-1-4	(2011.9.9-26)	1,157.88	分譲住宅	縄文時代が穴1、土器、石器	市内14
36	長宮2-4-3	(2011.10.4-17)10.21-11.14	981	分譲住宅	中近世井戸16、土坑4、溝16、ビット20、板碑他	市内11
37	上ノ原3-6-6	(2011.11.8)	105	個人住宅	なし	市内14
38	長宮1-4-27	(2011.11.24-25)	101	分譲住宅	なし	市内14
39	長宮2-3-23	(2012.1.7)	130.54	個人住宅	なし	市内14
40	内畑2-5-7の一部	(2012.4.16)	201	個人住宅	遺構なし、縄文土器片	市内15
41	福園子丸敷988-1～3、989-2、5、990-3	(2012.4.17-25)6.11-7.25	1,152.62	分譲住宅	縄文時代が穴10、縄文時代前期住居跡6、溝とし穴2、土坑27、ビット190、溝4、縄文土器片、石器、中近世陶磁器	市内12
42	中丸1-2-24	(2012.7.31)	101	分譲住宅	なし	市内15
43	長宮2-1-27	(2012.1.27-3.1)	231	個人住宅	中世～近世溝2・土坑3・ビット17、土器、石器	市内15
44	中丸1-3-3、1-4-5	(2013.5.14-6.24)6.25-7.30	2,128	分譲住宅	縄文前期住居跡1、が穴6、溝とし穴1、土坑15、井戸5、溝9、ビット4、縄文時代前期の石器、石器、中近世以降の陶磁器や板碑	市内13
45	中丸1-3-17・18、3-5	(2013.8.7-10)	119	道路築造	溝2、土器跡、石器、板碑	市内18
46	中丸2-22-13	(2013.9.6-10)	488	高齢者ディサービスセンター	遺構なし、礎石	市内18
47	上ノ原3-1-5	(2013.10.10)	330	共同住宅	遺構遺物なし	市内18
48	上ノ原3-6-1	(2014.4.2-8)	555	分譲住宅	井戸1、溝1、遺物なし	未報告
49	中丸2-2-4	(2014.10.23-30)	293	集合住宅	他土器5(縄文時代)、遺物なし	未報告
50	中丸1-2-17	(2015.3.16)	228	分譲住宅	遺構なし、陶磁器	未報告
51	中丸2-3-45-46	(2012.4.5)	176	道路	遺構なし、土器片1	市内15
52	中丸1-3-24	(2016.3.11-18)	484	分譲住宅	土坑1、井戸3、ビット、溝2、遺物なし	未報告



第18図 長宮遺跡遺構分布図 (1/2,500)

第20図1は、肥前の磁器で広東碗1点である。底部の約半分が残存し、推定底径6.5cmで外面に染付けを施す。

IV 長宮遺跡第47地点

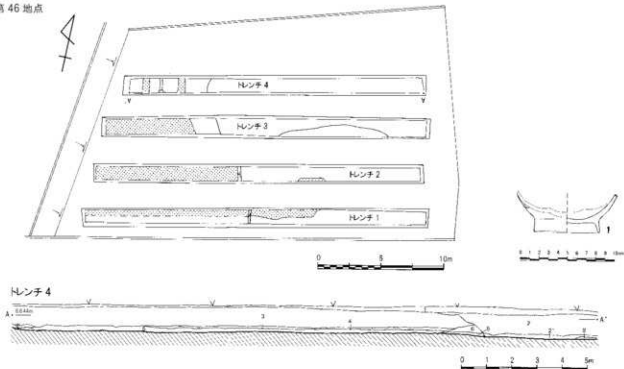
(1) 調査の概要

調査は共同住宅建設に伴うもので、原因者より2013年9月26日付けで「埋蔵文化財事前協議書」ふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範

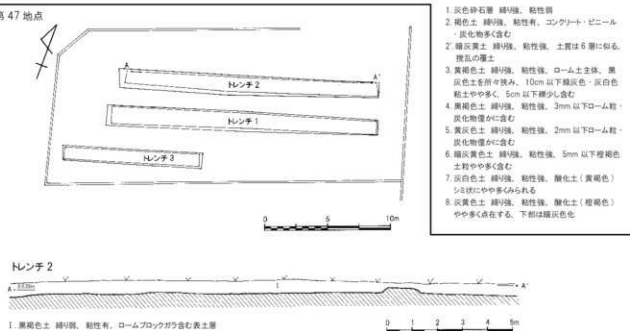
囲の北西端に位置するため、申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため、2013年10月10日に試掘調査を実施した。

試掘調査は幅1～1.5mのトレンチ3本を設定し、重機で表土除去後、人力による表面精査を行った。現地表面から地山ローム層までの深さは約50cmである。遺構、遺物はないため、写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえ埋め戻し、調査を終了した。旧石器時代の確認調査は行っていない。

第46地点



第47地点



第20図 長宮遺跡第46・47地点調査区域図(1/300)、土層(1/150)、第46地点出土遺物(1/4)

第10章 鶴ヶ舞遺跡の調査

I 遺跡の立地と環境

鶴ヶ舞遺跡は、入間川の支流新河岸川に注ぐ福岡川の谷頭部から、約500～900m程下った左岸に位置している。標高21～23mで現谷底との比高差は5mを測る。福岡川の左岸は急傾斜をなし、対岸の南側は緩やかな斜面を形成している。遺跡周辺は、急激な市街化によって商店や住宅が建ち僅かに畑地が残っている。

周辺の遺跡は約200m西に亀居遺跡、約150m南に江川南遺跡、約200m南東に東久保遺跡がある。

1987年の最初の調査から2016年7月現在、25地点で試掘及び発掘調査が行われ、旧石器時代の石器、縄文時代の炉穴、落とし穴、平安時代の溝を検出し、平安時代の須恵器壺が出土している。

II 鶴ヶ舞遺跡第25地点(旧18地点)

(1) 調査の概要

調査は分譲住宅建設に伴うもので、原因者より2013年3月18日付けで「埋蔵文化財事前協議書」が市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲内の

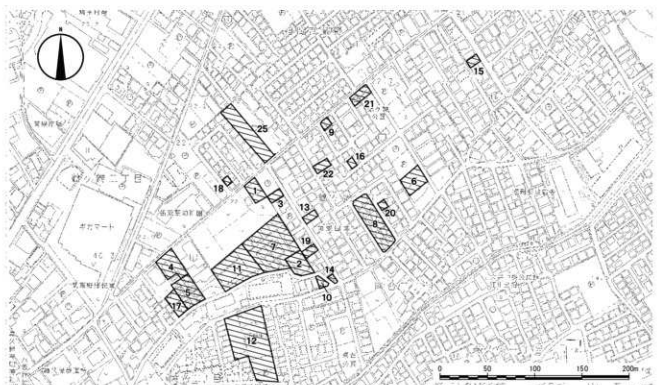
北西端に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため、2013年5月2日に、幅約1mのトレンチ2本を設定。重機で表土除去後、人力による表面精査を行ったが、遺構・遺物は確認されなかった。

写真撮影・平板測量による全測図作成等記録保存を行ったうえ埋め戻し、調査を終了した。なお、旧石器時代の確認調査は行っていない。

III 鶴ヶ舞遺跡第19地点

(1) 調査の概要

調査は分譲住宅建設に伴うもので、原因者より2013年3月19日付けで「埋蔵文化財事前協議書」が市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲内の中央部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため、2013年4月10日に、幅約1mと1.5mのトレンチ2本を設定。重機で表土除去後、人力による表面精査を行ったが、遺構・遺物は確認されなかった。写真撮影・平板測量による全測図作成等記録保存を行ったうえ埋め戻し、調査を終了した。なお、旧石器時代の確認調査は行っていない。



第21図 鶴ヶ舞遺跡の地形と調査区(1/4,000)

Ⅳ 鶴ヶ舞遺跡第20地点

(1) 調査の概要

調査は分譲住宅建設に伴うもので、原因者より2013年4月18日付けで「埋蔵文化財事前協議書」が市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲内の中央部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため、2013年5月13日に、幅約1.5mのトレンチ2本を設定。重機で表土除去後、人力による表面精査を行ったが、遺構・遺物は確認されなかった。近世以降とみられる溝状の掘り込みを確認したが、遺物もないため、今回は遺構とは断定できなかった。写真撮影・平板測量による全測図作成等記録保存を行ったうえ埋め戻し、調査を終了した。なお、旧石器時代の確認調査は行っていない。

Ⅴ 鶴ヶ舞遺跡第21地点

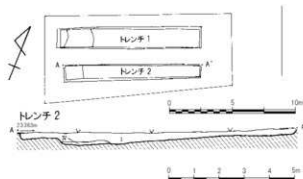
(1) 調査の概要

調査は分譲住宅建設に伴うもので、原因者より2013年10月11日付けで「埋蔵文化財事前協議書」が市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲内の北端に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため、2013年10月23日に、幅約1.5mのトレンチ2本を設定。重機で表土除去後、人力による表面精査を行ったが、遺構・遺物は確認されなかった。写真撮影・平板測量による全測図作成等記録保存を行ったうえ埋め戻し、調査を終了した。なお、旧石器時代の確認調査は行っていない。

第15表 鶴ヶ舞遺跡調査一覧表

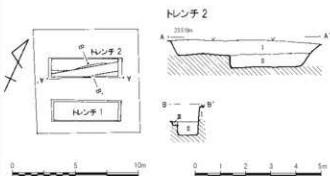
地点	所在地	調査期間 ()は試掘調査	面積 (㎡)	調査原因	確認された遺構と遺物	所収報告書
1	鶴ヶ舞 67-3	(1986.1.28・29)	499	個人住宅	土坑1、縄文中期土器片	東部遺跡群Ⅵ
2	鶴ヶ舞 1-65-6	(1987.4.16～30)	495	個人住宅	竪穴3、土坑2、平安時代溝1、旧石器、土器片、須恵器	東部遺跡群Ⅶ
3	鶴ヶ舞 1-69-1	(1994.7.10)	141	駐車場造成	遺構なし	町内遺跡群Ⅳ
4	鶴ヶ舞 1-60-6・10	(1997.8.26～29)	318	共同住宅	近代溝6、井戸1	町内遺跡群Ⅶ
5	鶴ヶ舞 1-61-3	(1997.11.4～6)	266	分譲住宅	近世溝2	町内遺跡群Ⅶ
6	鶴ヶ舞 1-84	(2002.9.10～13)	474	個人住宅	遺構・遺物なし	町内遺跡群ⅩⅡ
7	鶴ヶ舞 1-65-1	(2003.5.29～6.14) 2003.6.23～7.3	2,030	分譲住宅	旧石器確群、縄文土坑1	町内遺跡群ⅩⅡ
8	鶴ヶ舞 1-69-46～51・ 61～66	(2005.7.11～8.11)2005.8.24	1,087	分譲住宅	竪穴6、ビット3	調査会報告 18集
9	鶴ヶ舞 1-16-5	(2005.11.1)	104	共同住宅	ビット3、遺物なし	市内遺跡群 2
10	鶴ヶ舞 1-64-6	(2006.6.5)	96	個人住宅	根張り溝1、旧石器時代確群1	市内遺跡群 3
11	鶴ヶ舞 1-65-2・6	(2006.9.21～10.5)	1,316	建物解体工事	遺構・遺物なし	市内遺跡群 3
12	鶴ヶ舞 1-58-4	(2011.7.19～21)	98	個人住宅	遺構・遺物なし	市内遺跡群 14
13	鶴ヶ舞 1-78-7	(2011.7.21)	115	個人住宅	遺構なし、土器片	市内遺跡群 14
14	鶴ヶ舞 1-79-7	(2011.9.22)	56	個人住宅	遺構・遺物なし	市内遺跡群 14
15	南台 798-33	(2011.11.22)	100	個人住宅	遺構・遺物なし	市内遺跡群 14
16	鶴ヶ舞 1-73-10	(2012.9.7)	63	分譲住宅	遺構・遺物なし	市内遺跡群 15
17	鶴ヶ舞 1-58-2	(2012.11.16)2012.11.16	324	個人住宅	遺構・遺物なし	市内遺跡群 15
18	福岡武蔵野 1408-4(9-6)	(2013.1.21)	61	個人住宅	遺構・遺物なし	市内遺跡群 15
19	鶴ヶ舞 1-79-25	(2013.4.10)	94.6	分譲住宅	遺構・遺物なし	市内遺跡群 18
20	鶴ヶ舞 1-69-70	(2013.5.13)	68.6	個人住宅	遺構・遺物なし	市内遺跡群 18
21	鶴ヶ舞 1-73-27・51・52・54	(2013.10.23)	135.6	分譲住宅	遺構・遺物なし	市内遺跡群 18
22	鶴ヶ舞 1-69-35・36	(2014.12.4)	171	個人住宅	遺構・遺物なし	未報告
23	鶴ヶ舞 1-73-19	(2015.6.29)	72	建売住宅	遺構・遺物なし	未報告
24	鶴ヶ舞 1-67-3・4の一部	(2015.8.31)	499	個人住宅	遺構・遺物なし	未報告
25	福岡武蔵野 1406-7・8・ 10・11	(2013.5.2)	1,125	分譲住宅	遺構・遺物なし	市内遺跡群 18

第19地点



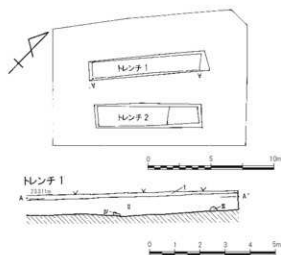
- I. 黒色土 赤土層、ガラ含む
 IV. 褐色土 緑褐色、粘性有、地山(ハードローム)

第20地点



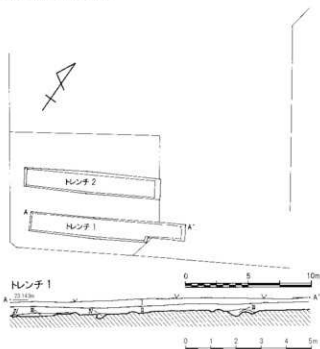
- I. 黒色土 緑褐色や弱、粘性有、赤土、5mm以下ロームブロック多量に含む。上層には木の屑等のゴミを多く含む
 II. 黒色土 緑褐色、粘性有、1cm以下ロームブロックや多く、5mm以下ロームブロック多量に含む
 III. 黒褐色土 緑褐色、粘性有、上層20m以下シニ状ローム多、下層に3m以下ローム粒少し含む

第21地点



- I. 灰色土 緑褐色、粘性有、軽集積砂利
 II. 黒色土 緑褐色、粘性有、赤土黒色土で一部にゴミ含む、5mm以下ローム粒少し含む
 III. 緑褐色土 緑褐色、粘性有、ソフトロームの地山
 IV. 褐色土 緑褐色、粘性有、ハードローム地山

第25地点(旧18地点)



- I. 砂利集積集積赤土
 II. 黒褐色土 緑褐色、粘性有、2mm以下ローム粒多量に含む、旧新作土
 III. 黒褐色土 緑褐色、粘性有、黒色土ベースに2cm以下II層ブロックを定状に多く含む
 IV. 黒色土 緑褐色、粘性有、2mm以下シニ状褐色土を極少し含む、平面でプラン確認したシニ状の跡

第11章 松山遺跡の調査

I 遺跡の立地と環境

松山遺跡は、亀居遺跡付近を湧き水源とする福岡江川の左岸、武蔵野台地の一段低い立川段丘面に立地している。東側は荒川低地の沖積地と接し、標高9～10m前後の微高地を形成する。遺跡の範囲は南北500m、東西600m以上である。宅地開発されるが部分的に畑が残っている。

周辺の遺跡は、すぐ北側に縄文時代早期～後期、飛鳥時代および中近世にわたる長宮遺跡、福岡江川を挟んだ対岸には福岡新田遺跡、同じく対岸の250m南東側には、縄文時代前期集落の鷺森遺跡がある。また、西方約350mの比高差9mを持ってそびえる台地の南東崖面には富士見台横穴墓群が望まれる。

1978年の宅地造成に伴う緊急調査で奈良時代の住居跡を検出したのをはじめ、宅地造成などにより約100ヶ所で調査が行われている。主たる時代と遺構は、

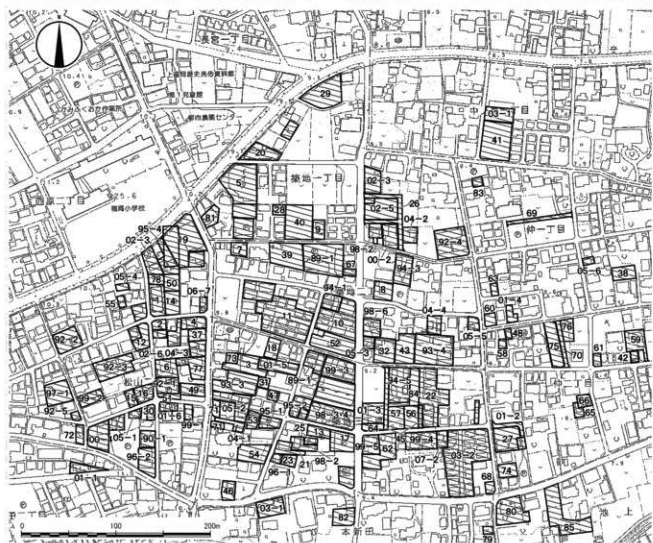
長宮遺跡と接した北寄りに飛鳥時代の住居跡、遺跡中央の東西240m、南北210m程度の範囲に奈良・平安時代の住居跡・掘立柱建物跡・井戸跡、中近世以降の溝・井戸跡などである。特に溝、井戸等の中近世の遺構は東側の低地へも広がりを見せており、遺跡範囲の変更増補を行った。

II 松山遺跡第69地点

(1) 調査の概要

調査は市道築造に伴うもので、ふじみ野市長より2013年3月25日付で「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の北東部に位置するため、関係課と協議の結果、試掘調査を実施した。

試掘調査は2013年9月10日と11日に行った。幅約1mと1.5mのトレンチ合わせて3本を設定し、



第23図 松山遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

第 16 表 松山道跡調査一覧表

地点	所在地	調査期間 ()は試掘調査	面積 (㎡)	調査原因	確認された遺構と遺物	所収報告書
05 試(1)	松山 2-2-4 の一部	(2005.4.6~7)	313	土地分譲	遺構遺物なし	市内 1
05 試(2)	築地 3-1-32・34・43	(2005.4.19~21)	549	土地分譲	遺構遺物なし	市内 1
05 試(3)	築地 2-5-32	(2005.4.28)	132	個人住宅	遺構遺物なし	市内 1
31 次	築地 3-1-69	2005.6.14~23(2005.6.9~13)	120	個人住宅	古壇住居跡 1	市内 1
05 試(6)	築地 2-5-3	(2005.8.30~9.13)	567	宅地造成	平安住居跡 1	市内 1
32 次	築地 2-5-3 の一部	(2005.8.30~9.7.9.8~13)	132	個人住宅	平安住居跡 2	市内 1
05 試(5)	築地 2-5-36	(2005.10.31)	125	個人住宅	遺構遺物なし	市内 1
05 試(4)	松山 2-4-23	(2005.10.20~21)	161	個人住宅	遺構遺物なし	市内 1
05 試(6)	仲 1-4-26	(2005.11.14)	108	個人住宅	遺構遺物なし	市内 1
05 試(7)	松山 2-5-21	(2006.2.28)	100	個人住宅	遺構遺物なし	市内 2
37	松山 2-6-10・13	(2006.4.13)	228	個人住宅	遺構遺物なし	市内 3
38	仲 1-4-3・9・12・13・24	(2006.5.29)	2,176	宅地造成	遺構遺物なし	市内 3
39	築地 2-3-10	(2007.1.10~20)	937	宅地造成	遺構遺物なし	市内 3
40	築地 1-1-5	(2007.2.2~8)21~3.9	1,047	宅地造成	奈良住居跡 1, 中世遺構横山	市内 3
41	中ノ島 1-2-5	(2007.2.7~9)21~3.5	1,281	宅地造成	中世遺構遺物出土	市内 3
42	仲 2-3-15	(2007.2.13)	108	個人住宅	遺構遺物なし	市内 3
43	築地 2-5-2	(2007.4.11~24)	668	分譲住宅	堀跡 1, 土坑 1, 旧石蔵ナイフ 1 点	市内 4
44	築地 3-2-10・14	(2008.6.9~11)	132	個人住宅	遺構遺物なし	市内 6
45	築地 3-4-7 の一部外	(2008.9.4~30)10.1~23	300	道路(上下水道)	奈良・平安時代邪穴住居跡 2, 掘立柱建物跡 2, 邪穴遺構 1, 時期不明の溝 10, 土坑, ビット	市内 6
46	築地 3-1-33・35 の一部	(2009.2.17)	309	個人住宅	遺構遺物なし	市内 6
47	築地 3-1-52	(2009.5.11~12)	121	個人住宅	ビット	市内 8
48	仲 2-2-34	(2009.7.1)	67	個人住宅	遺構遺物なし	市内 8
49	松山 2-6-1・14・22 の一部	(2009.10.17~22)10.27~11.18	449	宅地造成	平安時代邪穴住居跡 1(住内副坑伊集出), 土坑 1, 溝 1, ビット 1	市内 8
50	築地 1-1-5・3・17	(2009.11.27~12.1)	797	分譲住宅	溝 1, ビット 7	市内 8
51	松山 2-6-22・23・28 の一部	(2010.5.10~13)	360	分譲住宅	遺構遺物なし	市内 10
52	築地 2-2-1	(2010.8.26~9.3)	694	分譲住宅	溝 1, 溝と土穴 1, 工事立会	市内 10
53	築地 3-1-11	(2010.9.10~21)	205	個人住宅	近代以降の溝 3, アナグラ 1, 傾斜工事	市内 10
54	築地 3-1-6・76~83	(2010.9.21~10.1)10.4~11.5	540	宅地造成	奈良・平安住居跡 3 確認, 西側 1 の住居は礎石保存, 他 2 は本調査	市内 9
55	松山 2-4-24 の一部	(2011.1.17)18~31	226	個人住宅	奈良平安時代の住居跡 1, 掘立柱建物跡 1, 本調査	市内 10
56	築地 3-4-7・8 の一部	(2011.4.4~14)11~15	483	共同住宅	奈良平安時代掘立柱建物跡 2 他, 本調査(一部工事立会)	市内 11
57	築地 3-4-47	(2011.4.4~15)	241	分譲住宅	隣接する 45 地点から続く 80 号住居跡と遺構, 遺物なし	市内 14
58	仲 2-2-31	(2011.6.6~8)6.14	115	個人住宅	井戸 1, 溝 1, ビット 1, 本調査	市内 14
59	仲 2-3-6・9	(2011.8.8~10)10.11	560	個人住宅	土坑 2, 溝 3, 礎石土器, 須恵器, 本調査	市内 14
60	仲 1-1-15	(2012.3.26~27)	165	個人住宅	堀跡 1, 溝 1, 陶磁器, 惣括, 工事立会	市内 14
61	仲 2-3-3	(2012.4.16~19)	113	個人住宅	溝 1, 土坑 3, 陶磁器	市内 15
62	築地 3-5-11・14・19	(2012.6.11~21)7.23~8.1	842	分譲住宅	縄文時代住居跡 1, 奈良平安時代住居跡 1, 溝 6, 礎石土器, 瓦葺, 魚	市内 12
63	仲 1-1-55・56・57	(2012.6.5)	120	個人住宅	遺構遺物なし	市内 15
64	築地 3-4-9	(2012.6.7~15)	314	分譲住宅	溝 4, 近所の土坑, 陶磁器	市内 15
65	仲 2-1-25・36	(2013.2.13~18)2.19~3.21	630	物置	奈良平安時代住居跡 2, 掘立柱建物跡 3, 土坑 6, 溝 6, 須恵器, 旧石蔵	市内 15
66	仲 2-1-53・54		179	個人住宅		市内 15
67	築地 3-3-13	(2013.2.19)	92	個人住宅	遺構遺物なし	市内 15
68	築地 3-5-1	(2013.7.3~8)	166	個人住宅	井戸 1, 土坑 1, ビット 4, 須恵器, 土師器等	市内 15
69	仲 1-51・53・55	(2013.9.10~11)9.12~17	298	道路築造	縄文時代集石土坑 1, 溝 1	市内 18
70	仲 2-2-39・41	(2013.4.11~16)4.17~23	220	道路	奈良平安時代住居跡 1, 中世以降井戸 1, 集石土坑 1, 溝 2, 須恵器, 土師器, 土器, 陶磁器	市内 18
71	築地 3-1-16・32・34	(2013.4.30~5.1)	240	分譲住宅	ビット 1, 古淵, 陶器片 1	市内 18
72	松山 1-4-1	(2013.5.24)	199	個人住宅	遺構遺物なし	市内 18
73	築地 3-1-56	(2013.8.19)8.20	165	個人住宅	平安時代住居跡 1, 須恵器	市内 18
74	仲 2-1-37	(2013.12.24~26)	280	分譲住宅	井戸 1, 集石土坑 1, 溝 2, 土坑 1, 陶磁器	市内 18
75	仲 2-2-2・4	(2014.1.14~20)8.5~11	606	分譲住宅	平安住居跡 1, 溝 3, 須恵器, 土師器	市内 18
76	仲 2-2-48	(2014.1.22~28)9.26~10.2	120	個人住宅	土坑 1, 井戸 1, 溝 1, 土器	市内 18
77	仲 2-2-37	(2014.1.22~28)11.12~17	120	個人住宅	古代住居跡 1, 土師器	市内 18
	仲 2-2-37	(2014.1.22~28)	362	造成工事	平安時代住居跡 1, 井戸 2, 溝 2, 土坑 3, 土師器, 須恵器, 中世陶器	市内 18
77	松山 2-6-2・3・12 の各一部	(2014.3.3~12)3.13~27	493	個人住宅	平安時代住居跡 1, 土坑 3, 土師器, 須恵器	市内 18
78	松山 2-5-5	(2013.5.22)	242	個人住宅	遺構遺物なし	未報告
79	本新田 395-1 の一部	(2014.8.5)	153	個人住宅	遺構遺物なし	未報告
80	池上 372	(2015.3.12)	1,183	個人住宅	遺構遺物なし	未報告
81	築地 1-1-12	(2015.3.23)	247	分譲住宅	遺構遺物なし	未報告
82	本新田 411 の一部	(2015.7.30~31)	194	個人住宅	溝 1, 遺物なし	未報告
83	仲 1-2-22	(2015.8.31)	98	分譲住宅	溝 1, 遺物なし	未報告
84	築地 3-4-13	(2015.9.15~16)	455	宅地造成	平安時代住居跡 1, 井戸 1, 土師器	未報告
85	池上 362-1 の一部, 364・365・366 の一部	(2015.10.1~19)10.20~26	1,244	分譲住宅	古代時代住居跡 2, 堀外戸 1, 溝 1, 土師器, 陶磁器, 石製品	未報告



第24図 松山遺跡遺構分布図 (1/3,000)

重機で表土除去後、人力による表面精査を行った結果、縄文時代とみられる集石土坑 1 基を確認した。遺跡確認面までの深さは約 60 ~ 70 cm であり、遺構への影響が避けられないため、本調査を実施した。本調査は試掘調査に引き続き 12 日 ~ 17 日までを行った。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえ埋め戻し、調査を終了した。旧石器時代の確認調査は行っていない。遺構と遺物は、次のとおりである。

(2) 遺構と遺物

【集石土坑】 調査区の西部に位置し、土坑の平面形

態は円形を呈する。規模は確認面径 84 × 76 cm、底径 47 × 46 cm、深さ 23 cm である。礫は土坑内から密に出土する。出土礫の詳細は第 18 表のとおりである。

【溝】 調査区の西部に位置し、調査区に沿って東西方向に延びるが、北側の立ち上がりは未確認である。南側の立ち上がりは緩やかである。上幅 70 cm 以上、下幅 25 cm 以上で深さ 32.9 cm である。近世以降の時期で土地境の溝の可能性はある。

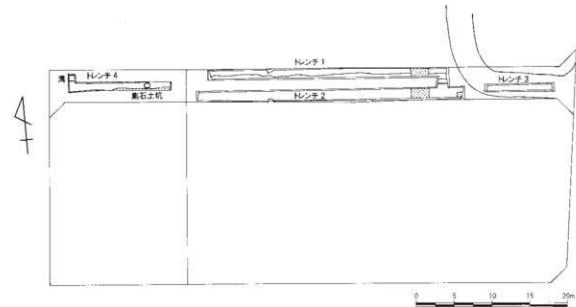
【遺物】 (第 25 図) 1 は表土層出土の縄文時代早期の土器で、胎土に繊維を含み外面に条痕文を施す。

第 17 表 松山遺跡古代住居跡一覧表 (単位 cm)

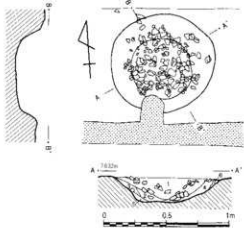
住居番号	調査年度	調査名	調査中	平面形 (形状)	規模	方位	掘削 状況	方丈 規模m	周溝	主軸方位	時期	備考	文献
1	1978	第 1 次 1 号住居	完掘	正方形	390 × 380	K	東	110 × 75	○	掘削前			埋蔵文化財の調査 1
2	〃	第 1 次 2 号住居	完掘	台形	360 × 320	K	東	120 × 85	○	掘削前			埋蔵文化財の調査 1
3	1979	第 2 次 3 号住居	2/3	(方形)	350 × 19	K	東		一部	掘削後			埋蔵文化財の調査 2
4	〃	第 3 次 4 号住居	完掘	方形	530 × 475	K	北	200 × 100	○	N-14 北			埋蔵文化財の調査 2
5	1991	第 10 次 5 号住居	完掘	長方形	230 × 350	K	北-東		○	9c-2 中期			埋蔵文化財の調査 14
6	〃	第 10 次 6 号住居	2/3	方形	340 × 300	K	東		○	9c-2 中期			埋蔵文化財の調査 14
7	〃	第 11 次 7 号住居	完掘	正方形	400 × 400		遺存状況悪い		○	8c-4 中期			埋蔵文化財の調査 14
8	1992	第 13 次 8 号住居	3/4	(方形)	400 ×				○	N-10 北			埋蔵文化財の調査 15
9	1993	第 15 次 9 号住居	完掘		A440 × 350, B420 × 310, C260 × 300	K	東-北	A210 × 210, B210 × 210, C80 × 65	○	9c-1 中期		鉄線型瓦葺遺跡出土	埋蔵文化財の調査 16
10	〃	第 16 次 10 号住居	1/3	正方形	560 × 560	K	北	130 × 80	○		8c-4 中期		埋蔵文化財の調査 16
11	〃	第 17 次 11 号住居	完掘	方形	600 × 600	K	北		○	越大住居	7c-4 中期	黒色土跡遺跡出土	埋蔵文化財の調査 16
12	〃	第 18 次 12 号住居	完掘	方形	400 × 320	K	北		○(○)		8c-4 中期		埋蔵文化財の調査 16 と市史
13	1994	第 19 次 13 号住居	完掘	長方形	450 × 300	K	北		○	N-5 北	9c-1 中期		松山遺跡第 19 次調査概説
14	〃	第 19 次 14 号住居	完掘	長方形	450 × 500	K	東-北		○	N-5 北	9c-1 中期	土跡出土	松山遺跡第 19 次調査概説
15	〃	第 20 次 15 号住居	完掘	長方形	370 × 470	K	北西	70 × 70	○		7c-4 中期		松山遺跡第 20 次調査
16	1995	7 年連続(2) 16 号住居									N-20 北		本報告
17	〃	第 21 次 17 号住居	完掘	長方形	480 × 400	K	北		○		7c-4 中期		埋蔵文化財の調査 19
18	1997	第 22 次 18 号住居	完掘	長方形	240 × 460	K	東	90 × 60	○	N-50 北	8c-東		埋蔵文化財の調査 20
	〃	第 22 次 1 号掘立	部分	長方形	東西 2 間南北 2 間						8c-東 ~ 9c-初		埋蔵文化財の調査 20
	〃	第 22 次 2 号掘立	部分	長方形	東西 2 間南北 2 間						8c-東 ~ 9c-初		埋蔵文化財の調査 20
	〃	第 22 次 3 号掘立	部分	長方形	(東西 2 間南北 3 間)						8c-東 ~ 9c-初		埋蔵文化財の調査 20
19	1998	第 23 次 19 号住居	4/5	長方形	260 × 290				○	N-30 北	8c-後半		埋蔵文化財の調査 21
20	1999	第 25 次 20 号住居									8c-初頭		土跡 6 点出土
21	〃	第 25 次 21 号住居									8c-初頭		粗紋土器 市史文庫編
22	2000	第 26 次 22 号住居	完掘		360 ×	K	北		○		7c-後半	14 年度完掘、 被災住居	未報告
23	〃	第 27 次 23 号住居	完掘	台形	600 × 720	K	北		○		8c-中葉		埋蔵文化財の調査 23
24	2001	第 28 次 24 号住居	1/2		340 ×	K	北西		○		8c-中葉		埋蔵文化財の調査 24
25	2000	12 年度試掘 5	2/3				遺存状況悪い						埋蔵文化財の調査 23
26	2002	第 29 次 26 号住居	完掘	長方形	420 × 360	K	北		○		7c-後半		埋蔵文化財の調査 25
27	2003	15 年度試掘 27 号住居	一部		(盛土保存)								プランの確認 埋蔵文化財の調査 26
28	〃	15 年度試掘 28 号住居	1/2		(盛土保存)								プランの確認 埋蔵文化財の調査 26
29	〃	第 30 次 29 号住居	完掘	長方形	360 × 420	K	東		○		9c-前		埋蔵文化財の調査 26
30	2005	第 31 次 30 号住居	完掘	長方形	360 × 600	K	北		○		9c-後半		市内遺跡 1
31	〃	第 32 次 31 号住居	完掘	長方形	380 × 330 ×	K	東		○	S-65 北	9c-中葉		市内遺跡 1
32	〃	第 32 次 32 号住居	1/2	長方形	東西 4 m × 南北 3 m 以上	K	東		○	S-85 北			市内遺跡 1
33	2006	40 地点 H33 号住居	完掘	方形	455 × 420	K	北	98 × 154	○	N-5 北	8c-後半		市内遺跡 3
34	2008	45 地点 H34 号住居	完掘	方形	364 × 361	K	東	122 × 125	○	N-96 北			市内遺跡 6
35	2008	45 地点 H35 号住居	1/2	(方形)	504 × (222)				○				被災住居 市内遺跡 6
36	2009	49 地点 H36 号住居	完掘	方形	280 × 290	K	東	105 × 100	○	N-92 北	8c-後半	龍舌石 1	市内遺跡 7
37	2010	54 地点 H37 号住居	完掘	方形	434 × 524	K	北	70 × 86	○	N-13 北	8c-1 四半期		市内遺跡 9
38	2010	54 地点 H38 号住居	一部	方形	(440) × 468	K	東	95	○	N-107 北	8c-1 四半期		プラン確認 市内遺跡 9
39	2010	54 地点 H39 号住居	完掘	方形	336 × 459	K	北	70 × 101	○	N-4 北	8c-1 四半期		市内遺跡 9
40	2011	55 地点 H40 号住居	3/4	(方形)	(300) × (320)	K	東	95 × 123	○	N-90 北	9c-前		市内遺跡 10
41	2012	62 地点 H41 号住居	3/4	(方形)	410 × (300)	K	北		○	N-18 北			市内遺跡 12
42	2013	65-66 地点 H42 号住居	方形	460 × 440	K	東	110 × 106	○	N-62 北	9c-前			市内遺跡 15
43	2013	66 地点 H43A 号住居	方形	470 × 470	-	-	-	-	-	N-66 北	9c-中葉前後(2)		市内遺跡 15
43	2013	66 地点 H43B 号住居	方形	700 × 700	K	東		○	N-66 北	9c-中葉前後(1)			市内遺跡 15
44	2013	70-76 地点 H44 号住居	(長方形)	(420) × 340	K	北	80 × 65	○			8c-前半		市内遺跡 18
45	2013	73 地点 H45 号住居	不明	(238 × 125)							8c-中 ~ 後半		市内遺跡 18
46	2013	75 地点 H46 号住居	不明	(320 × 145)							8c-前半 ~ 中		市内遺跡 18
47	2013	77 地点 H47 号住居	不明	410 × (95)	K	北	156 × 135	○			8c-後半 ~ 9c-初		市内遺跡 18

第18表 松山遺跡第69地点集石土坑・出土礫観察表(単位 cm・g)

平面形態	確認面積	底径	深さ	備考	総点数	総重量	平均重量	総別数	完形数	破砕数	未破砕数	タール・覆付着数	タール・覆未付着数
円形	84×76	47×76	230		197	10,910.26	55.38	5(2.54%)	192(97.46)	111(56.35%)	86(43.65%)	66(33.50%)	131(66.50%)



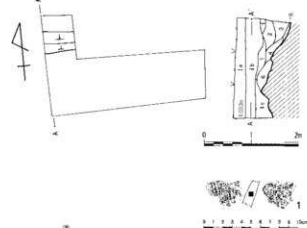
集石土坑



集石土坑

1. 黒褐色土 締り強、粘性有。1mm以下塵土・3mm以下炭化物少し含む。焼石は大半が割れたもの
2. 黒色土 締り強、粘性有。2mm以下ローム粒・焼土やや多く、5mm以下炭化物多く含む
3. 暗黄灰色土 締り強、粘性有。2mm以下塵土・5mm以下炭化物やや多く含む
4. 暗黄灰色土 締り強、粘性有。3層に似る。シミ状に黒褐色土・ローム土。3mm以下塵土・5mm以下炭化物やや多く含む
5. 暗黄灰色土 締り強、粘性有。硬化している。2mm以下塵土多く、5mm以下炭化物やや多く含む
6. 赤褐色土 締り強、粘性有。硬化している。焼土主体。層位に1cm厚黒褐色土を挟む

溝



溝

- 1 a. 砂礫層 上半は灰色砂石層、下半は黄褐色土ベースに円礫多く含む
b. 黄灰色土 締り強、粘性有。5mm以下ローム粒少し含む
c. 黄褐色土 締り有、粘性有。黒褐色土主体にローム土・50cm以下ロームブロック多く含む
1. 黒褐色土 締り有、粘性有。やや灰色味が有る。20cm以下ロームブロック・粒・30cm以下砂少し含む
2. 暗黄灰色土 締り有、粘性有。黒褐色土主体。30cm以下ローム粒やや多く含む
3. 黒褐色土 締り強、粘性有。30cm以下ローム粒少し含む
4. 暗黄灰色土 締り強、粘性有。ソフト質の50cm以下ローム粒やや多く含む
5. 黄褐色土 締り強、粘性有。暗黄灰色土主体に1cm以下ソフト質ロームブロック多く含む
6. 黒褐色土 締り強、粘性有。50cm以下ローム粒少し、20cm以下焼土層がに含む

第25図 松山遺跡第69地点遺構配置図(1/500)、集石土坑(1/30)、溝(1/80)、出土遺物(1/4)

Ⅲ 松山遺跡第70地点

(1) 調査の概要

調査は市道築造に伴うもので、ふじみ野市長より2013年3月25日付で「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の北東部に位置するため、関係課と協議の結果、試掘調査を実施した。

試掘調査は2013年4月11日～16日に行った。幅約1.5mと2mのトレンチ合わせて2本を設定し、重機で表土除去後、人力による表面精査を行った結果、奈良平安時代とみられる住居跡1軒、縄文時代とみられる集石土坑1基、古代以降とみられる井戸1基などを確認した。遺跡確認面までの深さは約70cmであり、遺構への影響が避けられないため、本調査を実施した。

本調査は試掘調査に引き続き17日～23日まで行った。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえ埋め戻し、調査を終了した。旧石器時代の確認調査は行っていない。遺構と遺物は、次のとおりである。

(2) 遺構と遺物

①集石土坑

調査区の中央部に位置し、土坑の平面形態は円形を呈する。覆土層の観察から縄文時代とみられる。

規模は確認面径70×65cm、底径50×47cm、深さ25.7cmである。礫は土坑内から、小石から13cm大のものまで、やや密に出土する。出土礫の詳細は第19表のとおりである。

②H44号住居跡(第70・76地点)

【位置・時期】 本住居跡は調査区の北部で東側は調査区外(第76地点)に延びている。また、南東隅はプランの確認を行っただけで未検出である。本項では第76地点で検出された住居跡部分についても併せて報告する。出土遺物から8世紀前半とみられる。

【形状・規模・掘方】 平面形態は長方形を呈するが、調査区が第70・76地点にまたがるため、平面形態及び規模は推定である。規模は長軸(主軸)420×短軸340cm、深さ35cmである。掘方は地山ローム層まで全体的に掘り下げた後、貼床を行う。

【柱穴】 主柱穴(P3～5)は4本とみられるが、1本は未検出である。

ビット1の平面形態は隅丸方形で、規模は確認面径51×39cm、底径25×20cm、深さ19.8cm。ビット2の平面形態は円形で、規模は確認面径28×26cm、底

径20×15cm、深さ42.8cm。ビット3の平面形態は円形で、規模は確認面径26×24cm、底径15×12cm、深さ19.4cm。ビット4の平面形態は方形で、規模は確認面径27×23cm、底径6×3cm、深さ15.3cm。ビット5の平面形態は推定円形で、規模は確認面径46×19cm、底径32×8cm、深さ25.0cm。ビット6の平面形態は楕円形で、規模は確認面径19×12cm、底径4cm、深さ14.3cmである。

【竈】 住居跡北壁中央部に位置する。天井は崩壊しており、右袖と奥壁を検出した。左袖部は調査区外に延びるが、構築材として使用された土師器の甕が口縁部を下にした状態で出土した。甕の周辺には構築部材の灰色粘土がみられる。

竈残存部の長軸65cm以上、袖部の最大幅80cm以上である。竈内部は幅約40cm、奥行き約70cmで床面からの深さは約15cmである。煙道部は住居の壁を奥行き約55cm掘り込む。

【周溝】 貼床後に周溝を掘り上げる。竈周辺と住居の北東隅と西壁の一部で途切れる。上幅20～30cm、下幅15～20cm、深さ15～18cmである。

【遺物出土状況】 竈内と竈周辺の住居跡床面から集中して出土する。

【遺物】 (第32図1～15) 1、2は土師器の環、3～11は土師器の壺・甕類である。12～15は土鏝である。詳細は第20表参照。

③井戸

調査区の北側に位置する。平面形態は円形で、北東部の上端が舌状に削られ広くなる。上端の一部が削られて広がる形態は長宮遺跡、松山遺跡、滝遺跡等の中近世期の井戸に多く見られる特徴である。規模は、確認面径140×138cm、底径90×75cm、深さ153.3cmである。上端舌状部は長さ68cm×幅108cm、深さ43.3cmである。出土遺物は第32図20～24で、詳細は第20表参照。

④溝

第70地点で確認された溝のうち、溝1と溝2は第75地点または第76地点にも延びているが、合わせて本項で報告する。溝3と溝4については各地点の項で報告する。

【溝1】 溝1は調査区の北部を東西に延び、第75地点と第76地点でも確認されている。第76地点では井戸1と重複し、溝1が新しい。断面形態は「U」字状で、規模は上幅46～138cm、下幅13～44cm、

深さ28.5cmである。

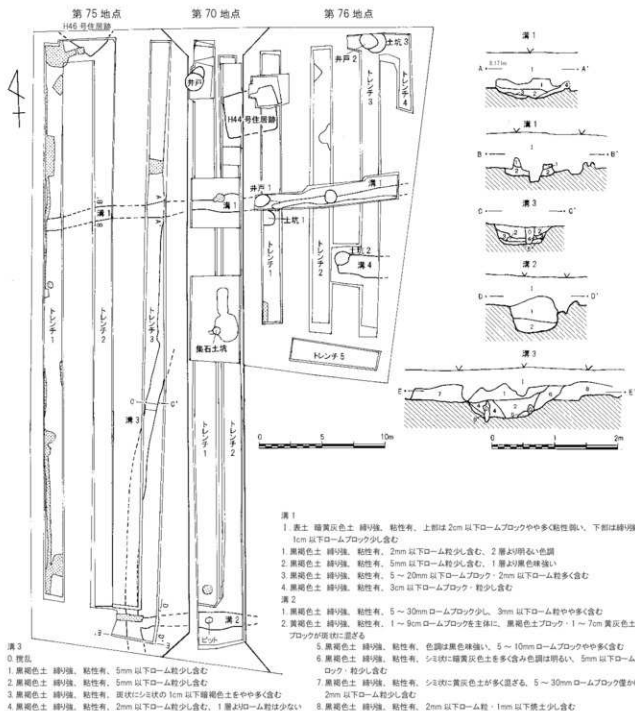
【溝2】 溝2は調査区の南端を東西に伸び、第75地点でも確認され、溝3とつながるが新旧関係は不明である。断面形態は広い「U」字状で、規模は上幅75～146cm、下幅44～85cm、深さ43.2cmである。また、溝の底部にピット1基が存在するが、溝に伴うものかどうかは不明である。平面形態は長方形で、規模は確認面径52×34cm、底径15×8cm、深さ30.3cmである。
 ⑤出土遺物は、第33図29、30である。詳細は第20表参照。

IV 松山遺跡第75地点 (試掘調査、本調査)

(1) 試掘調査の概要

調査は宅地造成に伴うもので、原因者より2013年12月3日付けで、「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の北東部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため、2014年1月14日～20日に試掘調査を実施した。

試掘調査は、幅約1.5mのトレンチ2本を設定し、重機で表土除去後、人力による表面精査を行った。遺



第26図 松山遺跡第70・75・76地点遺構配置図(1/300)、溝(1/60)

構確認面までの深さは40～60cmである。

試掘調査の結果、古代の住居跡1軒（H46号住居跡）、中近世以降の溝3本を確認した。宅地造成による遺跡への影響がないため、写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえ埋め戻し、調査を終了した。旧石器時代の確認調査は行っていない。

(2) 本調査の概要

本調査は、2014年度の調査であるが試掘調査と合わせて本書に掲載し報告する。

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より2014年7月28日付けで、「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地では前述のとおり試掘調査で古代の住居跡が確認されており、遺跡への影響が避けられないため、申請者と協議の結果、2014年8月5日～11日まで、本調査を実施した。遺構と遺物は、次のとおりである。

(3) 遺構と遺物

① H46号住居跡

【位置・時期】 本住居跡は調査区の北部に位置し、北側は調査区外に延びるため、住居跡の一部を検出した。竈は未確認である。

【形状・規模・掘方】 住居跡の一部を検出したのみで、全容は不明である。検出部の規模は東西320×南北145cm、深さ55cmである。掘方は地山ローム層まで全体的に掘り下げた後、貼床を行う。

【柱穴】 ビット1基を検出した。ビット1の平面形態は円形で、規模は確認面径16×16cm、底径8×6cm、深さ19.8cm。ビット2の平面形態は円形で、規模は確認面径28×26cm、底径20×15cm、深さ8cm。である。

【周溝】 貼床後に周溝を掘り上げる。上幅6～14cm、下幅3～11cm、深さ14cmである。

【遺物出土状況】 住居跡床面から僅かに集中して出土する。

【遺物】 (第32図16～19) 16は土師器の坏、17は土師器の甕、18・19は須恵器で同一個体の可能性がある把手付有翼壺か。詳細は第20表参照。

② 溝3

溝3は調査区を南北方向に延び、南端で溝2と合流するが新旧関係などは不明である。断面形態は広い「U」字状で、規模は上幅90～100cm、下幅65cm、深さ34.6cmである。

V 松山遺跡第76地点（試掘調査、本調査）

(1) 試掘調査の概要

調査は宅地造成に伴うもので、原因者より2014年1月20日付けで、「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の北東部に位置し、隣接地の第70地点でも遺構と遺物が確認されている。そのため、申請者と協議の結果、2014年1月22日～28日に試掘調査を実施した。

試掘調査は、幅約1.5mのトレンチ5本を設定し、重機で表土除去後、人力による表面精査を行った。遺構確認面までの深さは50～70cmである。

試掘調査の結果、H44号住居跡と溝1の続きと、新たに土坑3基と井戸2基、溝4本を確認した。宅地造成による遺跡への影響がないため、写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえ埋め戻し、調査を終了した。旧石器時代の確認調査は行っていない。

(2) 本調査の概要

本調査は、2014年度の調査であるが試掘調査と合わせて本書に掲載し報告する。第76地点は宅地造成により3区画に分譲された。

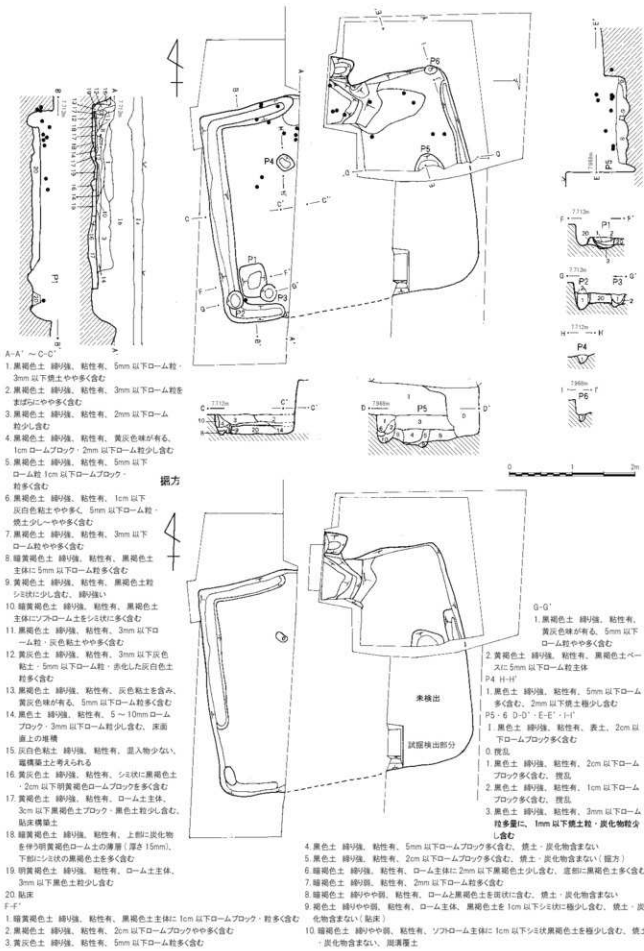
3区画に分譲された区画のうち、真ん中の区画の調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より2014年8月29日付けで、「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地では前述のとおり試掘調査で溝等が確認されており、遺跡への影響が避けられないため、申請者と協議の結果、2014年9月26日～10月2日まで、本調査を実施した。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえ埋め戻し、調査を終了した。旧石器時代の確認調査は行っていない。

また、3区画のうち最も北側の区画についても、原因者より2014年11月4日付けで、個人住宅建設に伴う「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。同区画においてもH44号住居跡を確認し、本調査を実施した。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえ埋め戻し、調査を終了した。

第76地点の試掘調査及び、2件の個人住宅建設に伴い調査した遺構と遺物は、次のとおりである。

(2) 遺構と遺物

試掘調査及び2件の本調査について調査した遺構と遺物については、隣接地第70地点及び75地点との関係を考慮し、本書にて合わせて報告を行う。なお、H44号住居跡と溝1については、第70地点の項で

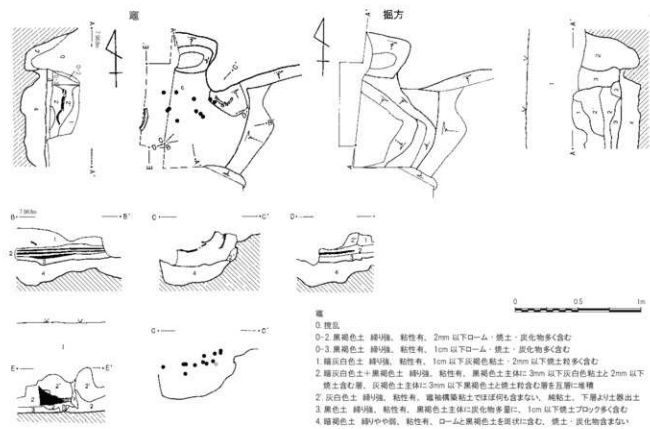


- A-A' ~ C-C'
1. 黒褐色土 締り強、粘性有、5mm以下ローム粒・3mm以下焼土やや多く含む
 2. 黒褐色土 締り強、粘性有、3mm以下ローム粒をまばらにやや多く含む
 3. 黒褐色土 締り強、粘性有、2mm以下ローム粒少し含む
 4. 黒褐色土 締り強、粘性有、黄灰色味がある、1cmロームブロック・2mm以下ローム粒少し含む
 5. 黒褐色土 締り強、粘性有、5mm以下ローム粒 1cm以下ロームブロック・粒多く含む
 6. 黒褐色土 締り強、粘性有、1cm以下灰白色粘土やや多く、5mm以下ローム粒・焼土少しやや多く含む
 7. 黒褐色土 締り強、粘性有、3mm以下ローム粒やや多く含む
 8. 暗黄褐色土 締り強、粘性有、黒褐色土主体に5mm以下ローム粒多く含む
 9. 黄褐色土 締り強、粘性有、黒褐色土粒シメ状に少し含む、締り強い
 10. 暗黄褐色土 締り強、粘性有、黒褐色土主体にソフローム土をシメ状に多く含む
 11. 黒褐色土 締り強、粘性有、3mm以下ローム粒・灰色粘土やや多く含む
 12. 黄灰色土 締り強、粘性有、3mm以下灰色粘土・5mm以下ローム粒・赤化した灰白色土粒多く含む
 13. 黒褐色土 締り強、粘性有、灰色粘土を含み、黄灰色味がある、5mm以下ローム粒多く含む
 14. 黒色土 締り強、粘性有、5~10mmロームブロック・3mm以下ローム粒少し含む、深面面上の堆積
 15. 灰白色粘土 締り強、粘性有、混入物少ない、底構築土と考えられる
 16. 黄灰色土 締り強、粘性有、シメ状に黒褐色土・2cm以下明黄褐色ロームブロックを多く含む
 17. 黄褐色土 締り強、粘性有、ローム土主体、3cm以下黒褐色土ブロック・黒色土粒少し含む、粘土構築土
 18. 暗黄褐色土 締り強、粘性有、上部に炭化物を伴う明黄褐色ローム土の層(厚さ15mm)、下部にシメ状の黒褐色土を多く含む
 19. 明黄褐色土 締り強、粘性有、ローム土主体、3mm以下黒色土粒少し含む
 20. 粘床
- F-F'
1. 暗黄褐色土 締り強、粘性有、黒褐色土主体に1cm以下ロームブロック・粒多く含む
 2. 黒褐色土 締り強、粘性有、2cm以下ロームブロックを多く含む
 3. 黄灰色土 締り強、粘性有、5mm以下ローム粒多く含む

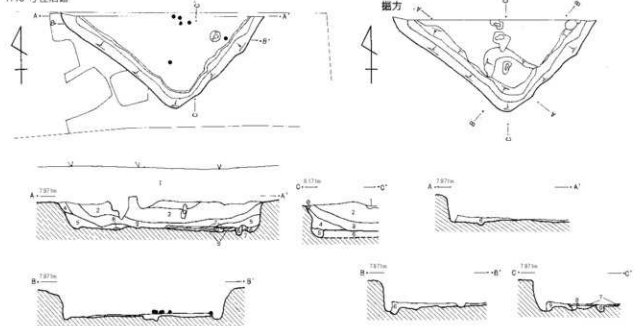
掘方

- G-G'
1. 黒褐色土 締り強、粘性有、黄灰色味がある、5mm以下ローム粒やや多く含む
 2. 暗黄褐色土 締り強、粘性有、黒褐色土ベースに5mm以下ローム粒主体
- P4 H-H'
1. 黒色土 締り強、粘性有、5mm以下ローム多含む、2mm以下焼土極少し含む
- P5・6 D-D'・E-E'・I-I'
1. 黒色土 締り強、粘性有、黄土、2cm以下ロームブロック多含む
 0. 埋土
 1. 黒色土 締り強、粘性有、2cm以下ロームブロック多含む、埋土
 2. 黒色土 締り強、粘性有、1cm以下ロームブロック多含む、埋土
 3. 黒色土 締り強、粘性有、3mm以下ローム粒多量に、1mm以下焼土粒・炭化物粒少し含む
- 未検出
4. 黒色土 締り強、粘性有、5mm以下ロームブロック多含む、焼土・炭化物含まない
 5. 黒色土 締り強、粘性有、2cm以下ロームブロック多含む、焼土・炭化物含まない(掘方)
 6. 暗褐色土 締り強、粘性有、ローム主体に2mm以下黒褐色土少し含む、上部に黒褐色土多含む
 7. 暗褐色土 締り強、粘性有、2mm以下ローム粒多含む
 8. 暗褐色土 締りやや弱、粘性有、ロームと黒褐色土を固状に含む、焼土・炭化物含まない(粘床)
 9. 褐色土 締りやや弱、粘性有、ローム主体、黒褐色土を1cm以下シメ状に極少し含む、焼土・炭化物含まない(粘床)
 10. 暗褐色土 締りやや弱、粘性有、ソフローム主体に1cm以下シメ状黒褐色土を極少し含む、焼土・炭化物含まない、混濁層土

第27図 松山遺跡第70・76地点H44号住居跡・掘方(1/60)



H46号住居跡



H46号住居跡-掘方 A-A' ~ C-C'

1. 黒褐色土 締り強、粘性有、1cm以下ロームブロック・粒少し含む

0 控瓦

1. 黒褐色土 締り強、粘性有、1mm以下ローム粒少し含む

2. 黒褐色土 締り強、粘性有、灰褐色味が有る、2mm以下ローム粒やや多く含む

3. 黒褐色土 締り強、粘性有、2層より黒色味が有る、3mm以下ローム粒やや多く含む

4. 黒褐色土 締り強、粘性有、シベ状ローム土多く、3mm以下ローム粒少し含む

5. 黒褐色土 締り強、粘性有、3層より黒色味が有る、2mm以下ローム粒少し含む

6. 黒褐色土 締り強、粘性有、5mm以下ローム粒多く含む

7. 黄褐色土 締り強、粘性有、ローム土主体、シベ状に灰黄色土が混ざる(粘土)

8. 黒褐色土 締り強、粘性有、黒色味強い、1cm以下焼土・炭化物少し含む(粘土)

9. 灰黄色土 締り強、粘性有、ローム粒の散在な堆積、2cm以下ロームブロックもやや多く含む(粘土)

H46号住居跡 C-C'

0 控瓦

1. 黒褐色土 締り強、粘性有、2mm以下ローム粒少し含む

2. 黒褐色土 締り強、粘性有、色調は暗褐色味が有り明るめ、2mm以下ローム粒少し含む

3. 黒褐色土 締り強、粘性有、2層より黒色味強い、2mm以下ローム粒やや多く含む

4. 黒褐色土 締り強、粘性有、3層より黒色味強い、シベ状に暗褐色土を含む、2mm以下ローム粒少し含む

5. 黒褐色土 締り強、粘性有、5mm以下ローム粒多く含む

6. 黄褐色土 締り強、粘性有、3cm以下ロームブロック多く含む、粘土の繊維土

合わせて報告したので割愛する。

①井戸

3区画に分譲されたうち、井戸1は真ん中の区画、井戸2は北側の区画に位置する。

【井戸1】 真ん中の調査区の西端に位置し、土坑1、溝1と重複する。井戸1は溝1より古い、土坑1との関係は不明である。井戸1は試掘調査及び本調査で調査を行った。

平面形態は楕円形で、東部の上端がやや舌状に削られ広くなる。規模は、確認面径(117)×95cm、底径43×38cm、深さ107.6cmである。出土遺物は第33図25・26で、詳細は第20表参照。

【井戸2】 北側調査区の西端に位置する。土坑3と重複し井戸2が新しい。井戸2は試掘調査で検出した。

平面形態は楕円形である。規模は、確認面径138×112cm、底径75×60cm、深さ145.2cmである。出土遺物は第33図27・28で、詳細は第20表参照。

②土坑

3区画に分譲されたうち、土坑1は中央部の区画、土坑2は南側の区画に位置する。

【土坑1】 中央部の調査区の西端に位置し、井戸1、溝1と重複する。土坑1は溝1より古い、井戸1との関係は不明である。土坑1は試掘調査で調査を行った。全容は不明である。検出部の平面形態は隅丸方形か長方形と推測される。規模は、確認面径(135)×(86)cm、底径(94)×(70)cm、深さ41.7cmである。

【土坑2】 3区画に分譲された区画の中で、南側の区画に位置する。溝4と重複するが新旧関係は不明である。土坑1は溝1より古い、井戸1との関係は不明である。

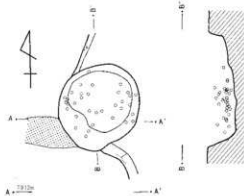
平面形態はほぼ円形で、東部の上端がやや舌状に削られ広くなる。規模は、確認面径131×106cm、底径82×72cm、深さ65.2cmである。

【土坑3】 3区画に分譲された区画の中で、北側の区画に位置する。井戸2と重複し、新旧関係は土坑3が

第19表 松山遺跡第70地点集石土坑・出土礫観察表(単位cm・g)

平面形態	確認面径	底径	深さ	備考	総点数	総重量	平均重量	破損数	完形数	焼成数	未焼成数	タール・保存着数	タール・復元着数
円形	70×65	50×47	25.7		40	11,392.34	284.81	27(67.50%)	13(32.50%)	26(65.00%)	14(35.00%)	30(75.00%)	10(25.00%)

集石土坑



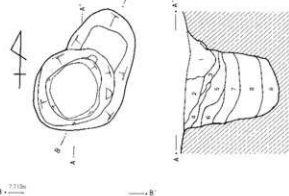
集石土坑

1. 表土
2. 黒褐色土 砂り強。粘性有。遺物少ない
3. 黒褐色土 砂り強。粘性有。5～20mm シミ状のロームブロック・2mm以下ローム粒少し含む
4. 黒黄褐色土 砂り強。粘性有。下部に5mm以下ロームブロック・粒やや多く含む。1mm以下微土・炭化物少し含む

井戸

1. 黒褐色土 砂り強。粘性有。黄灰色味がある。5mm以下ローム粒少し含む
2. 黒褐色土 砂り強。粘性有。黄灰色味がある。5～15mm ロームブロック・3mm以下ローム粒やや多く含む
3. 黒褐色土 砂り強。粘性有。上部よりローム粒少なく黒色味強い。5～70mm ロームブロック少し含む

井戸

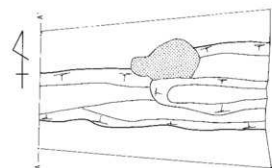


井戸

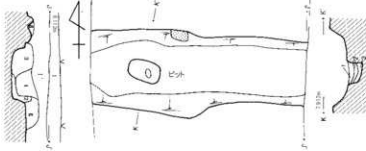
4. 黒褐色土 砂り強。粘性有。2層より黒色味強い。
5. 5～70mm ロームブロック・3mm以下ローム粒少し含む
5. 黄灰色土 砂り強。粘性有。5～30mm ロームブロック多く含む
6. 黄灰色土 砂り強。粘性有。シミ状にローム土・酸化土をやや多く含む
7. 黒褐色土 砂り強。粘性有。5～20mm ロームブロック・5mm以下ローム粒やや多く含むがムラがある
8. 黒褐色土 砂り強。粘性有。5mm以下ローム粒少し含む。厚さ1cm以下で黒黄褐色土の層層を所々に挟む
9. 黒褐色土 砂り強。粘性有。5～20mm ロームブロック・5mm以下ローム粒やや多く含む
10. 黒褐色土 砂り強。粘性有。5cm以下ロームブロック多く含む

第29図 松山遺跡第70地点集石土坑・遺物出土状況(1/30)、井戸(1/60)

溝1(70地点)



溝2(70地点)



第70地点 溝1

1. 黒褐色土 締りや中弱、粘性や中弱、硬質土粒を含み、ボソボソしている。所々ロームブロックを含む。新作土
 2. 黒褐色土 締り強、粘性有、2mm以下ローム粒・焼土粒少し。所々シミ状に1~10cmロームブロック少し含む
 3. 黒褐色土 締り強、粘性有、(灰色味は少ない)2mm以下の細粒ローム粒やや多く含む
 4. 黒褐色土 締り強、粘性有、5mm以下ローム粒多く含む

第70地点 溝2

1. 黒色土 締り弱、粘性有、表土 新作土
 2. 黒色土 締り弱、粘性有、新作土
 3. 黒褐色土 締り弱、粘性有、2cm以下ロームブロック多く含む、奈良平安時代別合層
 4. 黒色土 締り強、粘性有、1mm大赤褐色粒少し含む
 5. 黒褐色土 締り強、粘性有、ローム主体に5mm以下ローム粒多く含む
 6. 黒色土 締り強、粘性有、1mm大ローム粒多く含む(1層に類似はやローム粒多い)

第70地点 ピット

1. 黒褐色土 締り強、粘性有、3mm以下ローム粒少し含む
 2. 黒褐色土 締り強、粘性有、シミ状にローム土少し含む
 3. 黄灰色土 締り強、粘性有、黄褐色ローム土を多く含む

第76地点 溝1

1. 黄土 黒褐色土 締り強、粘性有、2mm以下ローム粒・焼土・5mm以下灰白色土少し含む。色調はやや灰色味がある
 2. 黒褐色土 締り強、粘性有、1層より黒色味強い、1mm以下ローム粒少し含む
 3. 黒褐色土 締り強、粘性有、5mm以下ロームブロック粒やや多く含む1層より黒色味強い
 4. 黒褐色土 締り強、粘性有、2mm以下ローム粒少し含む。色調は2層に似る
 5. 黒褐色土 締り強、粘性有、3cm以下ロームブロックやや多く含む。ベースの土は2層より黒色味強い
 6. 黒褐色土 締り強、粘性有、シミ状に1cm以下ロームブロック粒少し含む。色調は3層に似る
 7. 黒褐色土 締り強、粘性有、色調やや明るい。シミ状の5mm以下ロームブロック粒やや多く含む
 8. 黒褐色土 締り強、粘性有、締り強い。シミ状の1cm以下ロームブロック粒多く含む

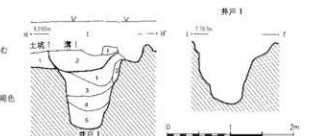
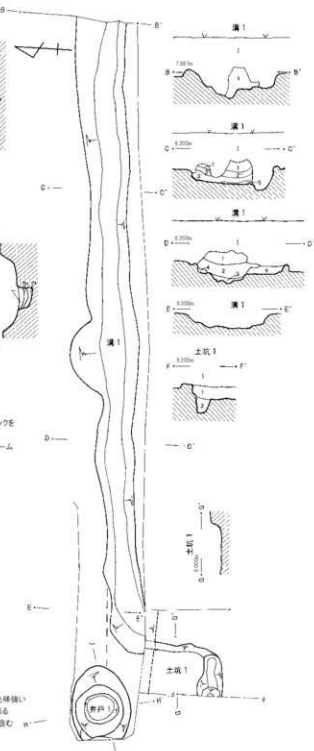
第76地点 土坑1

1. 黒褐色土 締り強、粘性有、5~15mmロームブロック多く含む
 2. 黒褐色土 締り強、粘性有、硬く締っている。シミ状に5mm以下ローム粒やや多く含む

第76地点 土坑2・溝4

1. 灰色味有る黒褐色土 締り強、1cm以下ロームブロック粒少し含む
 2. 黒褐色土 締り強、粘性有、3mm以下ローム粒やや多く含む
 3. 黒褐色土 締り強、粘性有、シミ状の1~10cm層褐色土ブロック・5mm以下ローム粒少し含む
 4. 黒褐色土 締り強、粘性有、1cm以下ロームブロック粒やや多く含む
 5. 黒褐色土 締り強、粘性有、シミ状に5cm以下層褐色土・5mm以下ローム粒少し含む
 6. 黒褐色土 締り強、粘性有、4層より色調強い、2mm以下ローム粒・4cm焼土少し含む
 7. 黄灰色土 締り強、粘性有、斜位の階層構造に3mm以下ローム粒主体の黒褐色土・2cm厚黒褐色土を挟む。他はシミ状の5mm以下ローム粒やや多く含む
 8. 黒褐色土 締り強、粘性有、2mm以下ローム粒少し含む
 9. 黒褐色土 締り有、粘性やや弱、黒褐色土ベースに5mm以下ローム粒主体
 9. 黒褐色土 締り強、粘性有、4cm以下ロームブロック主体。床面礫層土

溝1(76地点)



第30図 松山道跡第70地点溝・第76地点土坑・井戸・溝① (1/60)

古い。平面形態は円形か楕円形とみられる。検出部の規模は、確認直径 $156 \times (132)$ cm、底径 $76 \times (43)$ cm、深さ 95.7 cmである。

②溝

溝1～3については、第70地点及び第75地点の項で述べた。本項では溝4について報告を行う。

【溝4】3区画に分譲された区画の中で、南端の区画に位置する本溝は、試掘調査で検出した。土坑2と重複するが、新旧関係、時期などは不明である。

溝4は調査区を東西方向に延び、東側は調査区外に延びるとみられる。断面形態は広い「U」字状で、規模は上幅 $146 \sim 170$ cm、下幅 $69 \sim 82$ cm、深さ 69.7 cmである。

出土遺物は、第33図31。詳細は、第20表参照。

VI 松山遺跡第71地点

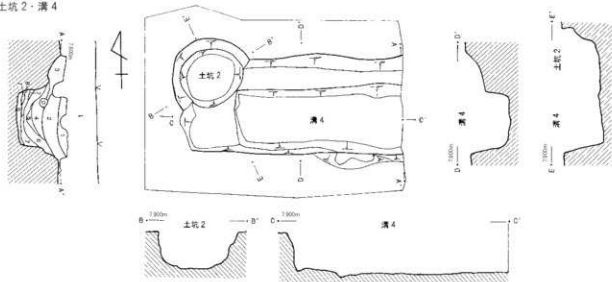
(1) 調査の概要

調査は分譲住宅建設に伴うもので、原因者より2013年3月1日付けで、「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の南西部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため、2013年4月30日～5月1日に試掘調査を実施した。

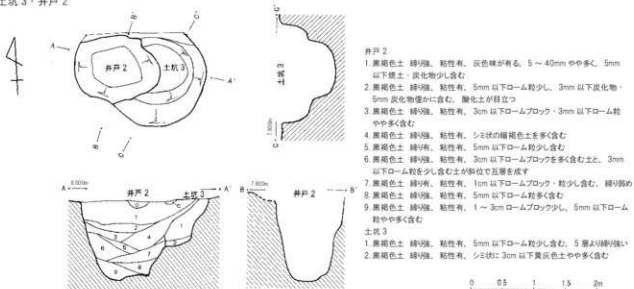
試掘調査は、幅約1.5mのトレンチ5本を設定し、重機で表土除去後、人力による表面精査を行った。

現地表面から地山ローム層までの深さは $40 \sim 70$ cmである。旧石器時代の確認調査は行っていない。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえ埋め戻し、調査を終了した。

土坑2・溝4

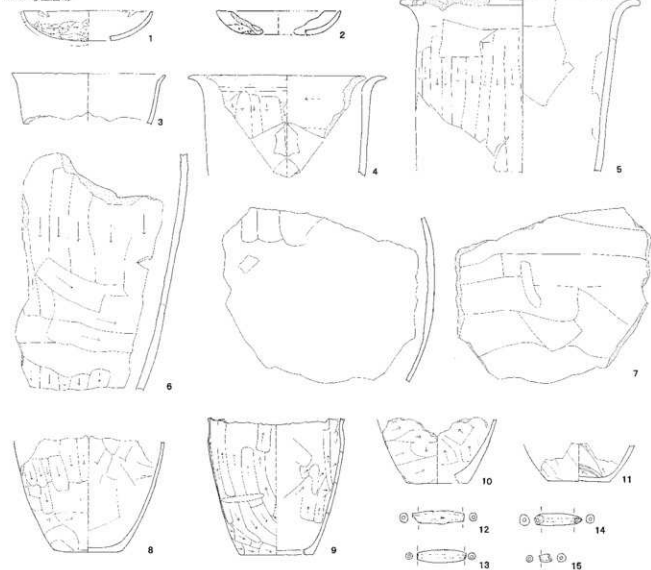


土坑3・井戸2



第31図 松山遺跡第76地点土坑・井戸・溝② (1/60)

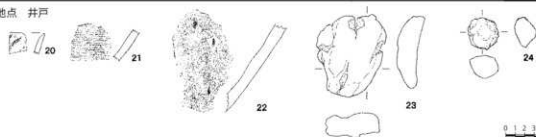
H44号住居跡



H46号住居跡

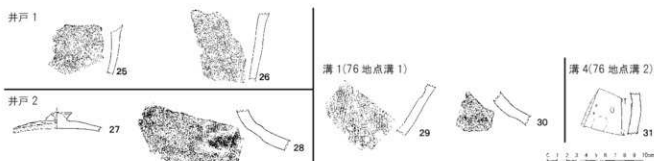


70地点 井戸



0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10cm

第32図 松山遺跡第70・75・76地点出土遺物 (1/4)



第33図 松山遺跡第76地点出土遺物(1/4)

第20表 松山遺跡第70・75・76地点出土遺物観察表(単位 cm・g)

図録No	出土遺物・位置	形状・図解	土層・高さ	経緯・幅	高さ・厚さ	目録・文様・形状	測定者	測定年代
1	104号区画跡 70104-56a, 51c, 101	土製器/片	(11.7)	-	3.2	1線銅線ナズ, 内面ナズ, 外面刷毛-底面ナズ/敷土・褐色, 中・刷毛・赤色灰/土製器	-	5・後半-6・前半
2	104号区画跡 70104-49a, 7	土製器/片	(11.1)	-	(3.1)	1線銅線ナズ, 内面ナズ, 外面刷毛-底面ナズ/敷土・褐色, 中・刷毛・赤色灰	-	5・後半-6・前半
3	104号区画跡 70104-56c, 4	土製器/片	(16.1)	-	(5.4)	1線銅線ナズ, 内面ナズ, 外面刷毛ナズ/敷土・褐色, 中・刷毛・赤色灰	-	5・後半-6・前半
4	104号区画跡 70104-49a, 12	土製器/片	(21.0)	-	(10.7)	1線銅線ナズ, 内面ナズ, 外面刷毛ナズ/敷土・褐色, 中・刷毛・赤色灰/器厚0.6cm	-	5・後半-6・前半
5	104号区画跡 70104-56a, 14, 15, 23	土製器/片	25.0	-	(18.1)	1線銅線ナズ, 内面ナズ, 外面刷毛ナズ/敷土・褐色, 中・刷毛・赤色灰/器厚0.5cm/器底に灰付着	-	5・後半-6・前半
6	104号区画跡 70104-49a, 11, 12	土製器/片	-	-	(25.0)	内面ナズ, 外面刷毛ナズ/中位に刷毛ナズ/敷土・褐色, 中・刷毛・赤色灰/器厚0.6cm	-	5・後半-6・前半
7	104号区画跡 70104-49a, 20	土製器/片	-	-	(17.4)	内面ナズ/下底ナズ, 外面刷毛-底面ナズ/敷土・褐色, 中・刷毛・赤色灰/器厚0.5-0.8cm	-	5・後半-6・前半
8	104号区画跡 70104-49a, 1	土製器/片	-	2.3	(11.9)	内面ナズ, 外面刷毛-底面刷毛ナズ/内底に灰付着/敷土・褐色, 中・刷毛・赤色灰	-	5・後半-6・前半
9	104号区画跡 70104-49a, 13	土製器/片	-	(7.8)	(14.1)	内面ナズ, 外面刷毛-底面刷毛ナズ/底面ナズ/敷土・褐色, 中・刷毛・赤色灰/器厚0.6cm	-	5・後半-6・前半
10	104号区画跡 70104-49a, 5	土製器/片	-	(6.0)	(6.6)	内面ナズ, 外面刷毛刷毛ナズ/底面に灰付着/敷土・褐色, 中・刷毛・赤色灰/器厚0.6cm	-	5・後半-6・前半
11	104号区画跡 70104-49a, 5	土製器/片	-	6.5	(2.8)	内面ナズ, 外面刷毛刷毛ナズ/底面に灰付着/敷土・褐色, 中・刷毛・赤色灰/器厚0.5cm	-	5・後半-6・前半
12	104号区画跡 70104-49a, 1	土製器/土器	3.5	1.3	-	重量 0.330g/一底ナズ・刷毛付	-	-
13	104号区画跡 70104-49a, 9	土製器/土器	5.1	1.4	-	重量 0.520g/土・刷毛付	-	-
14	104号区画跡 70104-49a, 2	土製器/土器	5.0	1.3	-	重量 0.360g/一底ナズ・刷毛付	-	-
15	104号区画跡 70104-49a, 1	土製器/土器	(1.2)	(0.9)	-	重量 0.430g/一底刷毛/敷土・刷毛付	-	-
16	104号区画跡 70104-49a, 6	土製器/片	(15.0)	7.3	3.5	1線銅線ナズ, 内面ナズ, 外面刷毛-底面ナズ/敷土・褐色, 中・刷毛	-	6・前半-中
17	104号区画跡 70104-49a, 2	土製器/片	(19.4)	(11.8)	-	内面ナズ, 外面刷毛ナズ/刷毛に灰付着/敷土・褐色, 中・刷毛・赤色灰/器厚0.5cm	-	6・前半
18	104号区画跡 70104-49a, 3	陶器/甕	-	-	(3.8)	輪製成形/内面ナズ/底面ナズ/敷土・褐色, 白色灰ナズ・石灰灰	-	6・前半
19	104号区画跡 70104-49a, 1	陶器/甕	-	-	(12.7)	輪製成形/内面ナズ/底面ナズ/敷土・褐色, 白色灰ナズ・石灰灰/器厚2.8cm, 器底に灰付着/敷土・褐色, 白色灰ナズ・石灰灰/重量 1.060g/底面ナズ	-	6・前半
20	溝1 1	陶器/片	-	-	(2.2)	遺存片/敷土・褐色/輪製成形(5.0×3.1)	重量	13x-1(6・前半)
21	溝1 2	陶器/甕	-	-	(3.5)	輪製成形/内面ナズ, 外面ナズ/底面ナズ/敷土・褐色, 白色灰ナズ・石灰灰	-	-
22	溝1 1 2	陶器/甕	-	-	1.1	輪製成形/内面ナズ/敷土・表面に褐色斑點状土と白色斑點状土, 6.8%	重量	13x-14
23	溝1	土製器/粘土	9.0	7.2	2.5	片断ナズ/敷土・褐色/重量 1.150g	-	-
24	溝1	土製器/粘土	3.4	3.3	2.4	白色灰ナズ/重量 1.090g	-	-
25	溝1 1	土製器/甕	-	-	(5.2)	1線銅線ナズ, 内面ナズ, 外面刷毛-底面ナズ/敷土・褐色, 中・刷毛・赤色灰	-	-
26	溝1 1	土製器/片	-	-	(7.0)	内面ナズ, 外面刷毛ナズ, 刷毛ナズ/敷土・褐色, 中・刷毛	-	-
27	溝1 2	陶器/甕	(9.2)	(10.1)	(2.2)	輪製成形/内面ナズ/底面ナズ/敷土・褐色, 白色灰ナズ・白色斑點状土	重量	6x-
28	溝1 2	陶器/甕	-	-	(4.2)	輪製成形/内面ナズ/敷土・表面に褐色斑點状土と白色斑點状土, 6.8%	重量	中・前半
29	溝1 10	陶器/甕	-	-	(5.5)	輪製成形/内面ナズ, 外面ナズ/底面ナズ/敷土・褐色, 白色灰ナズ・石灰灰	重量	中・前半
30	溝1 10	陶器/甕	-	-	(3.8)	輪製成形/内面ナズ・赤褐色, 外面赤褐色/底面ナズ/敷土・褐色, 白色灰ナズ・石灰灰, 6.8%	重量	中・前半
31	溝1 20	陶器/甕	-	-	(4.4)	輪製成形/内面ナズ, 外面刷毛/底面ナズ/敷土・褐色, 白色灰ナズ・石灰灰/重量 1.060g/底面ナズ	重量	中・前半

(2) 遺構と遺物

遺構はピット1基を検出した。ピットの平面形態は方形で、規模は確認面径 43×37cm、底径 15×14cm、深さ 98.2cm。また、調査区西側の溝は、近現代の遺物を含み、道路の側溝か土地境に伴うものとみられる。上幅 88～92cm、下幅 30～38cm。深さ 26.1cm。

遺物は、ピットの覆土層から陶器の破片1点が出土した。(第34図1)甕の頸部から肩にかけて、内外面に自然釉が掛る。第34図2は表土層から採取した竈1銭銅貨で、表面に竈の文様と「大日本・明治十六年・1SEN・」、裏面「一銭、以百枚 菊紋 換一圓」。1883年製。重さ 6.25g。

Ⅷ 松山遺跡第73地点 (試掘調査、本調査)

(1) 調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より2013年9月26日付けで、「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の中央部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため、2013年8月19日に試掘調査を実施した。

試掘調査は、幅約1.5mのトレンチ3本を設定し、重機で表土除去後、人力による表面精査を行った。遺構確認までの深さは約50cmである。

試掘調査の結果、古代の住居跡1軒を確認した。申請者と協議の結果、遺跡への影響が避けられないため本調査を行った。

本調査は試掘調査に引き続き20日に行った。住居

跡の確認された部分を重機で一部拡張した。

(2) 遺構と遺物

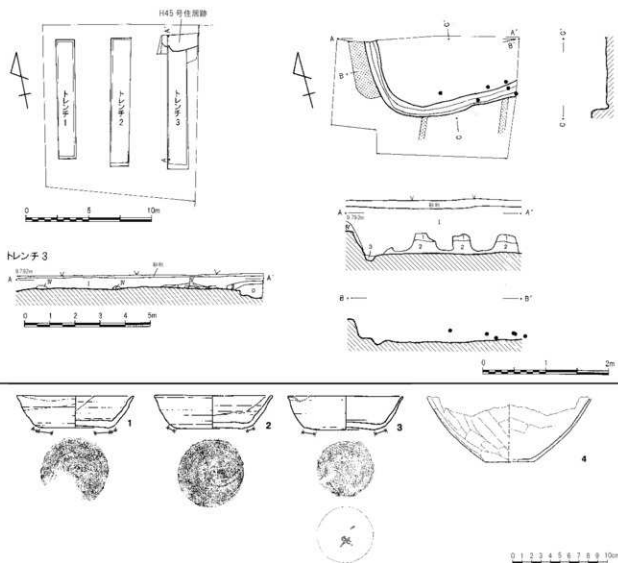
① H45号住居跡

【位置・時期】 本住居跡は調査区の北東部に位置し、住居跡の一部を検出した。検出部は隅丸であるが、大部分は調査区外に延びるため、全容は不明である。また、竈と柱穴は未確認である。

【形状・規模・掘方】 検出部の規模は東西238×南北125cm、深さ50cmである。掘方は地山ローム層まで全体的に掘り下げ、薄く1.3～4.8cmのローム土で貼床を行い周溝を掘り込む。

【周溝】 検出部には周溝がみられる。上幅15～20cm、下幅3～8cm、深さ14cmである。

【遺物出土状況】 床面から覆土層にかけて集中して出土する。



第36図 松山遺跡第73地点遺構配置図 (1/300)、土層 (1/150)、H45号住居跡遺物出土状況 (1/60)、出土遺物 (1/4)

【遺物】(第 36 図 1～4) 1～3 は須恵器の坏で、2 は底部に「七」のヘラ書きがみられる。類似する資料が、鳩山窯跡群広町 B 第 6 窯状遺構出土の須恵器坏に「七」のヘラ書きがみられる。4 は土師器の甕である。詳細は第 21 表参照。

IX 松山遺跡第 74 地点

(1) 調査の概要

調査は分譲住宅建設に伴うもので、原因者より 2013 年 12 月 3 日付けで、「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の南東部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため、2013 年 12 月 24 日～26 日に試掘調査を実施した。

試掘調査は、幅約 1.5 m のトレンチ 3 本を設定し、重機で表土除去後、人力による表面精査を行った。遺構確認面までの深さは 50～70 cm である。

試掘調査の結果、時期不明の集石土坑、土坑、井戸、ピット各 1 基、中近世以降の溝 2 本を確認した。分譲住宅による遺跡への影響が大きい。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえ埋め戻し、調査を終了した。旧石器時代の確認調査は行っていない。

(2) 遺構と遺物

① 集石土坑

調査区に南端に位置し、近世以降の浅い溝状の掘り込みに切れ、全容は不明である。土坑の平面形態は楕円形か円形とみられる。覆土層の観察から縄文時代の可能性が高い。

規模は確認面径 83 × (46) cm、底径 55 × 38 cm、深さ 28.4 cm である。礫は土坑内から 52 点が、やや密

に出土する。出土礫の詳細は第 22 表のとおりである。

② 井戸

調査区の中央部東側に位置する。検出部の平面形態は半円形で、全容は不明である。底部也未検出である。規模は、確認面径 128 × (70) cm、底径 36 × (15) cm、深さ (57) cm である。

③ 土坑

調査区の南側に位置する。検出部の平面形態は半円形で、全容は不明である。規模は、確認面径 130 × (67) cm、底径 123 × (67) cm、深さ 37.2 cm である。

④ ピット

調査区の南西部隅に位置する。溝 2 と重複し、ピットが新しい、中近世以降とみられる。平面形態は方形である。規模は、確認面径 32 × 24 cm、底径 8 × 7 cm、深さ 41.6 cm である。

⑤ 溝

【溝 1】 調査区の東側を南北方向に延びる。断面形態は「U」字状で、規模は上幅 81～105 cm、下幅 11～18 cm、深さ 46.8 cm である。土層の観察から、中近世以降とみられる。

【溝 2】 調査区の西側を南北方向に延びる。断面形態は広い「U」字状で、規模は上幅 131～142 cm、下幅 41～45 cm、深さ 64 cm である。土層の観察から、中近世以降とみられる。

⑥ 遺物 (第 37 図 1～3)

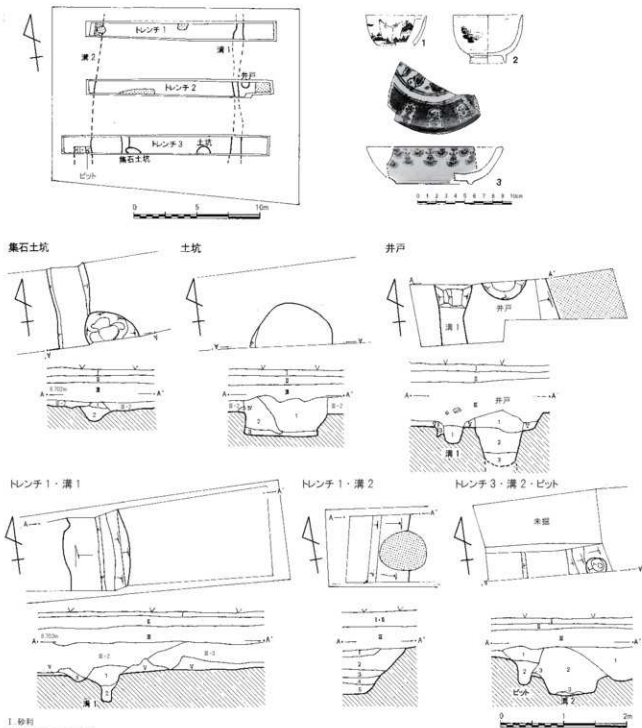
1 は土坑出土の磁器で小坏。轆轤成型、染付、外面は帆掛け舟に鳥文。2 は溝 2 出土の磁器で海吞碗。轆轤成型、染付、畳付け無釉、外面は蝶文。3 は溝 1 出土の磁器で皿。轆轤成型、型紙染付。1 は肥前、2・3 は瀬戸美濃。19 世紀中頃～後半以降。

第 21 表 松山遺跡第 73 地点出土遺物観察表 (単位 cm・g)

掲載 %	出土遺物名	類別・器種	口径・長さ	底径・幅	高さ・厚さ	技法・文様・その他	推定産地	推定年代
1	H 45 号住居跡	須恵器 / 坏	12.3	7.1	3.4	轆轤成型 / 底部回転糸切後に筒輪回転ヘラ削り。外周は斜めにヘラ削り。外面上部に自然釉有。胎土 / 白色斜状物質。2 mm 以下砂含む。色調 / 灰色。口縁部一部欠。	南比企	8c 後半
2		須恵器 / 坏	12.3	7.2	3.5	轆轤成型 / 底部回転糸切後に全面回転ヘラ削り。底部周縁にもヘラ削り。底部外面中央に「七」のヘラ書き有。胎土 / 白色斜状物質。4 mm 以下砂含む。色調 / 灰色・赤い褐色。口縁部一部欠。	南比企	8c 後半
3		須恵器 / 坏	12.0	6.0	3.5	轆轤成型 / 底部回転糸切後、外周は斜めにヘラ削り。底部外面中央に「中」の草書文字有。胎土 / まみ細かく滑らか。色調 / 灰黄色。口縁部一部欠。	—	8c 中～後半
4		土師器 / 甕	—	5	(7.4)	粘土結核上 / 外面ヘラ削り、内面磨で。色調 / 褐色。底部残存。	—	8c

第 22 表 松山遺跡第 74 地点集石土坑・出土礫観察表 (単位 cm・g)

平面形態	確認面径	底径	深さ	備考	総点数	総重量	平均重量	破損数	完形数	崩壊数	未焼成数	タール・埋付有数	タール・埋付有数
(楕円形)	83 × (46)	55 × 38	28.4		52	1,798.16	34.58	45(86.54%)	7(13.46%)	15(28.85%)	37(71.15%)	35(67.31%)	17(32.69%)



I. 砂利

II. 褐色遺土・ローム遺土

III. 黒褐色土

III-1 黒褐色土 粘り強、粘性有、3層主体に1cm以下ロームブロック多く、2mm以下

ローム粒やや多く、同様土・炭化物少し含む

III-2 黒褐色土 粘り強、粘性有、II-2層よりロームが多い以外ほぼ同じ

IV. 暗褐色土 粘り強、粘性有、地山ソノテローム

V. 褐色土 粘り強、粘性有、地山ハードローム

集石土坑

I. 黒色土 粘りやや弱、粘性有、1mm以下シミ状ローム・炭化物極少し含む、焼土含まない、燻多量に含む

2. 黒色土 粘り強、粘性有、1層と2cm大ローム、黒色土の混合土

土質

I. 黒色土 粘りやや弱、粘性有、1cm以下ロームブロック多く含む、2mm以下焼土極少し含む、遺物含む

2. 黒色土 粘り強、粘性有、5mm以下ロームブロックやや多く含む、2mm以下焼土ほとんど含まない

3. 黒灰色土 粘り強、粘性有、粘土質の土で、2mm以下シミ状暗褐色土極少し含む

井戸

I. 黒色土 粘り強、粘性有、3cm以下黒褐色土をブロック状に多く、2mm以下ローム粒少し含む、焼土・炭化物物含まない

2. 黒色土 粘り強、粘性有、5mm以下ローム粒少し含む、焼土・炭化物物含まない

2. 黒色土 粘り弱、粘性有、1cm以下ロームブロック多く含む

トレンチ1 溝1

1. 黒色土 粘り弱、粘性有、1cm以下ロームブロック多量に含む(II-3類似)、焼土・炭化物物物含まない

2. 黒褐色土 粘り強、粘性有、1層よりローム質で全体に2cm以下シミ状ロームやや多く含む

3. 暗褐色土 粘り強、粘性有、2層に類似するがややロームブロックが多い

トレンチ1 溝2

1. 黒色土 硬化面、粘性有、2mm以下ローム粒多量に含む

2. 黒色土 粘り強、粘性有、2mm以下ローム粒少し含む

3. 黒色土 粘り強、粘性有、2mm以下ローム粒多量に含む(1層より多い)

4. 黒色土 粘り強、粘性有、2mm以下ローム粒多量に含む(2・3層より多い)、一層ローム多くやや大きめの3mm以下ローム粒含む

5. 黒色土 粘り強、粘性有、2mm以下ローム粒多量に含む(3層と同程度)、3層より黒色味強い

トレンチ3 溝2

1. 黒色土 粘り強、粘性有、全体にロームが2層に及び、2mm以下ローム粒少し含む

2. 黒色土 粘り強、粘性有、1層より密で下層約2mm以下ローム多量に含む

3. 黒褐色土 粘り強、粘性有、2層主体に1cm以下ローム多く含む

ピット

1. 黒褐色土 粘り強、粘性有、1cm以下ロームブロック多量に含む、焼土・炭化物物物含まない

第37図 松山遺跡第74地点遺構配置図(1/300)、集石土坑・土坑・井戸・ピット・溝(1/60)、出土遺物(1/4)

X 松山遺跡第77地点

(1) 調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より2013年12月2日付けで、「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の中央部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため、2014年3月3日～11日に試掘調査を実施した。

試掘調査は、幅約1～1.5mのトレンチ7本を設定し、重機で表土除去後、人力による表面精査を行った。遺構確認までの深さは約50～60cmである。

試掘調査の結果、古代の住居跡1軒等を確認した。

申請者と協議の結果、遺跡への影響が避けられないため本調査を行った。

本調査は試掘調査に引き続き13日～26日に行った。

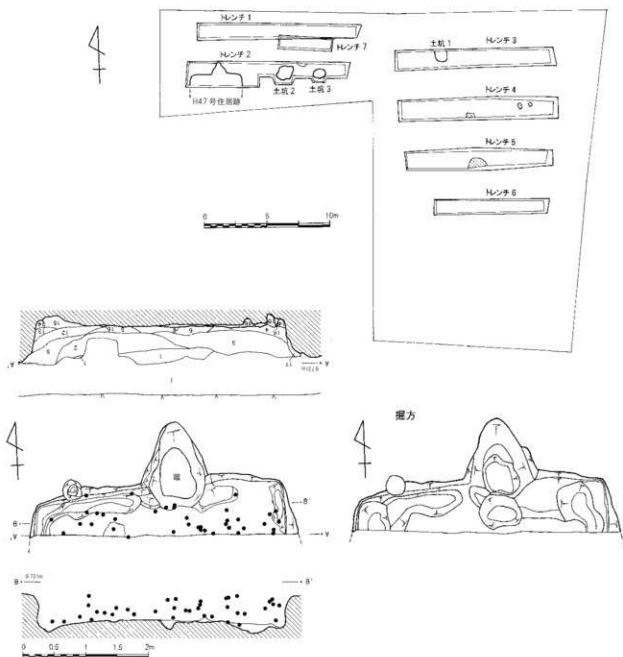
写真撮影・全測図作成等記録保存を行っとうえ埋め戻し、調査を終了した。旧石器時代の確認調査は、行っていない。

(2) 遺構と遺物

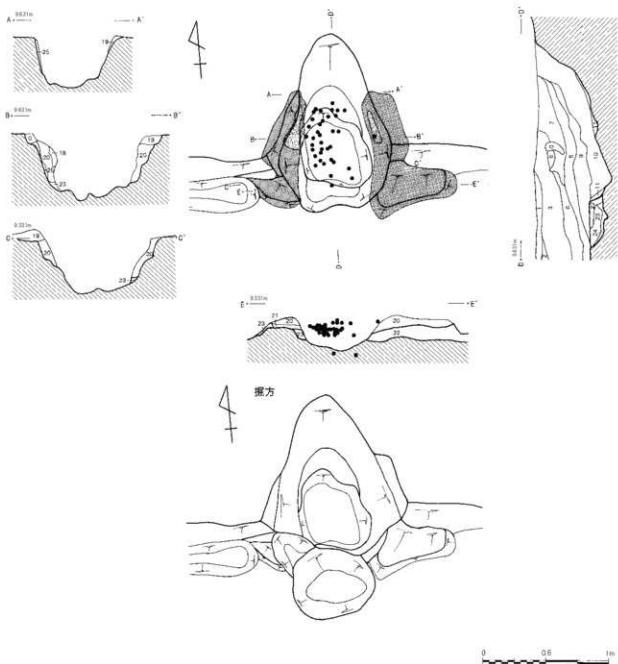
① H47号住居跡

【位置・時期】 本住居跡は調査区の北東部に位置し、住居跡の竈と一部を検出した。

【形状・規模・掘方】 大部分は調査区外に延びるため、



第38図 松山遺跡第77地点遺構配置図(1/300)、H47号住居跡・遺物出土状況・掘方(1/60)



H47号住居跡

1. 黄土・黒褐色土 締り強。粘性有。シミ状にコブ質ロームブロック少し含む
2. 黒褐色土 締り有。粘性有。2mm以下微土少し含む
3. 黒褐色土 締り有。粘性有。3mm以下微土粒中や多く、5～10mm微土ブロック・3～20mmシミ状の灰白色土少し含む
3. 黒褐色土 締り強。粘性有。灰白色土粒・3mm以下微土やや多く、1cm以下炭化物少し含む
4. 黒褐色土 締り強。粘性有。5mm以下ローム粒やや多く、10～15mmロームブロック・5mm微土・炭化物少し含む
5. 黒褐色土 締り強。粘性有。5mm以下ローム粒やや多く、5mm微土・炭化物少し含む、2層より色調暗め
6. 暗黄灰色土 締り強。粘性有。シミ状に灰白色土を含み、3層より色調暗め、1cm以下灰白色粘土・3mm以下微土少し含む
7. オリーブ黄色土 締り強。粘性有。シミ状に黒褐色土・5～10mm炭化物・灰白色土少し含む。シルト質
8. 暗黄灰色土 締り強。粘性有。斑状に黒褐色土と灰白色土が混ざる。3mm以下ローム粒シミ状にやや多く、1cm以下灰白色粘土・3mm以下微土・炭化物少し含む。シルト質
9. 灰白色土 締り強。粘性強。粘性の強い1～4cm灰白色粘土多く含む。5mm以下微土やや多く含む
10. 灰白黄褐色土 締り強。粘性有。黒褐色土主体に5～10mmローム土・微土やや多く含む。ボロボロしている
11. 灰白黄褐色土 締り強。粘性有。シミ状の5～15mm微土・灰白色土やや多く含む
12. 黒褐色土 締り強。粘性有。1～5層より黄色味強い、5～10mmロームブロック・3mm以下ローム粒・5～10mm炭化物少し含む
13. 黒褐色土 締り強。粘性有。シミ状のローム土・5mm以下ローム粒やや多く含む
14. 黒褐色土 締り強。粘性有。4cmロームブロック少し含む。不明瞭だが強い層状が混っていた可能性がある
15. 黒褐色土 締り強。粘性有。1cm以下ロームブロック・粒・シミ状のローム土やや多く、3mm微土少し含む。炭質微土
16. 暗黄褐色土 締り強。粘性有。3cm以下ロームブロック・シミ状の黒褐色土をやや多く含む。部分的(西)に5mm以下微土少し含む。粘床構築土
17. 暗黄灰色土 締り有。粘性有。シミ状の黒褐色土。1cm以下ロームブロック・粒少し含む
18. 赤紫色土 締り強。粘性強。灰白色粘土が被熱により赤化・硬化したもの、1cm以下灰白色粘土少し含む
19. 黄灰色土 締り強。粘性有。ソコローム土と灰白色粘土が混ざる
20. 灰白色土 締り強。粘性強。2cm以下灰白色粘土シミ状に多く、1cm以下ロームブロック・粒・3mm以下微土少し含む
21. 黒褐色土 締り強。粘性強。シミ状に灰白色・ローム土をやや多く含む
22. 黒褐色土 締り強。粘性有。暗黄灰色土をベースに2cm以下ロームブロック主体。粘床
23. 暗黄灰色土 締り強。粘性有。2mm以下ローム粒・炭化物少し含む。粘床
24. 暗黄灰色土 締り強。粘性有。5～20mmロームブロックやや多く含む。粘床
25. 黒褐色土 締り強。粘性有。被熱により黄褐色化・硬化したローム土

第39図 松山遺跡第77地点 H47号住居跡・遺物出土状況・掘方 (1/30)

全容は不明である。

検出部の規模は東西410×南北(95)cm、深さ60cmである。掘方はドーナツ状に床面中央部が高く、壁際を深く掘り窪めたものと推測される。

【周溝】 検出部には、竈周辺を除き周溝がみられる。上幅13～28cm、下幅3～15cm、深さ5～11cmである。

【遺物出土状況】 床面から覆土層にかけて出土する。また覆の覆土層からも、まとめて出土する。

【竈】 住居跡北壁中央部のやや東寄りに位置する。天井はなく、両袖と奥壁、燃焼面を検出した。袖部には構築部材の灰白色粘土がみられる。竈残存部の長軸135cm、袖部の最大幅156cmである。竈内部は幅60cm、奥行き80cmで床面からの深さは17.1cmである。煙道部は住居の壁を奥行き90cm、幅55cm掘り込む。

【遺物】 (第41図1～17) 1～11は須恵器、12～17は土師器である。1と2は須恵器の蓋で同一個体、7と11も胎土や整形から同一個体とみられる。

6は須恵器の坏で底部内外面に墨書文字「中」の文字がみえる。内面より外面の方が明瞭である。14と

17は土師器で接合しないが、台付蓋の同一個体の可能性が考えられる。詳細は第23表参照。

②土坑

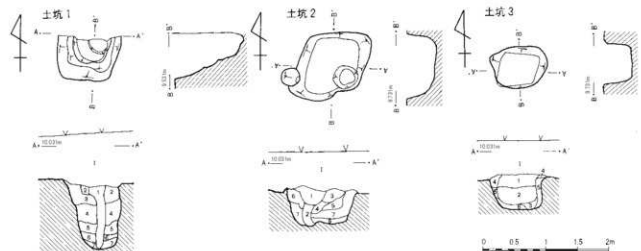
土坑は3基検出した。土坑1・2は形状から掘立柱建物跡の可能性が高いが、全体的に調査区を広げて調査を行っていないので確定は出来ない。

【土坑1】 調査区の北東部に位置する。検出部の平面形態は隅丸方形で、全容は不明である。規模は、確認面径100×(63)cm、底径29×(20)cm、深さ107.1cmである。柱痕は幅13～14cm、深さ100cmである。

【土坑2】 調査区の北西部に位置する。検出部の平面形態は不整の方形である。規模は、確認面径151×100cm、底径25×24cm、深さ55.5cmである。柱痕は幅11～14cm、深さ65cmである。

【土坑3】 調査区の中央北部に位置する。検出部の平面形態は隅丸長方形である。規模は、確認面径89×64cm、底径58×50cm、深さ44.9cmである。

【遺物】 (第41図18・19) 出土遺物については、第23表参照。



土坑1

- 1 黒褐色土 緑内強。粘性有。やや灰色味が有る。5～100mmロームブロックやや多く含む
- 1 黒褐色土 緑内強。粘性有。3mm以下ローム粒やや多く。2cm大ロームブロック少し含む
- 1 黒褐色土 緑内強。粘性有。3mm以下ローム粒やや多く。黄灰色味が有る
- 2 黒褐色土 緑内強。粘性有。黒色味強い。1cm以下ロームブロック・粒やや多く含む
- 3 緑灰色土 緑内強。粘性有。5～10mmロームブロック少し。1～5mmローム粒多く含む
- 4 黒褐色土 緑内強。粘性有。5～40mmロームブロック・5mm以下ローム粒多く含む
- 5 黒褐色土 緑内強。粘性有。1cm以下ロームブロック・粒やや多く含む
- 6 黄褐色土 緑内強。粘性有。黒褐色土ベースに1cm以下ロームブロック・粒主体
- 7 黒褐色土 緑内強。粘性有。5～15mmロームブロック少し含む

土坑2

- 1 黒褐色土 緑内強。粘性有。2mm以下灰白色土粒少し。1cm灰白色土ブロック少し含む
- 2 黒褐色土 緑内強。粘性有。5cm以下1～3cm緑灰色土少し含む
- 3 黒褐色土 緑内強。粘性有。5～50mmロームブロック・3mm以下ローム粒やや多く含む
- 4 黒褐色土 緑内強。粘性有。5mm以下ローム粒やや多く含む

- 5 黒褐色土 緑内強。粘性有。黒色味強い。5～15mmロームブロック・3mm以下ローム粒少し含む
- 6 黄灰色土 緑内強。粘性有。5～20mmロームブロック・シズ状の2cm黒褐色土少し含む
- 7 緑灰色土 緑内強。粘性有。黒褐色土主体に5～40mmローム土・ブロック多含む
- 8 黒褐色土 緑内強。粘性有。シズ状の緑灰色土・4cm以下ロームブロックやや多く含む。よく締まっている

土坑3

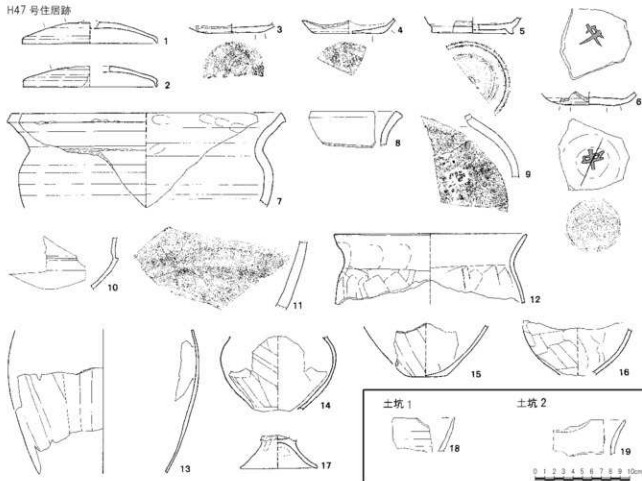
- 1 黒褐色土 緑内強。粘性有。5～10mmロームブロック・3mm以下ローム粒少し含む
- 2 黒褐色土 緑内強。粘性有。1層より黒色味強い。シズ状の黄灰色土。1～2cmロームブロック少し含む
- 3 黄褐色土 緑内強。粘性有。ソフ質のローム土主体。灰色味が有る
- 4 緑灰色土 緑内強。粘性有。黒褐色土主体にシズ状のローム土を多く含む
- 5 黄褐色土 緑内強。粘性有。ローム土主体。シズ状に黒褐色土やや多く含む
- 6 緑灰色土 緑内強。粘性有。ロームブロック主体。シズ状に黒褐色土を少し含む。粘圧を受けたようによく締まっている

第40図 松山遺跡第77地点土坑(1/60)

第23表 松山遺跡第77地点出土遺物観察表 (単位 cm・g)

観覧No.	出土遺構名・注記No.	種類・器種	口径・長さ	底径・幅	高さ・厚さ	技法・文様・その他	所在地	推定年代
1	H47号住居跡No.18	須恵器/环蓋	(14.2)	—	(2.3)	輪軸成形/内面ナデ、外面ナデ・大耳部周辺凹輪ヘラケズリ/つまみ跡有/胎土:灰白色、白色粒子・細粒砂/2同一個体か	—	8c後半
2	H47号住居跡No.17	須恵器/环蓋	(14.0)	—	(2.2)	輪軸成形/内面ナデ、外面ナデ・大耳部周辺凹輪ヘラケズリ/胎土:灰白色、白色粒子・細粒砂/1同一個体か	—	8c後半
3	H47号住居跡No.5	須恵器/环	内底径(8.0)	(6.5)	(1.0)	輪軸成形/底部右凹輪糸切後周辺凹輪ヘラケズリ/胎土:灰白色、細粒砂・赤色粒、龜北尖地成	—	8c後半
4	H47号住居跡No.35	須恵器/环	内底径(7.6)	(7.4)	(1.6)	輪軸成形/底部右凹輪糸切後周辺一体部下端凹輪ヘラケズリ/胎土:灰色、白色粒子・細粒砂/内外面まぼらにタール状物質付着	—	8c後半
5	H47号住居跡No.76	須恵器/高台付环	内底径(8.2)	8.6	(1.8)	輪軸成形/底部右凹輪糸切後凹輪ヘラケズリ、付け高台/胎土:灰色、白色粒子・細粒砂	—	8c後半
6	H47号住居跡No.1	須恵器/环	内底径(7.0)	6.3	(1.5)	輪軸成形/底部右凹輪糸切後周辺凹輪ヘラケズリ/外(内)底面に筆書「申」、外底面にヘラ書き/胎土:灰色、細粒砂・石黄粒、チャート粒・白色針状物質	南北倉	8c後半
7	H47号住居跡No.7	須恵器/鉢	28.6	28.6	(9.9)	輪軸成形/内外面ナデ、口縁部に筋面有/胎土:灰色、白色粒子多・細粒砂/11と同一個体か	—	8c中～後半
8	H47号住居跡No.9	須恵器/甌	—	—	(3.7)	輪軸成形/内外面ナデ/内外面に自然熱/胎土:灰色、白色粒子・細粒砂	—	8c中～後半
9	H47号住居跡No.14, 28	須恵器/甌?	—	—	(8.4)	輪軸成形/内外面ナデ/内外面に自然熱/胎土:相灰色、白色粒子	—	8c中～後半
10	H47号住居跡No.31	須恵器/碗	—	—	(5.0)	輪軸成形/胎土:灰色、白色針状物質・細粒砂/佐渡理模陶	南北倉	8c中～後半
11	H47号住居跡No.23	須恵器/鉢?	—	—	(7.3)	輪軸成形/内面下部・胎土・胎土、外面下部斜ケズリ/胎土:灰色、白色粒子多・細粒砂/7と同一個体か	—	8c中～後半
12	H47号住居跡No.22	土師器/甕	(20.4)	—	(7.4)	輪軸成形/口縁部内外面ナデ、胴部内面斜ケズリ、外面頸部直下横ケズリ・以下斜ケズリ/胎土:褐色、中粒砂/器厚:0.4cm	—	8c中～後半
13	H47号住居跡No.カマ下1, 38~42, 57, 58, 60, 64	土師器/甕	胴部径(20.2)	—	(15.1)	輪軸成形/内面ナデ、外面斜頸部・胴部縦ケズリ/胎土:明赤褐色、中粒砂/器厚:0.3~4cm/成順後二次比熱	—	8c中～後半
14	H47号住居跡No.50, 65	土師器/台付甕	胴部径(12.3)	—	(7.7)	輪軸成形/内面ナデ、外面斜ケズリ、接合部横ナデ/胎土:褐色、中粒砂/二次比熱	—	8c中～後半
15	H47号住居跡No.47	土師器/甕	—	4.4	(5.5)	輪軸成形/内面ナデ、外面胴部斜ケズリ・底部ケズリ/胎土:明赤褐色、中粒砂/器厚:0.3~0.4cm	—	8c中～後半
16	H47号住居跡No.50, 54, 55	土師器/台付甕	—	—	(5.0)	輪軸成形/内面ナデ、外面胴部斜ケズリ・胴部斜ケズリ、接合部横ナデ/胎土:褐色、中粒砂/器厚:0.3cm	—	8c中～後半
17	H47号住居跡No.8	土師器/环	—	8.4	(3.5)	輪軸成形/内外面ナデ/胎土:褐色、中粒砂/器厚:0.4~0.5cm	—	8c中～後半
18	土坑1	須恵器/环	—	—	(3.3)	輪軸成形/胎土:灰色、白色粒子	—	—
19	土坑2	土師器/甕	—	—	(3.0)	輪軸成形/内外面ナデ/胎土:明赤褐色、中粒砂/器厚:0.6cm	—	—

H47号住居跡



第41図 松山遺跡第77地点出土遺物 (1/4)

第12章 江川南遺跡の調査

I 遺跡の立地と環境

江川南遺跡は福岡江川の谷頭部から、約300～500m程下った右岸に位置している。遺跡の標高は20～21mで、現谷底との比高差は1～2mを測る。福岡江川北側の左岸は急傾斜を成すが、本遺跡をのせる南側右岸の台地は緩やかに傾斜する。

遺跡の中央部を南北に川越街道がはしり、川越街道から東に県道東大久保・大井線が延びる。東武東上線上福岡駅から約1kmのため、昭和40年代から急激な開発による市街化がなされ現在に至っている。

周辺の遺跡は、福岡江川の対岸に亀居遺跡と鶴ヶ舞遺跡が位置し、東側に江川東遺跡が隣接する。

本遺跡は当初、地藏院遺跡と江川南遺跡であったが、平成5年に遺跡の変更増補を行い統一した。また平成9年には亀久保堀跡遺跡と江川南遺跡に分ける変更増補を行った。

本遺跡では旧石器時代の石器集中・礫群、縄文時代中期の住居跡・土坑など、古代～中世の堀跡、地藏院に関わる近世の遺構群で、また時期は多岐にわたる。

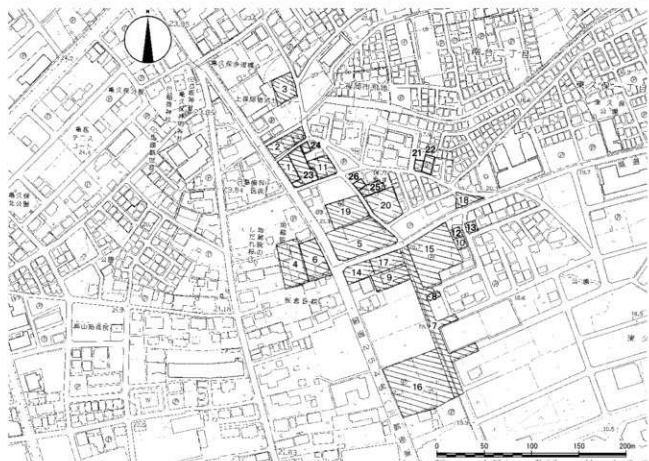
II 江川南遺跡第26地点

(1) 調査の概要

調査は分譲住宅建設に伴うもので、原因者より2013年8月23日付けで、「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の中央部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため、2013年9月24日～26日に試掘調査を実施した。

試掘調査は、幅約1.5mのトレンチ2本を設定し、重機で表土除去後、人力による表面精査を行った。

現地表面から地山ローム層までの深さは約60cmである。遺構、遺物なし。旧石器時代の確認調査は行っていない。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえ埋戻し、調査を終了した。

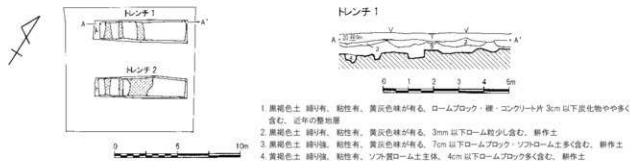


第42図 江川南遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

第24表 江川南遺跡調査一覧表

地点	所在地	調査期間 ()は試掘調査	面積 (㎡)	調査原因	確認された遺構と遺物	所収報告書
1	藤久保 121-1	1977.8.30～9.30	64	町史編纂事業	縄文中期：住居跡 1(1号)	大井町史料7集
2	藤久保 1-120-3	(1991.5.28～5.31)1991.6.1～	580	共同住宅	旧石器・縄群 3、縄文中期、中世：堀跡	東X1
3	鶴ヶ野 1-110-5	(1992.3.25)	646	資材運搬	縄々遺跡第3地点として報告遺構・遺物無し	町内I
4	藤久保 192	(1995.8.28～9.21)	825	庫裏建設	縄文中期：住居跡 1(2号)・土器・石器、近世以降：土坑 2.4、井戸 1、礎石跡 1、近世以降：陶磁器	町内V
5	藤久保 1-194・195の一部	(1996.8.5～8.8)1996.8.20～8.29	2,092	店舗	縄文：ビット 10、溝 4本、中世：堀跡	町VI・調査 14集
6	藤久保(旧地蔵院遺跡第1地点)	(1985.10.17～11.8)	837	町史編纂	縄文中期：土坑 4、近世以降：池状遺構 1、堀状遺構 1、溝 3本、肥前系磁器、石明細、古銭、埴輪出土	町V
7	藤久保 3-193	(2003.4.16～4.24)	929	店舗	平成 15年 3月調査。2号住居跡の敷き検出	町X
8	藤久保 196-1他	1996.11.19～2.13	1,322	区画整理道路	縄文：溝とし穴 2、中世：堀跡、近世以降：溝、ビット 2	調査 14集
9	藤久保 7 街区 1 画地	(1997.10.13～10.15)	50	墓地移転	縄文：溝とし穴 1、ビット 4、かわらけ片 1点	町VII
10	藤久保 2 街区 2・3 画地	(1998.10.6～10.9)	875	共同住宅	遺構遺物無し	町VIII
11	藤久保 2 街区 9・10 画地	(1999.5.24～5.26)	133	個人住宅	遺構遺物無し	町IX
12	藤久保 1-122-2・4	(1999.9.20～9.27) 1999.9.28～10.15	465	共同住宅	旧石器：石器ブロック 4、縄群 5、中世：堀跡、土器編 1、旧石器コンテナ 2 箱、土器片コンテナ 2 箱、瓦貨	町IX
13	藤久保 2 街区 4・5 画地	(1999.10.26～10.28)	104	個人住宅	遺構無し、縄文：無文土器片 1点	町IX
14	藤久保 3 街区 21 画地	(2000.6.7)2000.6.8～6.21	123	個人住宅	縄文：集石土坑 3、土坑 1	町X
15	藤久保 1 街区 1 画地	(2000.7.5～7.10)2000.7.10～7.18	461	店舗	縄文：ビット 20、近世以降：欄干 1、溝 1、土坑 1、ビット 3	町X
16	藤久保 2 街区 1 画地	(2000.12.8～12.26) 2001.1.10～1.19	2,375	共同住宅	中世：堀跡 1、溝 3、欄干 1、ビット、旧石器：黒曜石割片、縄文：土坑 1、ビット、縄文土器片、近世：陶磁器片	町X・調査 14集
17	藤久保 1 街区	(2002.9.24～10.4)	3,752	船舶所	遺構遺物無し	町XI
18	藤久保 196-1(1)街区 20～23画地	(2002.10.29～11.11)	474	宅地分譲	ビット 6、溝 2、堀跡、旧石器、土器片、石器	町XI
19	藤久保 285-51・52 他	(2003.7.11～2003.7.16)	240	共同住宅	遺構遺物無し	町XI
20	藤久保 1-185-1	(2003.9.18～10.8) 2003.10.10～11.14	1,129	店舗	旧石器：縄群、土坑 22、ビット 69、堀跡、溝、旧石器：石器群 3	町XI
21	藤久保 1-183-5	(2005.8.1～8.11)2005.8.18～9.10	951	分譲住宅	縄文中期住居跡 2(3号、4号)、集石土坑 5、ビット 1、溝 6	調査 18集
22	藤久保 1-29-1	(2006.10.8)	99	個人住宅	遺構遺物無し	市3
23	藤久保 132-11	(2006.10.11～11.6)2006.11.7～11.9	206	分譲住宅	旧石器群 5	市3
24	藤久保 1-121-1	(2007.1.24～2.1)2007.2.19～3.16	1,011	分譲住宅	旧石器群 6、縄文中期住居跡 2(1・5号)、集石土坑 2、土坑 2、ビット 30、溝 4	市3
25	藤久保 1-122-5	(2009.12.4～10)2009.12.14～28	178	分譲住宅	旧石器群 4、石器集中 1、縄文時代集石土坑 1、堀跡、ナイフ形石器他、縄文土器・土器	市7・8
26	藤久保 1-183-8・13	(2012.7.4)	252.88	分譲住宅	溝 2、土器	市 15
27	藤久保 1-183-14	(2013.9.24～26)	99.1	建売住宅	遺構遺物無し	市 18

※東：大井町東部遺跡群、町：大井町町内遺跡群、調査：大井町遺跡調査会報告、市：ふじみ野市市内遺跡群



第43図 江川南遺跡第26地点調査区域図(1/300)、土層(1/150)

第13章 江川東遺跡の調査

I 遺跡の立地と環境

江川東遺跡は、入間川の支流新河岸川に注ぐ福岡川の谷頭部から、約700～1,000m程下った右岸に位置している。標高15～19mで現谷底との比高差は3mを測る。福岡川川の左岸は急傾斜をなし、右岸は緩やかな斜面を形成している。遺跡周辺は、急激な市街化によって商店や住宅が建ち僅かに畑地が残っている。

周辺の遺跡は谷頭部付近に亀居遺跡、対岸台地上に鶴ヶ舞遺跡、南側に東久保遺跡がある。

本遺跡は旧大井町の地域で最も早く市街化された区域内にあり、現在は表面採取がほとんど不可能であるが、一部残された畑地には須恵器が散布する。第2地点の調査では、近世の土坑・ピットを検出している。2016年7月現在24地点で試掘及び発掘調査を行っている。

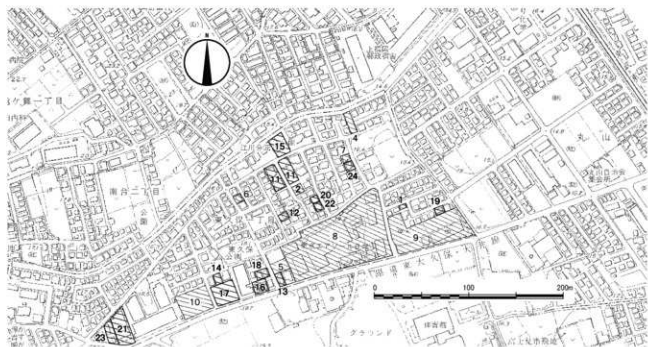
II 江川東遺跡第20地点

(1) 調査の概要

調査は分譲住宅建設に伴うもので、原因者より

第25表 江川東遺跡調査一覧表

地点	所在地	調査期間 ()は試掘調査	面積(m ²) ()は開発面積	調査原因	確認された遺構と遺物	所収報告書
1	東久保1-145-14	(1994.3.24・25)	52	個人住宅建設	溝状遺構、縄文土器・須恵器	町内遺跡調査
2	大子東久保1-162-34	1995.1.20・2.6	191	個人住宅建設	土坑17、ピット18、フレーク・須恵器陶磁器	町内遺跡調査IV
4	東久保138-4他	(1996.1.24・29)	246	個人住宅建設	ピット3、溝2	町内遺跡調査V
5	東久保1-155-6	(1998.6.1～9)	164	土地分譲	ピット12	町内遺跡調査VI
6	東久保1-168-7	(2001.7.17)	15(71)	個人住宅建設	遺構遺物なし	町内遺跡調査XI
7	東久保1-160-47	(2004.1.4)	88	個人住宅建設	遺構遺物なし	町内遺跡調査XII
8	東久保1-150他	(2004.3.25～4.7)	6,137	共同住宅	土坑1、溝、風割木板1	町内遺跡調査XIII
9	東久保1-6-19	(2004.4.9～5.10) 2004.5.11～24	464	保育所	ピット40、溝2、縄文土器	町内遺跡調査XIV、調査報告書14東久保の遺跡
10	東久保1-174-1・36	(2005.10.13～24)	267(881)	分譲住宅	土坑1、遺物なし	市内2
11	東久保1-162-1・14	(2006.11.9～15)	200(674)	分譲住宅	遺構検出	市内3
12	東久保1-27-3	(2006.11.10)	6(72)	宅地造成	遺構遺物なし	市内3
13	東久保1-155-4	(2006.8.11)	24(114)	個人住宅	遺構遺物なし	市内3
14	東久保1-174-38	(2007.5.25～29)	30(67)	個人住宅	遺構遺物なし	市内4
15	東久保1-136-5	(2007.9.11～13)	91(344)	公民館分館	遺構遺物なし	市内4
16	東久保1-176-13～16	(2009.9.14・15) 2009.9.16～18	63(148)	個人住宅	縄文時代集石土坑1	市内8
17	東久保1-177-1	(2009.12.10～18)	156(556)	地下埋設物調査	遺構遺物なし	市内8
18	東久保1-176-9	(2011.11.28)	(72)	個人住宅	遺構遺物なし	市内14
19	東久保1-146-6	(2012.7.24)	(74.2)	個人住宅	稲藁木甲ピット1、遺物なし	市内15
20	東久保1-160-29	(2013.7.30)	11(71.94)	建売住宅	遺構遺物なし	市内18
21	東久保1-180-1	(2013.11.21・22)	30.5(570.0)	宅地造成	遺構遺物なし	市内18
22	東久保1-160-30	(2014.9.30・10.1)	11.0(72.44)	個人住宅	遺構遺物なし	市内18
23	東久保1-180-11	(2014.10.10)	29.4(180)	個人住宅	遺構遺物なし	未報告
24	東久保1-32-12	(2015.11.27)	6(91.92)	個人住宅	遺構遺物なし	未報告



第44図 江川東遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

2013年4月16日付けで、「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の中央部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため、2013年7月30日に試掘調査を実施した。

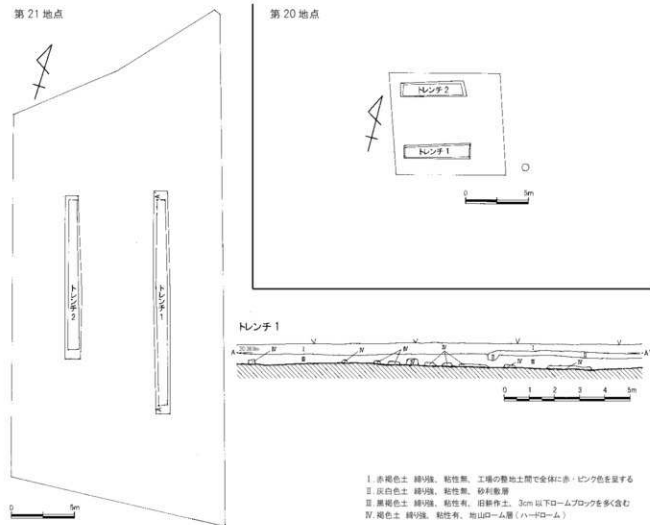
試掘調査は、幅約1.5mのトレンチ2本を設定し、重機で表土除去後、人力による表面精査を行った。現地表面から地山ローム層までの深さは40～55cmである。遺構、遺物なし。旧石器時代の確認調査は行っていない。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえ埋め戻し、調査を終了した。

Ⅲ 江川東遺跡第21地点

(1) 調査の概要

調査は分譲住宅建設に伴うもので、原因者より2013年10月31日付けで、「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の西端に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため、2013年11月21～22日に試掘調査を実施した。

試掘調査は、幅約1mのトレンチ2本を設定し、重機で表土除去後、人力による表面精査を行った。現地表面から地山ローム層までの深さは60～80cmである。遺構、遺物なし。旧石器時代の確認調査は行っていない。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえ埋め戻し、調査を終了した。



第45図 江川東遺跡第20・21地点調査区域図(1/300)、第21地点土層(1/150)

第14章 東久保遺跡の調査

I 遺跡の立地と環境

東久保遺跡は入間川の支流新河岸川に注ぐ福岡江川の谷頭部から、約500～1,000m程下った右岸に位置している。標高17～20mで現谷底との比高差は3～4mを測る。福岡江川の左岸の南面は急傾斜を成す。本遺跡をのせる右岸の台地は県道東久保・大井線を境に南北および西側に緩やかに傾斜する。遺跡の南側縁には用水路が流れており、用水路以前にも流水があったものと考えられる。

遺跡周辺は急激な市街化によって工場や住宅、市立亀久保小学校が建ち、区画整理事業が実施され今後更に開発が予想される。

周辺の遺跡は、本遺跡と福岡江川の間平安時代の遺物を出土する江川東遺跡が位置する。西側約50mに江川南遺跡、南側に隣接して亀久保堀跡遺跡が位置する。本遺跡の調査は1976年以来2016年7月現在、72地点で試掘調査および発掘調査を行っている。これまでの調査で、旧石器時代礫群、縄文時代の落とし穴・土坑・集石土坑など、中近世は溝や柵跡が確認されている。

II 東久保遺跡第71地点

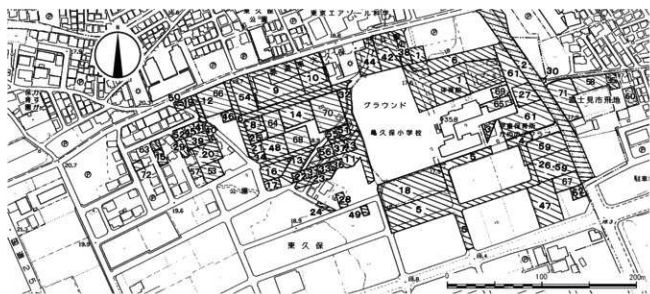
(1) 調査の概要

調査は店舗建設に伴うもので、原因者より2013年5月9日付で、「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の東端に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため、2013年6月17日～19日に試掘調査を実施した。

試掘調査は、幅約1.5mのトレンチ4本を設定し、重機で表土除去後、人力による表面精査を行った。現地表面から地山ローム層までの深さは40～110cmである。現地表面は盛土により平坦であるが、区画整理事業以前は北に向かって傾斜しており、地山ローム層も同様である。遺構、遺物なし。

トレンチ1で近世以降とみられる溝2本と、トレンチ4でビニール塵を含む溝状のプランを確認した。溝1は断面が逆台形、上幅85cm、下幅35cm、深さ55cmである。

旧石器時代の確認調査は行っていない。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえ埋め戻し、調査を終了した。

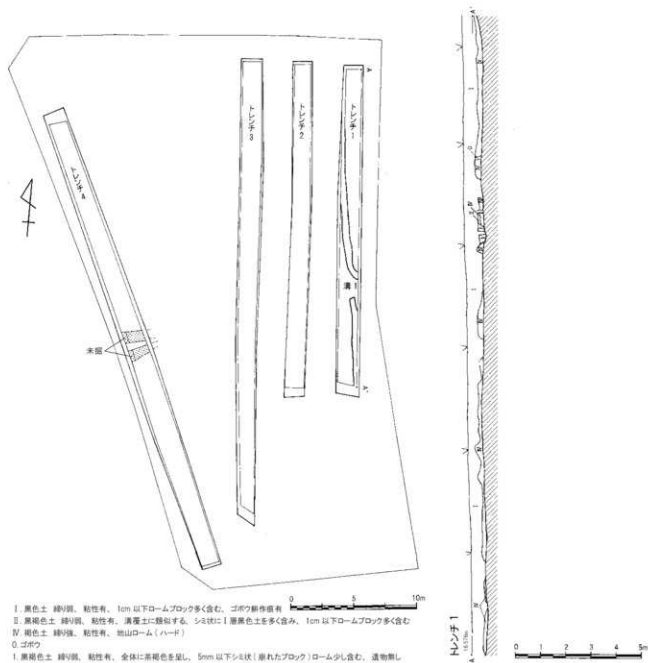


第46図 東久保遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

第26表 東久保遺跡調査一覧表

地点	所在地	調査期間 (※は試掘調査)	面積 (㎡)	調査内容	確認された遺構と遺物	所収報告書
1	東久保字東久保285-1他	(1997.6.29～7.27)	10,000	東久保小学校	縄文時代集石土坑6、土坑3、井戸2、溝2、縄文土器・石器	大井町文化財報告書「東久保遺跡調査」
2	東久保293-1他	1994.12.19～1995.3.23/1995.5.18～5.22/1996.11.15)	2,472	区高野理道路	中野区溝の溝5、ピット4、土坑2、縄文土器片	調14表
3	東久保284-1	(1996.5.20～5.29)	270	水道管理施設	溝1	町X
4	東久保364-4	(1996.6.7～6.10)/1996.9.2～9.4	320	区高野理道路	溝2、溝1、遺物なし	町X・調14表
5	東久保366	1996.11.22～1997.3.5	3,314	区高野理道路	土坑3、中野の堀跡1、溝2、ピット1、土器・石器	調14表
6	東久保271-1	-A区(1997.1.20～2.13) -B区(1997.2.24～3.19) -C区(1997.7.24～7.25)-D区(1997.8.6)	2,309	区高野理道路	縄文時代溝と土坑2、集石土坑1、土坑1、ピット5、溝8、縄文土器・石器	調14表
7	(「東久保遺跡調査第1地点に変更」)					
8	東久保18街区12画地	(1997.7.29～8.2)	305	個人住宅	縄文時代土坑2、ピット2	町X
9	東久保279、280	(1997.8.18～8.28)/1998.3.1～5.18	2,117	共同住宅	縄文時代集石土坑5、土坑13、ピット7、近世以降の溝3、石器時代石器、縄文時代土器・石器	町X・調14表
10	東久保19街区	(1997.9.2～10.1)	1,067	分譲住宅	縄文時代集石土坑1、近世以降の溝1、縄文土器片	町X
11	東久保	1998.7.13～8.6、1999.3.11～12	588	区高野理道路	中野区溝の溝1、ピット3、溝1、縄文土器・石器	調14表
12	東久保	1999.1.19～1.21	282	区高野理道路	縄文時代集石土坑1、ピット10、近世以降の溝2	調14表
13	東久保381-5他	1999.5.19～20/1999.11.2	360	区高野理道路	遺構遺物なし	調査14表
14	東久保18街区3画地	(1999.6.29～7.16)/1999.7.19～7.29	162	個人住宅	溝2、溝1、縄文土器片、瓦葺陶器片	町X・調14表
15	東久保5街区14～16画地	(1999.8.2)	178	個人住宅	遺構遺物なし	町X
16	東久保15街区1～5・32画地	(1999.10.1～10.6)	534	個人住宅	遺構遺物なし	町X
17	東久保381-5	(1999.11.14～15)	168	個人住宅	遺構遺物なし	町X
18	東久保27街区2画地	(1999.11.30～12.15)	14,980	小学校「うら」	溝1	町X
19	東久保3街区9・10画地	(1999.12.20～21)	108	店舗併用住宅	遺構遺物なし	町X
20	東久保4街区9画地	(2000.2.28～3.3)	478	個人住宅	遺構遺物なし	町X
21	東久保18街区14画地	(2000.3.23～3.28)	114	個人住宅	遺構遺物なし	町X
22	東久保15街区28画地	(2000.3.22～23)	150	個人住宅	遺構遺物なし	町X
23	東久保	2000.3.13～3.16、2000.3.27～4.6	280	区高野理道路	縄文時代土坑1、集石1	調14表
24	東久保14街区	2000.1.19	390	区高野理道路	遺構遺物なし	調14表
25	東久保18街区13画地	(2000.4.13～14)	135	個人住宅	遺構遺物なし	町X
26	東久保31街区9画地	(2000.4.14)	1,107	砂利搬送車庫	溝、ピット、縄文土器片他	町X
27	東久保29街区	2000.5.17～6.8	560	区高野理道路	縄文時代ピット15、瓦葺土坑1、溝1、ピット4	調14表
28	東久保14街区8画地	(2000.4.29～7.4)	130	個人住宅	遺構遺物なし	町X
29	東久保4街区18・20画地	(2000.6.30～7.4)	218	個人住宅	溝2	町X
30	東久保294番2	2000.7.4	48	区高野理道路	溝状遺構、遺物なし	調14表
31	東久保15街区26画地	(2000.6.7)	126	個人住宅	遺構遺物なし	町X
32	東久保277・381番地他	2000.7.12～8.4	265	区高野理道路	旧石器時代石器製作跡2、縄文時代土坑2、ピット12、時期不明の溝・溝列各1、ナイフ形石器他	調14表
		2001.7.16～11.30	590			
33	東久保15街区24画地	(2000.8.2～3)	128	個人住宅	遺構遺物なし	町X
34	東久保18街区15画地	(2000.8.29～30)	110	個人住宅	ピット4	町X
35	東久保23街区3・4画地	(2000.12.7～12.9)	139	個人住宅	溝1、ピット1	町X
36	東久保15街区21・22画地	(2001.4.19～1.25)	135	個人住宅	遺構遺物なし	町X
37	東久保15街区13・33画地	(2000.11.2)	149	個人住宅	遺構遺物なし	町X
38	東久保284-1、285-1	2000.12.13～12.15	501	区高野理道路	縄文時代ピット4、遺物なし	調14表
39	東久保14街区8・9画地	(2001.3.22～3.27)	317	個人住宅	縄文時代溝と土坑1	町X
40	東久保270-3・4	2001.3.23、2001.6.1	128	区高野理道路	遺構遺物なし	調14表
41	東久保4街区6・7画地	(2001.5.28～29)	112	個人住宅	近世以降の溝1、遺物なし	町X1
42	東久保19街区10画地	(2001.4.18～4.21)	864	駐車場	近世以降の溝1、遺物なし	町X1
43	東久保15街区14・15画地	(2001.5.22～5.25)	142	個人住宅	遺構遺物なし	町X1
44	東久保19街区9・11・12画地	(2001.5.10～6.29)	757	倉庫	縄文時代溝と土坑1、溝列木跡、ピット5、溝2、縄文土器・石器他	町X1
45	東久保258-21	(2001.6.1)	100	個人住宅	遺構遺物なし	町X1
46	東久保17街区3・4画地	(2001.6.4～6.6)	135	個人住宅	溝1、縄文土器片2、磁器片1	町X1
47	東久保31街区6・13画地	(2001.10.11～10.26)	1,203	店舗	縄文時代溝と土坑1	町X1
48	東久保18街区9・10画地	(2001.12.12～12.25)	518	分譲住宅	遺構遺物なし	町X1
49	東久保13街区7画地	(2002.2.12～13)	100	分譲住宅	遺構遺物なし	町X1
50	東久保3街区22画地	(2002.9.24)	102	個人住宅	遺構遺物なし	町X2
51	東久保18街区11画地	(2002.12.3)	155	個人住宅	遺構遺物なし	町X2
52	東久保4街区3画地	(2003.2.6～7)	64	個人住宅	溝、井戸	町X2
53	東久保4街区10画地	(2003.5.7～5.22)	408	共同住宅	ピット1	町X2
54	東久保字東久保272(19街区1画地)	(2003.5.9～5.22)	798	共同住宅	溝3、ピット4、溝と土坑1	町X2
55	東久保字東久保488(18街区7画地)	(2003.4.9～6.12)	165	個人住宅	遺構遺物なし	町X2
56	東久保字東久保15街区12画地	(2003.7.31～8.1)	165	個人住宅	遺構遺物なし	町X2
57	東久保258-26(4街区14画地)	(2003.9.29～10.1)	133	個人住宅	遺構遺物なし	町X2
58	ふじみ野2-27-2	(2004.4.13～14)	558	分譲住宅	溝2	町X2
59	ふじみ野2-25-7-9	(2004.6.29/2004.7.12～7.23)	1,804	店舗	土坑4、ピット9、溝2	町X2・調14表
60	ふじみ野2-26-16	(2004.7.22～7.24)	337	個人住宅	ピット1	町X2
61	東久保26街区	2004.9.29～11.26	2,376	区高野理公園緑地	縄文時代土坑7、ピット9、溝6、(調査区内の一部は第27地点で調査済)	調14表
62	ふじみ野2-25-16	(2004.10.12～10.15)	220	宅地造成	溝3	町X2
63	ふじみ野2-5-10+12	(2006.1.2)	105	個人住宅	遺構遺物なし	町X2
64	ふじみ野2-18-6の一部	(2006.10.12～10.20)/2006.10.24～26	437	共同住宅	近世以降の溝1、溝4	町X3
65	ふじみ野2-22-2-5-7	(2008.1.18～28)	260	小学校増築	遺構遺物なし	町X3
66	ふじみ野2-19-4、19-5	(2008.5.22～6.11)	862	分譲住宅	溝3	町X3
67	ふじみ野2-25-10-11	(2009.11.9)	492	個人住宅	遺構遺物なし	町X3
68	ふじみ野2-18-3	(2010.11.22～2010.11.29～12.8)	791	分譲住宅	縄文時代集石1、近世以降の溝2、溝1、本調査	町X3
69	ふじみ野2-22-2・3・5の一部+6・7	(2011.3.28)	17,276	小学校増築	遺構遺物なし	町X3
70	ふじみ野2-18-8・9・10	(2013.1.16～24)	1,156	共同住宅	遺構遺物なし	町X3
71	ふじみ野2-27-1・9	(2013.6.17～19)	998	店舗	溝1、遺物なし	町X3
72	ふじみ野2-6-7	(2015.7.2)	100	個人住宅	溝1	未報告

※町：大井町町内遺跡群。調査：大井町遺跡調査委員会報告。市：ふじみ野市市内遺跡群



第 47 図 東久保遺跡第 71 地点遺構配置図 (1/300)、土層 (1/150)

第15章 駒林遺跡の調査

I 遺跡の立地と環境

駒林遺跡は、亀居遺跡付近を湧水源とする福岡江川の右岸、武蔵野台地の一段低い立川段丘面に立地し、標高12～15m前後の平坦地を形成する。もともと遺跡の範囲は南北300m、東西800mの範囲であったが、2002年～2004年に行った駒林土地区画整理事業に伴う試掘調査の結果、大溝を検出した南北160m、東西80mの範囲に遺跡を縮小し、さらに地下式坑を検出した周辺を駒林新田前遺跡として独立させ、新たな包蔵地として2004年3月に追加した。しかし、第3地点で検出した溝と過去の試掘調査で検出した溝の配置を再検討した結果、一辺140～160mの台形区画に溝が巡る事が明らかとなり、2008年2月に再び遺跡範囲の変更増補を行い、北側の葺石と板碑を検出した駒林中世墳墓と東側の地下式坑を検出し

た駒林新田前遺跡を統合した。区画整理後は開発が進み、宅地と商業地に変貌を遂げ部分的に畑が残っている。

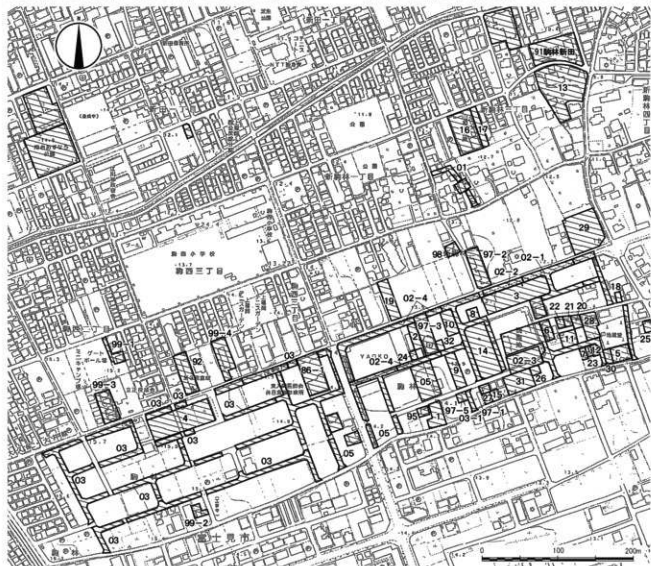
周辺の遺跡は500m下流に福岡新田遺跡、南側にも地下式坑を検出した富士見市の稲荷久保北遺跡がある。2002年以降の試掘調査の結果、幅5m、深さ2mの大溝や茶毘跡、縄文時代の集石土坑等を検出する。

II 駒林遺跡第29地点

(1) 調査の概要

調査は店舗建設に伴うもので、原因者より2013年5月1日付けて、「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の中央部東端に位置する。

申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため、



第48図 駒林遺跡の地形と調査区 (1/5,000)

2013年6月3日～17日に試掘調査を実施した。

試掘調査は、幅約1.5mのトレンチ11本を設定し、重機で表土除去後、人力による表面精査を行った。

現地表面から地山ローム層までの深さは40～100cmである。調査区全体に攪乱がみられる。

試掘調査の結果、中近世以降の溝5本、土坑2基を確認し、一部を検出した。遺構確認面までの深さと、開発の建物の配置等から遺跡への影響がないため、本調査は行っていない。また、旧石器時代の確認調査は行っていない。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえ埋め戻し、調査を終了した。

(2) 遺構と遺物

①土坑

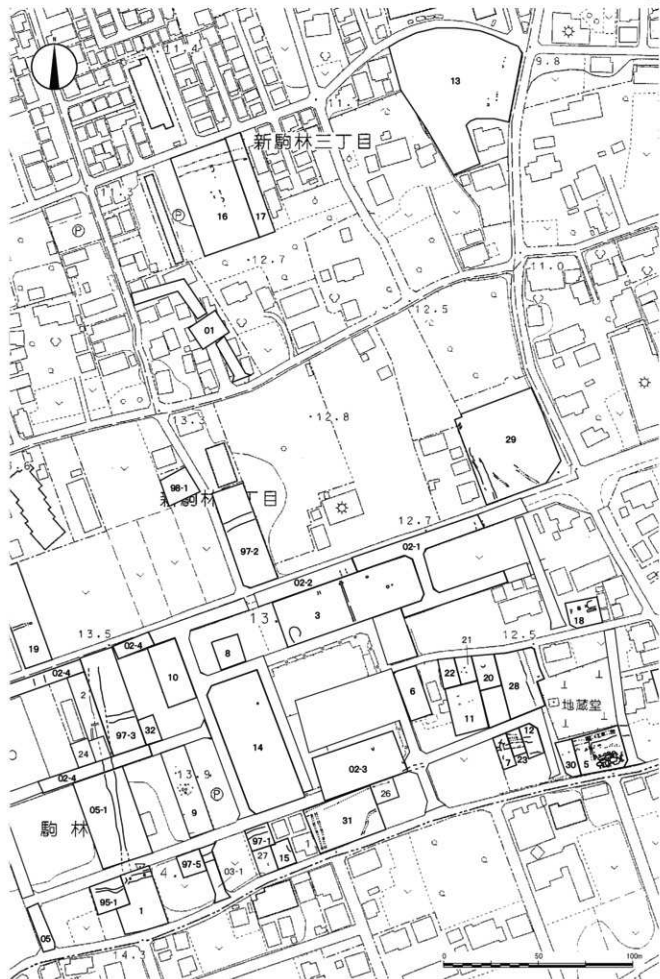
土坑1・2は調査区の北西部、トレンチ1で確認された。当初は一つの遺構と考えていたため、出土遺物も土坑として取り上げた。検出後に別の遺構としたが、全体を検出した訳ではないので全容は不明である。土層の観察から、北側を土坑1、南側を土坑2とした。土坑1・2共に平面形態は不明である。

土坑1・2の時期は出土遺物に型紙摺絵技法の磁器がみられない点から、19世紀末以前と考えられる。

【土坑1】規模は、確認面径345×(103)cm、底径275×(38)cm、深さ30cmである。

第 27 表 駒林遺跡調査一覧表

地点	所在地	調査期間 ()は試掘調査	面積 (m ²)	調査原因	確認された遺構と遺物	所収施設
1	駒林土地面整理事業地内 20 街区 4・8・9	2006.7.13～28	646	共同住宅	堀跡、茅葺跡検出	市内 3
2	駒林土地面整理事業地内 17 街区 7・8 の一部	2006.11.21～29	421	専用住宅	堀跡検出	市内 3
3	駒林土地面整理事業地内 21 街区 3・4 の一部	2006.11.30～12.18	1916	店舗	近世遺構建設	市内 3
4	駒林 8 地区 7 街区 3・4	2007.6.11～13	1866	共同住宅	縄文：土坑 1	市内 4
5	大字駒林字新田前 256(仮換地指定 30 街区 2)	(2008.4.9～16)2008.5.30～6.28	509	分譲住宅	縄文：集石 3、中近世：地下式 1、型伏遺構 25、溝 4、棚列、ピット	市内 5・6
6	大字駒林字新田前 248-2(仮換地 1 街区 27 号 1)	(2008.8.27)	257	個人住宅	遺構・遺物無し	市内 6
7	駒林土地面整理事業地内 28 街区 5 画地	(2009.2.3)2009.2.4・5	152	個人住宅	時期不詳の堀・溝跡 2	市内 6
8	大字駒林字新田前 245-5	(2009.6.8)	132	個人住宅	遺構遺物無し	市内 8
9	大字駒林字新田前 284	(2009.7.22～30)2009.7.30～8.5	892	共同住宅	縄文：集石土坑 1、土坑 2、ピット 9、溝 1	市内 8
10	大字駒林字新田前 288-1 の一部	(2010.2.17・18)	400	個人住宅	遺構遺物無し	市内 8
11	駒林区面整理事業 27 街区 2、10 画地、11 画地の一部	(2010.4.12～21)	689	個人住宅	遺構遺物無し	市内 10
12	駒林字新田前 258-2(28 街区 12 画地)	(2010.7.14)	115	個人住宅	中世～近世：溝跡	市内 10
13	新駒林 3-722-1・3・4	(2010.7.27～29)	927	共同住宅	近世の土坑 2、ピット 11	市内 10
14	駒林字新田前 285～287、288-2・3(22 街区内)	(2010.9.1～8)	2000	公園工事	遺構遺物無し	市内 10
15	大字駒林字新田前 266-3(24 街区 12 号 1)	(2011.2.16～17)2011.2.17	115	個人住宅	時期不詳の土坑 1	市内 10
16	新駒林 3-706	(2011.5.2～25)2011.5.25～6.1	1454	分譲住宅	堀、溝 1、戸戸 2、土坑 2、ピット 4、縄文土器片、近世陶磁器	市内 14
17	新駒林 3-707	(2011.5.16～19)	495	分譲住宅		
18	駒林 234-2、238-2(仮換地)、31-4・5	(2011.4.28～5.2)2011.8.25～31	238	個人住宅	土坑 2、近世陶磁器類	市内 14
19	新駒林 2-305-1	(2011.11.28～12.5)2011.12.12	671	分譲住宅	中・近世の溝 1、縄文土器	市内 14
20	駒林元町 1-3-13	(2012.3.5～8)	179	共同住宅	土坑 1	市内 14
21	駒林元町 1-3-13 の一部	(2012.3.5～8)	110	個人住宅	ピット 6、銅木版 1	市内 14
22	駒林元町 1-3-20	(2012.3.5～8)	118	個人住宅	遺構遺物無し	市内 14
23	駒林元町一丁目 4 番 12	(2012.4.10～16)	127	専用住宅	ピット 2、溝(うち 1 は掘削)、遺物なし	市内 15
24	駒林元町二丁目 1-7	(2012.5.16)	127	個人住宅	遺構遺物無し	市内 15
25	駒林元町一丁目 2 番 7	(2012.6.4)	212	個人住宅	遺構なし、土器	市内 15
26	駒林元町一丁目 5 番 16	(2012.8.29・30)	136	個人住宅	ピット 6、溝 1、遺物なし	市内 15
27	駒林元町 1-5-9・10	(2012.12.21)	133	個人住宅	時期不明土坑 1、遺物なし	市内 15
28	駒林元町 1-3-8・14～16	(2013.2.21～25)2013.5.21～27	1208	宅地造成	中近世以降埋跡、溝 1、磁器片、須恵器、陶器	市内 14
29	新駒林 2-231-1	(2013.6.3～17)	2200	店舗	溝 6、土坑 2、石蔵、近世陶磁器	市 18
30	駒林元町 1-3-7	(2013.6.19・20)	68	個人住宅	近世以降ピット 3、陶磁器	市 18
31	駒林元町 1-5-5・6	(2013.9.17～27)	925	宅地造成	溝 4	市 18
32	駒林元町 2-1-16	(2014.2.10)	132	個人住宅	遺構遺物なし	市 18



第49図 駒林遺跡遺構分布図 (1/2,000)

【土坑2】 規模は、確認面径 375 × (103) cm、底径 156 × (38) cm、深さ 78 cm である。

②溝

【溝1】 溝1は調査区の西部を南北に延び、トレンチ2内の一部を検出したため、全容は不明である。規模は上幅135cm以上、下幅105cm以上、深さ75cmである。

【溝2・3】 溝2・3は調査区の北西端に位置し、並行する。断面形態は共に逆台形を呈する。

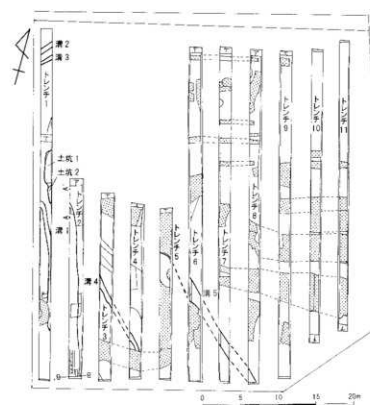
溝2の規模は上幅70～80cm、下幅10～28cm、

深さ23.4cmである。

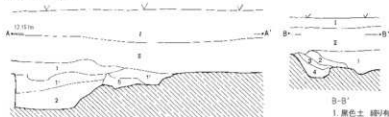
溝3の規模は上幅36～54cm、下幅15～32cm、深さ16cmである。

【溝4】 溝4は調査区の南西部、トレンチ3・4に位置する。断面形態は浅い「U」字状で、規模は上幅42～76cm、下幅20～40cm、深さ13cmである。

【溝5】 溝5は調査区中央部の南端に位置する。断面形態は逆台形で、規模は上幅90～130cm、下幅35～50cm、深さ50.7cmである。

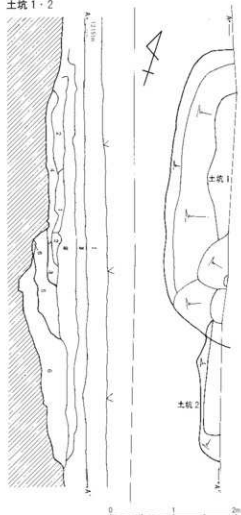


トレンチ2・溝1



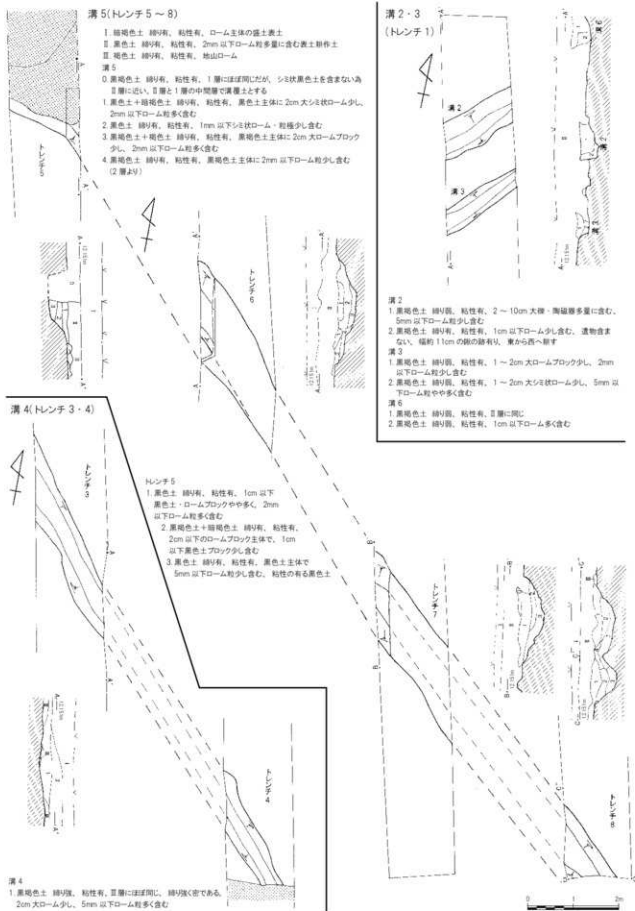
- I 暗褐色土 締り有、粘性有、ローム主体の遺土表土
 - II 黒色土 締り有、粘性有、2mm以下ローム粒多量に含む表土新成土
 - III 褐色土 締り有、粘性有、地山ローム
- A-A'
- 1 黒色土 締り有、粘性有、1cm以下黒色土、ロームブロックや多く、2mm以下ローム粒多く含む
 - 1' 黒褐色土 締り弱、粘性有、1層よりローム粒少なくや締り弱い
 - 2 黒褐色土+暗褐色土 締り有、粘性有、2cm以下のロームブロック主体で1cm以下黒色土ブロック少し含む
 - 3 黒色土 締り有、粘性有、黒色土主体で5mm以下ローム粒少し含む、粘性の有る黒色土
 - 4 黒色土 締り有、粘性有、1・2層の間隙にロームを含む、黒色土主体に2cm以下ロームブロックや多く含む
 - 5 暗褐色土 締り弱、粘性有、ローム主体で2cm大ロームブロック少し、1cm以下ロームブロック・粒多く含む、シズ状に黒褐色土全体の含む

土坑1・2



- B-B'
- 1 黒色土 締り有、粘性有、1cm以下ロームブロック少し、2mm以下ローム粒多量に含む
 - 2 黒褐色土 締り有、粘性有、1cm以下シズ状・ブロック状ローム多く、2mm以下ローム粒多く含む
 - 3 暗褐色土 締り有、粘性有、ロームブロック層にシズ状黒褐色土少し含む
 - 4 黒褐色土 締り有、粘性有、2cm大ロームブロックを下面に少し、2mm以下ローム粒多く含む、1層と2層の間隙のような層
- 土坑
- 1 黒褐色土 締り弱、粘性有、II層主体に1cm以下ロームブロック少し含む
 - 2 黒褐色土+暗褐色土 締り弱、粘性有、黒褐色土とロームの混合土
 - 3 黒褐色土 締り弱、粘性有、2層主体にやや2層よりローム少ないだけほぼ同じ
 - 4 暗褐色土 締り弱、粘性有、ローム主体にシズ状に黒褐色土少し含む
 - 5 黒褐色土 締り弱、粘性有、黒褐色土主体に2・3層類似に3cm以下シズ状ローム少し、2mm以下ローム粒多く含む
 - 6 暗褐色土 締り弱、粘性有、ブロック状のローム主体にシズ状黒褐色土少し含む、4層よりブロック状で4層化する

第50図 騎林遺跡第29地点遺構配置図(1/500)、土坑(1/60)



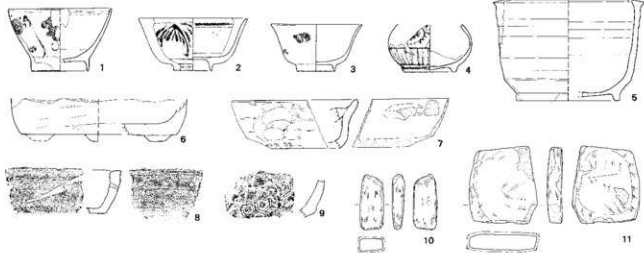
第51図 駒林遺跡第29地点溝 (1/80)

【溝6】 溝6は調査区北西端に位置する。トレンチ1の土層でのみ確認した。溝2・3に土層が類似するため溝としたが、全容は不明である。断面形態は逆台形、規模は上幅70cm以上、下幅25cm、深さ45cmである。

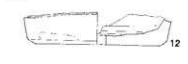
③遺物 (第52図1～23)

1～11は土坑1・2出土である。12は溝1、13～18は溝2、19～23は遺構外出土である。詳細については第28表参照。

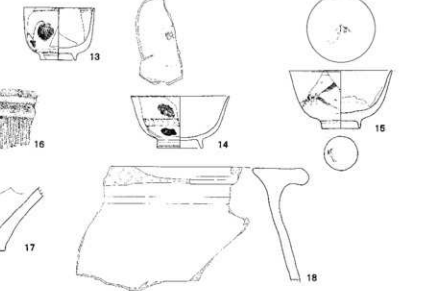
土坑



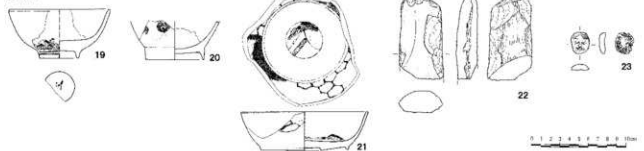
溝1



溝2



遺構外



第52図 駒林遺跡第29地点出土遺物 (1/4)

第28表 駒林遺跡第29地点出土遺物観察表 (単位 cm)

編號	出土遺物名	種類・器種	口径・長さ	底径・幅	高さ・厚さ	技法・文様・その他	推定産地	推定年代
1	土坑	磁器/広葉碗	(11.0)	(5.8)	6.6	輪埴成形/染付/草花文、口縁内二重開線。見込み開線。文様有り/費付無効/胎土：灰色	肥前	1780～1830
2	土坑	磁器/磁反碗	(10.4)	(4.0)	5.5	輪埴成形/染付/草花文、口縁・腹部開線。高台二重開線。口縁内二重開線。見込み開線。文様有り/費付無効	瀬戸・美濃	1850～1860
3	土坑	磁器/磁反碗	9.8	4.1	5.0	輪埴成形/染付/梅花文散らし/費付無効	瀬戸・美濃	1820～1830
4	土坑	磁器/油壺	—	5.5	(5.0)	輪埴成形/染付/腹部縮唐草文・腹部垂片文、高台開線/内面・費付無効	肥前	18c 後半～19c 初頭
5	土坑	陶器/平製埴	(16.0)	(10.8)	10.7	輪埴成形/器胎/高台無効。口縁上部に白灰	瀬戸・美濃	18c 後半～
6	土坑	土器/火鉢	—	(16.3)	(4.5)	輪埴成形/製部焼き。三足形/胴丸形/瓦葺/胎土に赤色粘土含む	在産	18c 中～19c 前半
7	土坑	土器/磁塔	—	—	5.0	輪埴成形/内底(内壁から底部)貼付。外面に保・内耳部分の前面に瓦葺/平底/土葺瓦/胎土に雲母含む	在産	17c 中～
8	土坑	土器/磁塔	—	—	4.5	輪埴成形/穿孔1箇所。外面に保/平底/土葺瓦	在産	18c～
9	土坑	土器/火鉢か風炉	—	—	(4.0)	輪埴成形/外面亀甲文/瓦葺/胎土に雲母含む	在産	15c
10	土坑	磁石	(5.8)	2.5	1.4	石材：凝灰岩/重量：27.28g/色調：白色/4面使用	—	近世以降
11	土坑	瓦(磁石に転用)	8.2	7.2	1.7	胎土に赤色粘土含む/重量：109.6g/4面使用	—	近世以降
12	溝1	陶器/壺	—	13.6	(3.3)	輪埴成形/器胎/内面無効/筒型	瀬戸・美濃	18c～19c
13	溝2	磁器/筒形碗	(7.4)	3.75	5.5	輪埴成形/コバルト染付・毛彫り/河湾文、口縁部開線。腹部二重開線間に七宝文・唐草文。口縁内二重開線/費付無効	瀬戸・美濃	1810～1870
14	溝2	磁器/磁反碗	(10.4)	4.6	5.5	輪埴成形/染付/草花文、口縁・腹部開線。高台二重開線。口縁内三重開線。見込み・幅/費付無効	瀬戸・美濃	1810～1850
15	溝2	磁器/磁反碗	(10.8)	4.0	6.1	輪埴成形/染付/草花文、口縁・腹部開線。高台二重開線。見込み開線・花文/外面「村ノ三」捺印五右衛門/費付無効	肥前	1850～1860
16	溝2	磁器/磁鉢	—	—	(5.7)	輪埴成形/胎土：赤褐色土肌毛塗り。砂粒。底部内面に砂埋付着	瀬・明石	18c 後半～19c 初頭
17	溝2	磁器/大甕	—	(19.0)	(6.7)	輪埴成形/外面に赤褐色土肌毛塗り。砂粒。底部内面に砂埋付着	常滑	19c 前半～
18	溝2	磁器/大甕	—	—	(12.1)	輪埴成形/口縁1部に自然釉。胴部内面に帯状の自然釉	常滑	19c 前半～
19	遺構外	磁器/丸形碗	(10.6)	4.1	5.2	輪埴成形/染付/梅花文、高台二重開線。外面に唐し露/費付無効/胎土：灰白色	肥前	1710～1800
20	遺構外	磁器/広葉碗	—	6.3	(4.1)	輪埴成形/染付/草花文/費付無効。見込みに白線3つ	肥前	1780～1830
21	遺構外	磁器/皿	(12.4)	9.0	4.1	輪埴成形/染付/龍/目形高台/外面灰文。内面亀甲文。草文。見込みに山水文/胎土：灰白色	肥前	1760～1820
22	遺構外	打製石斧	(8.9)	(4.7)	2.3	石材：中粒砂岩/重量：133.0g/刃部欠割/右側面・裏面の一部に摩滅面有り	—	縄文時代
23	遺構外	瓦面子/芥子面	2.25	1.9	0.7	型抜き成形/人面(童子)/重量：2.98g/裏面に曲指痕。表面に雲母付着	江戸近郊	1790～1890

III 駒林遺跡第30地点

(1) 調査の概要

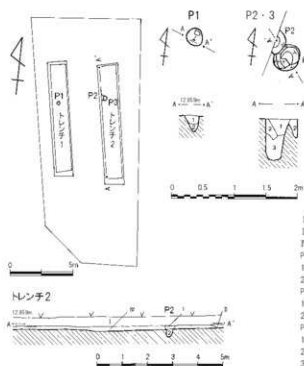
調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より2013年6月17日付けで、「埋蔵文化財事前協議書」

がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の南東部に位置する。

申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため、2013年6月19・20日に試掘調査を実施した。

試掘調査は、幅約1.5mのトレンチ2本を設定し、重機で表土除去後、人力による表面精査を行った。

現地表面から地山ローム層までの深さは約35cmである。試掘調査の結果、時期不明のピット3基を確認し、一部を検出した。旧石器時代の確認調査は行ってない。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえ埋め戻し、調査を終了した。



- I. 暗褐色土 砂り混。粘性有。盛土の表土層
- II. 黒褐色土 砂り混。粘性有。2mm以下ローム粒多。陶器土少し含む
- IV. 褐色土 砂り混。粘性有。加山ハードローム
- P1
- 1. 黒色土 砂り混。粘性有。2cm大シタ状ローム少し。2mm以下ローム粒少し含む
- 2. 暗褐色土 砂り混。粘性有。暗褐色土主体にシタ状に黒褐色土。2mm大ローム粒少し含む
- P2
- 1. 黒褐色土 砂り混。粘性有。2mm以下ローム粒多含む。1mm粒土極少し含む
- 2. 暗褐色土 砂り混。粘性有。1層より2mm以下ローム粒多。盛土は同程度含む
- P3
- 1. 黒褐色土 砂り混。粘性有。1cm以下シタ褐色土少し。1mm大ローム粒少し含む
- 2. 暗褐色土+黒褐色土 砂り混。粘性有。2cm大ロームブロック多。2mm以下ローム粒少し含む
- 3. 黒褐色土 砂り混。粘性有。やや明るい黒褐色土で。2mm以下ローム粒多含む

第53図 駒林遺跡第30地点遺構配置図 (1/300)、土層 (1/150)、ピット (1/60)

(2) 遺構と遺物

①ピット

ピットは3基検出したが、遺物も無く時期も不明であり、今回は遺構としては取り扱わない。

ピット1～3はほぼ円形を呈する。ピット1の規模は、確認面径 27×25 cm、底径 9×6 cm、深さ36.9 cmである。ピット2の規模は、確認面径 $37 \times (17)$ cm、底径 $18 \times (7)$ cm、深さ82.3 cmである。ピット3の規模は、確認面径 43×40 cm、底径 17×13 cm、深さ69.2 cmである。

IV 駒林遺跡第31地点

(1) 調査の概要

調査は宅地造成に伴うもので、原因者より2013年7月5日付けで、「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の南端に位置する。

申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため、2013年9月17日～27日に試掘調査を実施した。試掘調査は、幅約1.5 mのトレンチ8本を設定し重機で表土除去後、人力による表面精査を行った。

現地表面から地山ローム層までの深さは約60～80 cmである。試掘調査の結果、駒林遺跡を囲む堀跡の続きと新たに溝3本を確認し、一部を検出した。旧石器時代の確認調査は行っていない。造成工事による遺跡への影響が無いため、写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえ埋め戻し、調査を終了した。

(2) 遺構と遺物

①溝

溝1は前述のとおり堀状を呈し、その他に新たに溝3本を検出した。

【溝1】 溝1は、1997・2002・2006年度の試掘調査等で、駒林遺跡を囲むように検出されている、堀状遺構の続きである。今回溝1はプランの確認のみで検出していないが、上幅は約2.2 mである。

【溝2】 溝2は調査区の南西部に位置しやや蛇行しながら調査区外に延びる。断面形態は逆台形を呈する。

規模は上幅75～115 cm、下幅20～53 cm、深さ52 cmである。出土遺物なし。

【溝3・4】 溝3・4は調査区の西部に位置し、南北に平行して延びる。溝3の東側に区画整理事業以前の道路跡が、本遺構に関係する可能性も考えられる

溝3・4は溝1と重複するとみられるが、新旧関係は不明である。ただし、溝3・4の覆土層の観察から溝1が古いと考えられる。

両溝の断面形態は、共に浅い「U」字状を呈する。溝3の規模は上幅63～70 cm、下幅13～20 cm、深さ18.9 cmである。溝4の規模は上幅57～62 cm、下幅29～31 cm、深さ11.5 cmである。両溝ともに出土遺物なし。

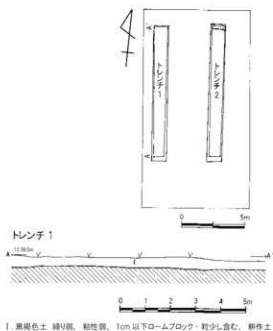
V 駒林遺跡第32地点

(1) 調査の概要

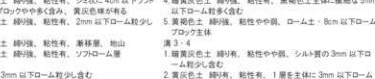
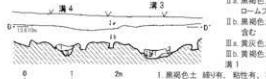
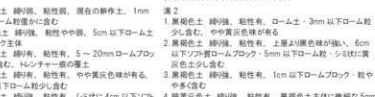
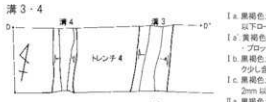
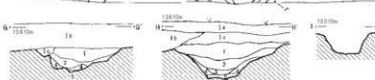
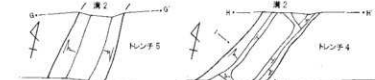
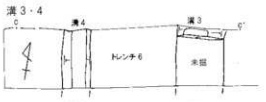
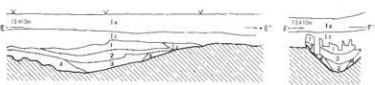
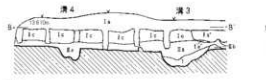
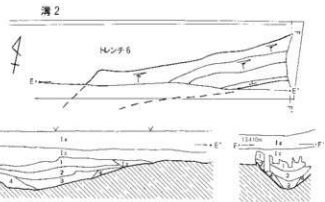
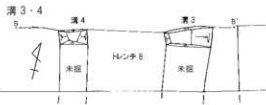
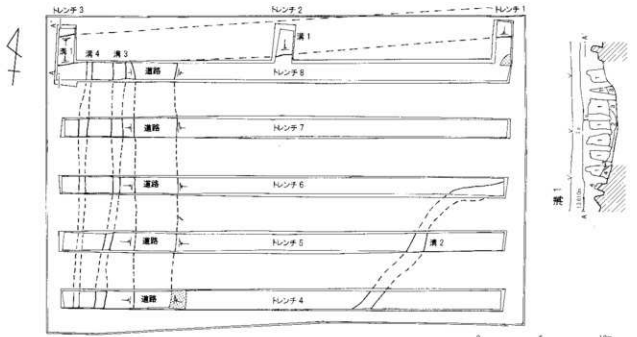
調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より2014年1月16日付けで、「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の中央部に位置する。

申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため、2014年2月10日に試掘調査を実施した。試掘調査は、幅約1 mのトレンチ2本を設定し重機で表土除去後、人力による表面精査を行った。

現地表面から地山ローム層までの深さは約40 cmである。試掘調査の結果、遺構と遺物は確認されなかった。旧石器時代の確認調査は行っていない。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえ埋め戻し、調査を終了した。



第54図 駒林遺跡第32地点調査区区域図(1/300)、土層(1/150)



- 1. 黒褐色土 粘り強、粘性有、3mm以下ローム粒少し含む
- 2. 黒褐色土 粘り強、粘性有、硬化している、2mm以下ローム粒少し含む
- 3. 黒褐色土 粘り強、粘性有、5mm以下ローム粒・6cm硬少し含む
- 4. 暗黄灰色土 粘り強、粘性有、ソフトローム土やや多く含む
- 5. 黒褐色土 粘り強、粘性有、ローム土・3mm以下ローム粒少し含む、やや黄灰色味がある
- 6. 黒褐色土 粘り強、粘性有、5~20mmロームブロック少し含む、トレンチヤー痕の層土
- 7. 黒褐色土 粘り有、粘性有、やや黄灰色味がある、2mm以下ローム粒少し含む
- 8. 黒褐色土 粘り強、粘性有、シズに4cm以下ソフトロームブロックやや多く含む、黄灰色味がある
- 9. 黒褐色土 粘り強、粘性有、2mm以下ローム粒少し含む
- 10. 黄灰色土 粘り強、粘性有、層移層、地山
- 11. 黄褐色土 粘り強、粘性有、ソフトローム層
- 12. 黒褐色土 粘り強、粘性有、ローム土・3mm以下ローム粒少し含む、やや黄灰色味がある
- 13. 黒褐色土 粘り強、粘性有、上層より黒色味が強い、6cm以下ソフトロームブロック・5mm以下ローム粒・シズに黄灰色土少し含む
- 14. 暗黄灰色土 粘り強、粘性有、1cm以下ロームブロック・粒やや多く含む
- 15. 暗黄灰色土 粘り強、粘性有、黒褐色土主体に層間5mm以下ローム粒多く含む
- 16. 黄褐色土 粘り強、粘性有、ローム土・8cm以下ロームブロック主体

第55図 駒林遺跡第31地点遺構配置図(1/300)、溝(1/80)

第16章 福岡新田遺跡の調査

I 遺跡の立地と環境

福岡新田遺跡は、亀居遺跡付近を湧水源とする福岡江川の右岸、武蔵野台地の一段低い立川段丘面上で、標高7～10 m前後の平坦地に位置する。遺跡周辺は福岡江川が僅かに南に湾曲し、江川の侵食による蛇行なのか、埋没谷や湧水などの影響によるものかは不明である。江川から南に広がる窪地と周辺部には僅かな微高地状の起伏もみられる。

福岡新田は江戸時代の慶安年間(1648～52年)に川越藩の新田開発により成立した村で、『新編武蔵風土記稿』によると、村域は江川左岸の「東西25町許、南北5町」とあり、東西約2.7 km・南北約500 mである。

遺跡範囲は当初、江川の北側にも延びていたが、北側は松山遺跡に統合し、南側のみを福岡新田遺跡とした。遺跡の範囲は南北230 m、東西240 mであるが、広がる可能性もある。

遺跡周辺は宅地開発もされるが、畑地も多く残っている。周辺の遺跡は、江川の対岸に松山遺跡、200 m東側に鷺森遺跡、350 m西側に駒林遺跡(2008年駒林新田前遺跡と統合)がある。

本遺跡周辺の調査は、1982年新田2丁目の試掘調査以来、2016年7月現在5ヶ所で実施している。2013年1月、第4地点の本調査で奈良平安時代の住居跡1軒を検出、遺物も出土している。

II 福岡新田遺跡第5地点

(1) 調査の概要

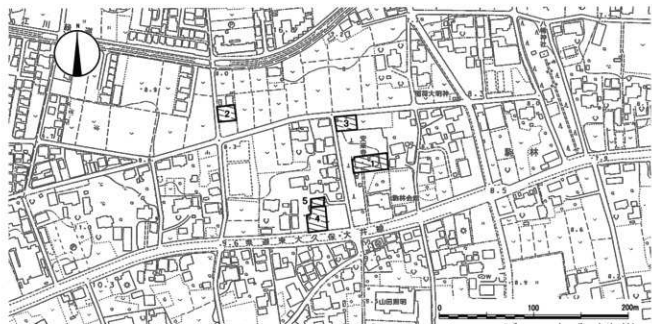
調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より2013年10月9日付けで、「埋蔵文化財前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の中央部に位置する。

申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため、2013年12月18日～19日に試掘調査を実施した。

試掘調査は、幅約1.5 mのトレンチ2本を設定し重機で表土除去後、人力による表面精査を行った。

現地表面から地山ローム層までの深さは約50～60 cmである。試掘調査の結果、調査区全体に攪乱がみられ、遺構と遺物は確認されなかった。旧石器時代の確認調査は行っていない。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえ埋め戻し、調査を終了した。

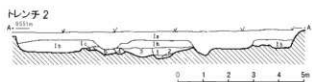
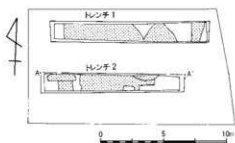
第57図1の遺物は、トレンチの攪乱から出土した平瓦である。厚さ1.2 cm、重さ165.01 g。近世以降。



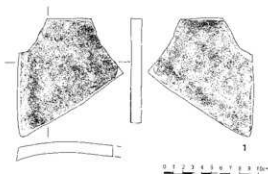
第56図 福岡新田遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

第29表 福岡新田遺跡調査一覧表

地点	所在地	調査期間 ()は試掘調査	面積 (㎡)	調査原因	確認された遺構と遺物	所収報告書
1982年度新田2丁目遺跡試掘	新田2-481～482	(1982.8.27～9.14)	1,454	民間開発	近世陶磁器, 松山遺跡に変更	埋蔵文化財の調査(V)
1989年度新田遺跡試掘	新田字本新田400-1	(1989.6.22～27)	495	宅地造成	遺構遺物なし, 松山遺跡に変更	埋蔵文化財の調査(12)
1991年度福岡新田試掘	駒林817-1	(1991.4.23～26)	482	個人住宅	自然埋没でなく後世盗土	埋蔵文化財の調査(14)
1991年度駒林新田試掘	駒林新田727-1・3	(1991.8.3)	2,186	共同住宅	遺構遺物なし, 駒林遺跡に変更	埋蔵文化財の調査(14)
1992年度福岡新田試掘	中福岡362	(1992.7.17～22)	998	共同住宅	遺構遺物なし, 松山遺跡に変更	埋蔵文化財の調査(15)
1	駒林字寺館861-1, 861-1, 862・864・865の一室	(2007.10.9～24)	1,754	寺院建設	中・近世以降の土坑6, 溝5, 竪穴土器, 近世陶磁器	市内遺跡第4
2	駒林字寺館841-3	(2011.9.12～14)	231	個人住宅	遺構遺物なし	市内遺跡第14
3	駒林字寺館869-4	(2012.12.18)2012.12.19～21	281	個人住宅	土坑3, 溝4, ビット10, 土器	市内遺跡第15
4	駒林859-1	(2013.1.7)2013.1.8～23	568	駒林会館	平安時代住居1, 土坑4, 溝2, 近世以降のイモビツ, 土師器, 陶磁器	市内遺跡第15
5	駒林寺館852-2・7	(2013.12.18・19)	153	個人住宅	遺構なし, 平瓦	市内遺跡第18



- 1 a. 黄褐色・暗褐色土 締り強, 粘性有, 近年の塵土及び埋瓦, ローム土多く含む, 最下部に緑灰色砂礫や多く含む(トレンチ1の埋瓦には入瓦土多し)
- 1 b. 黒褐色土 締り強, 粘性有, 黄灰色球がある, 2cm以下ロームブロック・粒やや多く含む, 東半は炭化物由来の黒色土も多く含む
- 1 c. 黄褐色土 締り有, 粘性有, 1cm以下ロームブロック・粒やや多く含む
- 1 黄褐色土 締り強, 粘性有, 黄灰色球がある, 5cm以下ロームブロック・5mm以下ローム粒多く含む
- 2 黄灰色土 締り強, 粘性有, シズクに2cm以下ロームブロック状, 3mm以下ローム粒多く含む
- 3 黄褐色土 締り強, 粘性有, 5～20mmロームブロック・5mm以下ローム粒やや多く含む
- 4 黄灰色土 締り強, 粘性有, 1cm以下ロームブロック・粒多含む
- 5 黄灰色土 締り強, 粘性有, 5～20mmロームブロック少し, 3mm以下ローム粒多く含む



第57図 福岡新田遺跡第5地点調査区域図(1/300)、土層(1/150)、出土遺物(1/4)

第 17 章 鷺森遺跡の調査

I 遺跡の立地と環境

鷺森遺跡は、亀居遺跡付近を湧水源とする福岡江川の右岸、武蔵野台地の一段低い立川段丘面上で、大井台と呼ばれる低位台地に位置する。標高は約7～8mの微高地上で、遺跡の北側には上福岡江川が東西に流れ、東方には、荒川低地の古入間湾が広がり、新河岸川が南北に蛇行する。

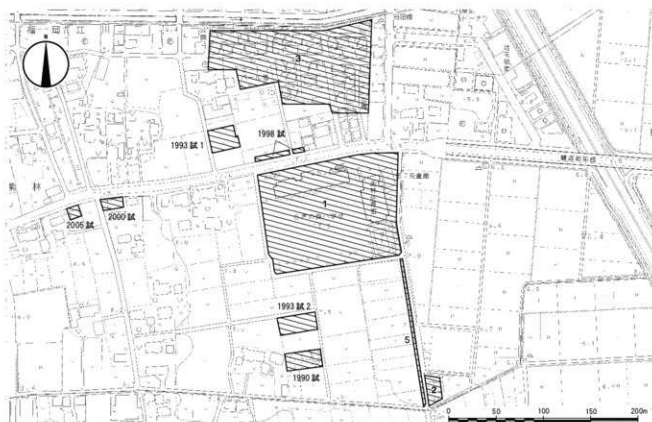
遺跡の範囲は東西270m、南北350mで、市内でもまだまだ田畑が残り、のどかな田園風景が広がる地域である。

周辺の遺跡は、西方約200mに福岡新田遺跡、南に富士見市鍛冶海戸遺跡と宮廻遺跡が接する。

本遺跡は、さぎの森小学校（旧上福岡市立第七小学校）建設に伴い1980年に本調査が行われ、縄文時代

第 30 表 鷺森遺跡調査一覧表

地点	所在地	調査期間 ()は試掘調査	面積 (㎡)	調査原因	確認された遺構と遺物	所収報告書
1	大字駒林字鷺森 1236、1237	(1980.7.31～10.24) (1981.1.17～28)	16,000	小学校	縄文住居跡15、土坑689、溝19、 洗い場跡4	鷺森遺跡調査郷土史料 第33集
2	大字駒林字高平 1293-5	(2000.4.6～5.16)	495	個人住宅	縄文土器	埋蔵文化財の調査(Ⅷ) 郷土史料第32集
3 試掘調査	駒林 952 他	(1986.12.26～27)	9,000	民間開発	遺構・遺物なし	上福岡市の社会教育
試掘調査 1990 試	駒林字鷺森 49-4-7	(1990.9.13～20)	394	個人住宅	遺構・遺物なし	埋蔵文化財の調査(13) 郷土史料第41集
試掘調査(1)1993 試1 試掘調査(2)1993 試2	駒林字宮元 950-1、3 駒林字鷺森 51-1	(1993.4.20～22) (1993.8.2～10)	516740	共同住宅	遺構・遺物なし遺構・遺物なし	埋蔵文化財の調査(16) 郷土史料第45集
試掘調査 1998 試	駒林字宮元 938-4、939-1・3、951-1	(1998.11.30～12.1)	322	熊道長船工市及び 市下水道	縄文土器、須恵器、土師器の破片	埋蔵文化財の調査(21) 郷土史料第50集
試掘調査 2000 試	駒林字鷺森 1-1	(2000.1.21～24)	190	個人住宅	遺構・遺物なし	埋蔵文化財の調査(22) 郷土史料第51集
試掘調査 2005 試	駒林字市金 76、77-1、78-3 の各一部	(2005.5.31～6.2)	300	個人住宅	遺構・遺物なし	市内遺跡部 1
5	駒林字高平 1271-3 の各一部	(2013.10.3～8)	322	道路	遺構・遺物なし	市内遺跡部 18



第 58 図 鷺森遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

前期後半の諸磯期の集落跡等が調査された。諸磯 a～b 期の住居跡 15 軒、土坑 689 基、近世～近代の溝 19 本と洗い場 4 ケ所等を検出、縄文時代、近世以降の遺物多数等が出土した。その後、周辺部で試掘調査が行われているが、遺構や遺物は確認されていない。

本遺跡周辺の調査は、2016 年 7 月現在 5 ケ所で実施している。

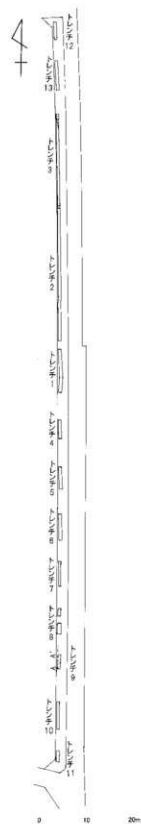
II 鷺森遺跡第5地点

(1) 調査の概要

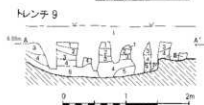
調査は市道拡幅に伴うもので、ふじみ野市長より 2013 年 4 月 17 日付で「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の東端に位置するため、試掘調査を実施した。

試掘調査は 2013 年 10 月 3 日～8 日まで行った。幅約 50 cm のトレンチ 13 本を設定し、重機で表土除去後、人力による表面精査を行った。

現地表面から地山ローム層までの深さは約 70 cm である。試掘調査の結果、トレンチ 9 で風倒木痕を確認したが、遺構や遺物は確認されなかった。旧石器時代の確認調査は行っていない。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえ埋め戻し、調査を終了した。



- I. 緑褐色土 緑弱粘、粘性有。現在の耕作土。5mm 以下ローム粒少し含む
- II. 緑褐色土 緑弱粘、粘性強。黄灰色味がある。シミ状に灰白色粘土を多く含む。粘性が強い
- III. 緑褐色土 緑弱粘、粘性有。シミ状にローム土や黒褐色土を少し含む。2mm 以下ローム粒・炭土・炭化物少し含む。
自然堆積
- IV. 黄褐色土 緑弱粘、粘性有。地山ローム。プランシシミ状に 5mm 以下ローム粒を伴う黒褐色土が見られる
 1. 黄褐色土 緑弱粘、粘性有。シミ状に黒褐色土や多く含む
 2. 黒褐色土 緑弱粘、粘性強。5mm 以下ローム粒や多く含む
 3. 黄褐色土 緑弱粘、粘性有。ローム土主体
 4. 黒褐色土 緑弱粘、粘性有。5mm 以下ローム粒や多く含む
 5. 緑黄褐色土 + 黒褐色土 緑弱粘、粘性有。15cm 大大型のロームブロック、黒褐色土ブロックが混ざる



第 59 図 鷺森遺跡第5地点調査区域図 (1/800)、土層 (1/60)

第18章 西ノ原遺跡の調査

I 遺跡の立地と環境

西ノ原遺跡は、東武東上線ふじみ野駅の南西約300m、さかい川の谷頭部から約500m下った右岸、標高18～21mに位置する。さかい川は現在の富士見市勝瀬字茶立久保付近に湧き水源を持つ伏流水で、東から西へ流れて人間川の支流新河岸川に注ぐ。かつては水量も豊富であったと言われるが、現在は下水路となっている。西ノ原遺跡とさかい川との高低差は2～3mで、武蔵野台地縁辺で一段低い部分、さかい川が侵食によって作り出した低位台地上に立地する。

周辺の遺跡は、下流に中沢前遺跡が隣接し、さらに下流域には神明後遺跡、苗間東久保遺跡、浄輝寺跡遺跡等縄文時代の集落が存在する。さかい川対岸には東久保南遺跡と富士見市のオトウカ山があり、その下流には縄文時代中期後半集落の中沢遺跡が広がる。

本遺跡は昭和40年代頃までは武蔵野の面影を残す農村地帯であったが、区画整理事業とふじみ野駅の開設により、ここ数年開発の増加に伴い遺跡の破壊が進んでいる。同時に発掘調査も遺跡面積10haの約40%が調査されてきている。1971年以来2016年7

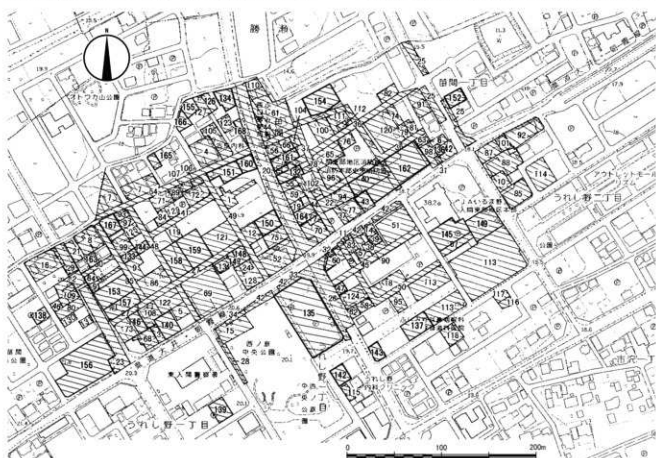
月現在で168地点に及ぶ調査で明らかになった遺跡の時期は、旧石器時代、縄文時代早期・中期・後期、平安時代、中世、近世である。特に縄文時代中期には、210軒を越す住居跡が環状集落として形成され、市内において東台遺跡と共に中期全般を通した良好な大規模集落跡であったことがわかる。

II 西ノ原遺跡第150地点(旭1-14-17)

(1) 調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より2013年5月20日付けで、「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。調査地は2012年1月23日～2月16日まで試掘調査を行い、住居跡等が確認されている。(ふじみ野市埋蔵文化財調査報告第12集『市内遺跡群11』2014.3)。現地表面から地山ローム層までの深さは約40～50cmである。申請者と協議の結果、遺跡への影響が避けられないため、2013年7月1日～26日まで本調査を実施した。

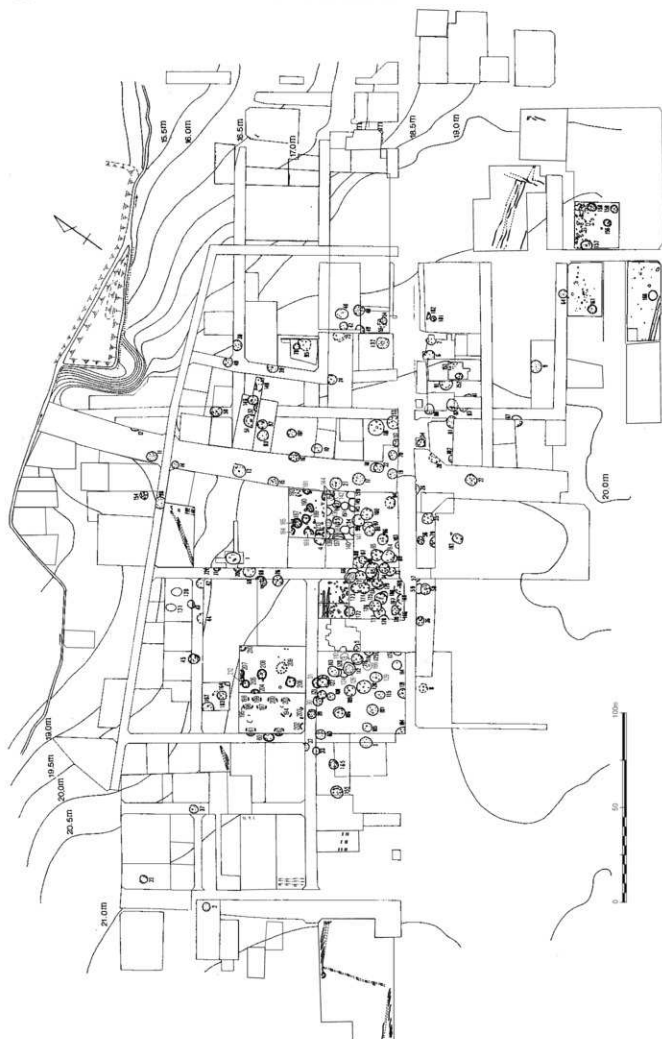
本調査は残土置き場の関係から、東西に分けて行っ



第60図 西ノ原遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

第31表 西ノ原遺跡調査一覧表

番号	所在地	調査期間 (調査開始日～調査終了日)	面積 (㎡)	調査内容	確認された遺構・遺物	所在地 番号
1		0971		住居跡(1)、土器・集石土器(1)	住居跡1	
2	西ノ原83	1978.12.6～12.29	270	住居跡	住居跡1、土器、集石土器、縄文土器1979ノ西ノ原遺跡	
3		1979.3		住居跡	土器・小石土器	
4	西ノ原125.1	1979.2.2～7.9	668	住居跡	竪溝跡1、竪穴中層土器	住居1
5		1979.8.1～8.14		竪穴中層土器	住居跡1、竪穴中層土器2、竪穴中層土器3、竪穴中層土器4、竪穴中層土器5	住居跡1
6	西ノ原170.2	1980.6.19～6.27	450	住居跡	土器、石土器、縄文土器(竪穴中層土器)	
7	西ノ原96.1	1980.10.1～10.29	363	住居跡	住居跡(竪穴中層土器)	住居
8	西ノ原95.2.9	1980.10.30～11.14	961	住居跡	竪穴中層土器2、土器1、土器2、竪穴中層土器	住居
9	西ノ原99.1.29.3	1981.8.1～6.23	600	住居跡	竪穴中層土器、土器、土器	住居
10	西ノ原180.2	1981.11.4～11.13	400	住居跡	竪穴中層土器	住居
11	西ノ原143.4	1983.5.23～5.27	168	住居跡	竪穴中層土器1、竪穴中層土器	住居
12	西ノ原123.3	1983.7.6～8.11	330	住居跡	竪穴中層土器1、竪穴中層土器	住居
13	西ノ原114.6	1983.9.13～10.18	350	住居跡	竪穴中層土器1、竪穴中層土器、集石土器1、土器1	住居
14	西ノ原143	1983.10.24～11.7	240	住居跡	竪穴中層土器1、竪穴中層土器、集石土器1、土器1	住居
15				住居跡	竪穴中層土器、セト土器	
16				竪穴中層土器		
17	西ノ原135.3	1985.5.13～5.22	165	住居跡	竪穴中層土器、土器1	住居
18	西ノ原141.2	1985.7.26～8.3	369	住居跡	竪穴中層土器1、竪穴中層土器1、セト土器	住居
19	西ノ原135.1	1986.7.8～7.21	230	住居跡	竪穴中層土器1、竪穴中層土器1、竪穴中層土器2	住居
20	西ノ原135.1	1986.11～1987.4	320	住居跡	竪穴中層土器4、竪穴中層土器1、竪穴中層土器2、竪穴中層土器3、竪穴中層土器4	住居
21	西ノ原95.1	1986.12.11～1987.3	447	住居跡	住居跡(竪穴中層土器)	住居
22	0987	0987	480	住居跡	竪穴中層土器1、竪穴中層土器1、セト土器	住居
23	0987.3～8	1204	住居跡	土器2		住居6
24	0987			竪穴中層土器2、竪穴中層土器		
25	1988.1～2	781	住居跡	竪穴中層土器		住居9
26	1988.3～4	1349	住居跡	住居跡、竪穴中層土器1、土器1、セト土器、竪穴中層土器		住居10
27	1988.10	942	住居跡	竪穴中層土器1、竪穴中層土器、セト土器、集石土器		住居11
28	1988.11			住居跡		住居12
29	1988.12			住居跡		住居13
30	1989.2～3			住居跡	土器1	
31	西ノ原115.1	1989.11.4～11.11	21	住居跡	竪穴中層土器	住居
32	西ノ原122	1989.1.10～1.19	21	住居跡	竪穴中層土器1、竪穴中層土器	住居
33	西ノ原153.2	1989.1.10～1.19	21	住居跡	竪穴中層土器1	住居
34	西ノ原131	1989.1.24～1.31	21	住居跡	竪穴中層土器1	住居
35	1989.2～3	4100	住居跡	竪穴中層土器1、土器1		住居8
36	1989.2～4	1000	住居跡	竪穴中層土器4、竪穴中層土器1、竪穴中層土器1		住居9
37	1989.5～8	200	住居跡			
38	西ノ原142.2	1989.8.29～9.12	74	住居跡	竪穴中層土器1、土器3	住居
39	西ノ原142.2	1989.8.29～9.12	84	住居跡	土器2、土器2	住居
40	1989.9.19～10.16、1989.10.19～11.4	160	住居跡	竪穴中層土器6、土器1、集石土器1、セト土器		住居
41	1989.9～10	476	住居跡	竪穴中層土器4、土器1		住居9
42	1991.12～1992.7	1000	住居跡	竪穴中層土器、土器19		住居
43	西ノ原153.3	1990.6.26～7.9	272	住居跡	竪穴中層土器4、土器3	住居1
44	1990.6～8	3224	住居跡	竪穴中層土器、セト土器1、竪穴中層土器1、土器16、集石土器1		住居9
45	1991.2			住居跡		
46	西ノ原93.2	1991.4.9～10	139	住居跡	竪穴中層土器1、土器1の穴	住居1
47	西ノ原130.2	1991.7.15～7.26	141	住居跡	竪穴中層土器1、土器1の穴	住居1
48	1991.9～10	2619	住居跡	竪穴中層土器1、土器3		住居9
49	1991.12～1992.1			住居跡	竪穴中層土器12、竪穴中層土器1、土器8	住居9
50	1991.11～12			住居跡	竪穴中層土器15、竪穴中層土器1、土器3	住居9
51	西ノ原153.2	1991.2.4～2.12	1190	住居跡	竪穴中層土器2、竪穴中層土器1、土器1	住居1
52	西ノ原122	1991.2.10～2.20	984	住居跡	竪穴中層土器14、竪穴中層土器7、土器5、集石土器1、セト土器	住居5
53	西ノ原132.2	1992.8	261	住居跡	竪穴中層土器	住居
54	1992.9～7			住居跡	竪穴中層土器1、土器1	住居9
55	西ノ原130.5	1992.9.21～6.23	241	住居跡	竪穴中層土器1、セト土器5、土器1	住居
56	西ノ原133.2	1992.8.23～6.26	261	住居跡	竪穴中層土器1、土器1、土器1、セト土器6、土器1	住居
57	西ノ原147.3.4	1992.7.6～9.1	174	住居跡	竪穴中層土器1、土器1	住居
58	西ノ原137.2	1992.8.6	142	住居跡	竪穴中層土器	住居
59	西ノ原135.1	1992.10.6～11.12	894	住居跡	竪穴中層土器1、竪穴中層土器3、セト土器11、集石土器1、土器1、セト土器	住居
60	西ノ原136.2	1992.12.19～12.23	210	住居跡	竪穴中層土器1、セト土器5	住居
61	西ノ原	1993.2	2340	住居跡	竪穴中層土器1、土器1、土器1、セト土器2、土器1	住居9
62	西ノ原192.3.163	1993.4.13～4.22	147	住居跡	竪穴中層土器1、土器1、土器1	住居
63	西ノ原94.3	1993.4.27～26	307	住居跡	竪穴中層土器、竪穴中層土器	住居
64	西ノ原145.1	1993.6.7～6.11	615	住居跡	竪穴中層土器13、竪穴中層土器1、土器1、土器1	住居
65	西ノ原133.2	1993.6.30～7.19	414	住居跡	竪穴中層土器、竪穴中層土器	住居
66	西ノ原139.2	1993.6.30～7.19	308	住居跡	竪穴中層土器1、セト土器	住居
67	西ノ原91.2.4	1994.3.22～3.25	285	住居跡	竪穴中層土器	住居
68	西ノ原106	1994.4.8～4.27	1421	住居跡	竪穴中層土器26、土器16、セト土器11、土器1	住居13
69	西ノ原136	1994.5	351	住居跡	竪穴中層土器4、土器14	住居9
70	西ノ原112	1994.6～7	300	住居跡	土器1、土器1	
71	西ノ原112.16	1994.11.2～11.26	351	住居跡	竪穴中層土器3、土器2、土器1	住居
72	西ノ原162.1	1994.3.27～3.29	274	住居跡	竪穴中層土器	住居
73	西ノ原162.1	1994.4.21～11.13	190	住居跡	セト土器	住居
74	西ノ原122	1995.3.16～5.23	390	住居跡	竪穴中層土器17、集石土器1、土器4、土器1、セト土器1、土器1	住居13
75	西ノ原151.2.8	1995.4.29～4.27	404	住居跡	セト土器1	住居
76	西ノ原143.2	1995.5.24～5.23	347	住居跡	竪穴中層土器6、土器16、土器4、セト土器5	住居13
77	西ノ原22.3	1995.6.26～8.4	45	住居跡	竪穴中層土器1	住居
78	西ノ原142.2.8	1995.6.29～7.24	135	住居跡	竪穴中層土器	住居
79	西ノ原83.2	1995.7.19～7.23	310	住居跡	竪穴中層土器	住居
80	西ノ原169	1995.8.2～8.7	223	住居跡	土器1、土器1	住居
81	西ノ原169	1995.8.1～8.5	240	住居跡	竪穴中層土器	住居
82	西ノ原130.2	1995.9.23～10.21	190	住居跡	竪穴中層土器2、集石土器2、土器2、セト土器2	住居
83	西ノ原106.109	1995.11.30～12.9	135	住居跡	土器1、セト土器5	住居
84	西ノ原181.3	1996.1.9～1.20	604	住居跡	竪穴中層土器	住居
85	西ノ原113.2	1996.4.19	168	住居跡	土器1、セト土器2、土器2	住居
86	西ノ原162.1	1996.6.14～6.17	344	住居跡	竪穴中層土器	住居
87	西ノ原182.3	1996.7.18～7.27	196	住居跡	土器1、セト土器1、土器1、土器1、土器1	住居13
88	西ノ原79.12	1996.7.17～18	143	住居跡	土器1、土器1の穴	住居
89	西ノ原130.2	1996.7.17～18	143	住居跡	土器1、土器1の穴	住居
90	西ノ原189	1996.8.7～8.30	177	住居跡	竪穴中層土器2、セト土器1、土器1、セト土器	住居
91	西ノ原189	1996.8.1～8.5	477	住居跡	竪穴中層土器	住居
92	西ノ原162.2	1996.10.23～10.26	684	住居跡	竪穴中層土器	住居
93	西ノ原315	1996.10.23～23	141	住居跡	竪穴中層土器1、土器1の穴	住居
94	西ノ原145.2	1996.11.11～12	105	住居跡	竪穴中層土器	住居
95	西ノ原154	1996.11.14～11.19	263	住居跡	セト土器	住居
96	西ノ原441	1996.12.17～12.20	375	住居跡	竪穴中層土器2、セト土器1、土器1	住居
97	西ノ原97.2	1996.12.19～20	141	住居跡	竪穴中層土器	住居
98	西ノ原171.2	1997.1.4	206	住居跡	竪穴中層土器	住居
99	西ノ原97.1	1997.1.20～1.24	390	住居跡	土器1、土器1、土器1、セト土器2、土器1	住居
100	西ノ原150.2	1997.4.5～4.12	447	住居跡	土器1、土器1、セト土器	住居
101	西ノ原183.1	1997.7.22～7.25	147	住居跡	セト土器	住居
102	大井原遺跡地区9地区	1997.10.19～10.20	179	住居跡	セト土器2	住居
103	西ノ原22.2	1997.10.19～10.21	223	住居跡	土器1、土器2	住居
104	西ノ原129.2.129.2	1997.11.12～11.22	363	住居跡	竪穴中層土器1、セト土器1、土器1	住居
105	西ノ原112	1998.1.26～2.4	135	住居跡	セト土器	住居
106	西ノ原112	1998.2.9～2.13	130	住居跡	セト土器1	住居
107	西ノ原91.1.2.1.29.1	1998.3.4～3.17	413	住居跡	竪穴中層土器1、土器1、土器1	住居
108	西ノ原81.4.429	1998.3.11～3.18	420	住居跡	竪穴中層土器	住居
109	西ノ原146.2	1998.4.20～5.20	365	住居跡	竪穴中層土器1、土器1、土器1	住居
110	大井原遺跡地区9地区	1998.10.23～10.27	304	住居跡	セト土器1、土器1、土器1	住居
111	大井原遺跡地区9地区	1998.10.27～10.29	304	住居跡	セト土器1、土器1、土器1	住居
112	大井原遺跡地区9地区	1998.2.9	144	住居跡	竪穴中層土器	住居
113	大井原遺跡地区9地区	1998.4.5～5.12	2817	住居跡	竪穴中層土器1、竪穴中層土器6、セト土器1、土器1、土器1	住居
114	西ノ原194.1	1998.8.4～8.12	636	住居跡	竪穴中層土器1、土器1、土器1	住居
115	大井原遺跡地区9地区	1998.9.27～9.29	135	住居跡	竪穴中層土器	住居
116	大井原遺跡地区9地区	1998.12.2～3	119	住居跡	竪穴中層土器	住居
117	大井原遺跡地区9地区	1998.12.2～12.4	131	住居跡	竪穴中層土器	住居



第61図 西ノ原遺跡構分布図 (1/2,000)

た。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋め戻し、調査を終了した。旧石器時代の確認調査は行っていない。

(2) 遺構と遺物

本調査で検出した遺構は、縄文時代中期の住居跡4軒(4号住居跡、139号住居跡、188号住居跡、213号住居跡)、土坑3基である。188号住居跡については、ふじみ野市埋蔵文化財調査報告第16集『市内遺跡群15』(2016.3)で報告済みのため、本書では割愛する。概要については第32表 西ノ原遺跡住居跡一覧表のとおりである。

試掘調査段階では4号住居跡と139号住居跡の続きとして調査を行ったが、整理作業の過程で別の住居跡が存在することが判明したので、新たに213号住居跡として報告する。

なお、139号住居跡については大井町遺跡調査会報告第13集『西ノ原遺跡Ⅲ 東台遺跡Ⅲ』1(2004.6)で概要を報告しているが、今回の調査でほぼ全容が判明したので、合わせて掲載する。

各住居跡のピットについては第33表のとおりである。

① 4号住居跡(旧1号住居址)

本住居跡について、1983年度に第12地点で検出した部分(旧1号住居址)と合わせて報告する。今回の調査では住居跡の北東隅の一部を検出したのみのため、遺物の出土状況及び出土遺物については、埼玉県

大井町文化財調査報告第14集『東部遺跡群発掘調査報告書V』(1984)を参照されたい。

【位置・時期】本住居跡は調査区の西隅に位置し、大部分は調査区外に隣接する第12地点に延びる。139号住居跡、213号住居跡と重複する。新旧関係は4号住居跡→139号住居跡→213号住居跡の順に新しくなる。

本住居跡は、第12地点の調査で周溝が2本検出されており、拡張等が行われている。住居跡の時期は、加曾利E1新期である。

【形状・規模】平面形態は隅丸長方形を呈する。規模は、長軸540cm、短軸485cm、深さ20~23cmである。

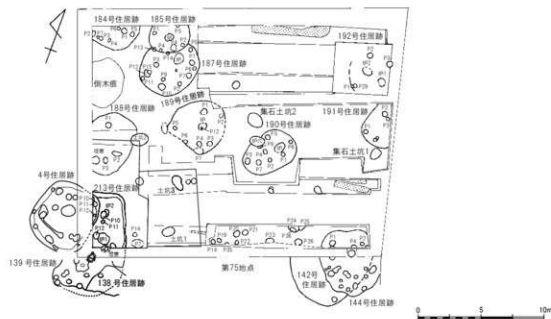
【炉】炉は住居跡中央部やや北側に位置する。石囲炉で形状は楕円形である。石囲に使用されたとみられる礫6点が出土する。

炉の規模は、長軸114cm、短軸84cm、底径は35×24cm、深さ15cmである。

【柱穴】柱穴は9本検出した。周溝内にも小ピットが検出される。各ピットの詳細は第33表のとおりである。

【遺物出土状況】総点数3,326点出土(1983年)。遺構確認時に多数の土器片が出土しているが、第63図遺物の分布図では確認されない。住居跡中央部に密に、壁際付近で粗に分布する一般的なレンズ状堆積である。このうち、完形品6点と推定復元可能土器は20点である。

【周溝】第12地点の調査では2重の周溝が検出され、



第62図 西ノ原遺跡第150地点遺構配置図(1/300)